



# 就業者の多拠点居住に関する定量調査 調査結果

## 多拠点居住の定義：

**主たる生活拠点を指定都市圏に持ちながら、別の都道府県にも生活拠点を設けて定期的に行き来する生活。**

※仕事（現業の主務、副業・兼業など）やワーケーション、ボランティア、趣味、家庭事情による特定地域への定期的な移動を対象とし、会社都合の不定期な出張や観光による訪問は対象外とした。

株式会社パーソル総合研究所 シンクタンク本部

共同研究機関：叡啓大学保井・早田研究室、クウジツ株式会社



PERSOL

パーソル 総合研究所

2016年以降、わが国の地方創生に関する政策においては、長期的な「定住人口」や短期的な「交流人口」の中間概念として「**関係人口**」を掲げ、地域とのなんらかの関係を交わす域外居住者の獲得を推進し、地域への貢献を期待してきた。しかし、「関係人口」という曖昧性を許容した概念は、地域政策における指標として機能している面とともに、地域における具体的な労働力や消費といった経済性の議論には踏み込んでこなかった側面もある。

本調査では、「関係人口」の中でも都市圏と地方圏を定期的に行き来する**多拠点居住者**に焦点をあて、その生活実態の把握および地域にもたらす効果（労働・消費）を確認する。そして、なによりも一人の生活者としての個人が地域とのかかわりを通じてウェルビーイング（身体的・精神的・社会的により良い状態）を高めるための観点を明示したい。

就業者がウェルビーイングな状態にあると、仕事において高いパフォーマンスが期待でき、欠勤や早期離職を抑制するとの研究も数多く報告されている。また、地域での仕事や活動は、越境的学習機会として就業者の視野を広げ職業能力の向上に寄与するとの報告もある。

すなわち、本テーマは、地方自治体と個人の問題にとどまらない。ぜひ企業の経営者や人事関係者におかれても、人的資本への投資機会として本テーマへの関心を向けて頂きたい。

Chapter	内容	頁
	調査結果サマリと提言	P5
【1】	多拠点居住者の目的タイプ別の特徴	P24
【2】	多拠点居住者のウェルビーイング実態	P47
【3】	多拠点居住者の地域との関わり合い	P58
【4】	多拠点居住の意思決定につながる要因分析	P73
【5】	多拠点居住者のウェルビーイングにつながる要因分析	P86
【6】	多拠点居住者のウェルビーイング因子構造	P98
	Appendix	P109

調査名称	パーソル総合研究所「就業者の多拠点居住に関する定量調査」
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多拠点居住の目的に応じた類型化と、各多拠点居住タイプの特徴・実態について明らかにする。</li> <li>・多拠点居住の各タイプにおいて、地域での「労働力」と「消費」の観点から、地域との関わり合いを明らかにする。</li> <li>・多拠点居住の各タイプにおいて、多拠点居住の意思決定要因及びウェルビーイング要因を明らかにする。</li> </ul>
調査手法	調査会社モニターを用いたインターネット定量調査
調査時期	2022年 11月9日 - 11月14日
調査対象者	<p>共通条件：政令指定都市＋東京23区内に主たる居住地を有する就業者※（パート・アルバイトは除く） 20～69歳男女</p> <p>① 多拠点居住者：n=1498s【サブ拠点の地域に毎月1泊以上滞在している就業者】</p> <p>② 多拠点居住計画者：n=216s【多拠点居住する計画を立てており、サブ拠点の地域も決まっている就業者】</p> <p>③ 多拠点居住意向者：n=786s【多拠点居住したい気持ちの強い就業者】</p> <p>※対象メイン居住地域：</p> <p>札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、東京23区、横浜市、川崎市、相模原市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、岡山市、広島市、北九州市、福岡市、熊本市、</p>
実施主体	株式会社パーソル総合研究所
共同研究機関	叡啓大学保井・早田研究室、クウジット株式会社

※報告書内の構成比の数値は、小数点以下第2,3位を四捨五入しているため、個々の集計値の合計は必ずしも100%とならない場合がある。

## 引用について

本調査を引用いただく際は出所を明示してください。出所の記載例：パーソル総合研究所「就業者の多拠点居住に関する定量調査」

# 調査結果サマリと提言

パーソル総合研究所  
シンクタンク本部



1.

## 多拠点居住に関する5つの目的タイプ

P25

- 多拠点居住者・計画者・意向者は、多拠点居住に関する目的によって、「多拠点生活志向」「地域愛着」「趣味満喫」「家族支援」「受動的ワーク」の5つのタイプに分かれる。

多拠点生活志向  
タイプ

29.6%

多様な目的から複数地域を行き来する生活を志向するタイプ  
何かしらの形で地域で活動する意欲が高い地域愛着  
タイプ

13.6%

自身の気分転換・リフレッシュや、その地域の魅力を堪能するため  
多拠点居住を行うタイプ趣味満喫  
タイプ

13.0%

自身の趣味や嗜好を堪能するため多拠点居住を行うタイプ

家族支援  
タイプ

21.9%

近親者の介護や実家等の保有物件を管理するなど  
家族支援的に多拠点居住を行うタイプ受動的ワーク  
タイプ

22.0%

その地域に仕事等があり、受動的に多拠点居住を行うタイプ  
地域を行き来する生活への意欲は低い

## 1.

## 多拠点居住のきっかけ・必要な支援

P30-44

- 多拠点居住のきっかけは、「**在宅勤務やテレワークの浸透(15.3%)**」が最も高い  
多拠点生活志向タイプでは「TV・雑誌やSNSでの紹介」、地域愛着タイプでは「その地域での観光」、家族支援タイプでは「近親者の介護・死別」、受動的ワークタイプでは「異動やその地域での仕事」がきっかけとなる特徴が確認された。
- 多拠点居住開始時に「**転職をした**」「**副業を始めた**」割合はいずれも**2割程度**  
特に、多拠点生活志向タイプでは、およそ3人に1人が多拠点居住開始時に副業を始めている。
- 自治体・企業が提供する支援（補助金・助成金）を活用する意識\*は約4割  
「**移動や交通費**」「**住まい**」に関する支援を求める意識が高い。 \*「活用した」「活用できなかった」計  
家族支援タイプでは、自治体・企業の支援を「活用できなかった」割合が高く、特に「**介護や医療**」「**移動や交通費**」に関する支援において、その傾向が強くみられた。
- 多拠点居住者の**3人に1人**が、**多拠点居住に関して切実な悩みを抱えている**。  
「**移動で生じるコスト**」「**移動への身体的負担**」を挙げる割合が高く、家族支援タイプでその傾向が強い。

## 2.

## 多拠点居住者のウェルビーイング実態

P48-57

■ **多拠点居住者(6.01pt)は計画者・意向者(5.59pt)より主観的幸福感が高い**

■ **主観的幸福感が最も高いタイプは、地域愛着タイプ(6.81pt)**

次いで、趣味満喫(6.48pt)、多拠点生活志向(6.40pt)と続く。家族支援(5.68pt)と受動的ワーク(5.55pt)は全体平均より低い傾向。

■ **多拠点生活志向タイプは、幸福感が高いが、「はたらく不幸せ実感」も高い傾向**

1. 地域生活のウェルビーイング因子\*1

多拠点生活志向タイプは、「ダイナミズムと誇り」「自然の体感」「つながりと感謝」「地域行政への信頼」が最も高い。一方で、スコアが低いほど良好な「生活ルールの無秩序」「過干渉と不寛容」「多拠点居住の苦難 ※本調査のオリジナル因子」も最も高い傾向。「**その地域の協働意識が強い**」「**交流する人達とのお付き合いがづらい**」といった“**地域で交流する人達との関わり**”に悩んでいる特徴がみられた。

2. はたらく幸せ／不幸せ因子\*2

多拠点生活志向タイプは、「自己成長」「チームワーク」「他者承認」が最も高い。一方で、はたらく不幸せ因子の全7因子についても、多拠点生活志向タイプが最も高い傾向。

\*1 デジタル庁・地域生活のWell-being指標を参照 \*2 「パーソル総合研究所・慶応義塾大学前野隆司研究室」はたらく幸せの7因子／不幸せの7因子尺度



## 3.

## 多拠点居住者の地域との関わり合い

P60-72

- サブ拠点への月間訪問回数（宿泊日数）は全体平均で**3.1回（4.8泊）**  
家族支援タイプは、訪問3.1回に対して宿泊日数4.6泊と、**訪問1回あたりの移動負荷が高い傾向**
- 多拠点居住者のおよそ**3人に1人**が、サブ拠点において**地域に関わる仕事・活動を行っている**  
多拠点生活志向タイプは、副業を行っている割合が高い
- 「ウェルビーイング」と地域での「労働力」・「消費」の関係を2軸図（図1・2）で分析した結果  
**多拠点生活志向タイプはウェルビーイングが高く、「労働力」・「消費」の貢献が高い傾向**  
**受動的ワークタイプは、ウェルビーイングが低く、「労働力」・「消費」の貢献が低い傾向**
- 頻繁に/たまに連絡を取る**友人・知人の多さ**が、地域の「労働力」・「消費」を向上させる傾向

図1：ウェルビーイングと“地域との関わり”【労働】

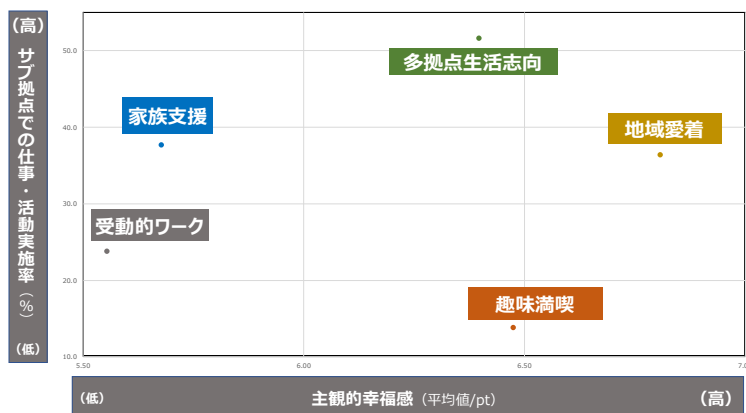
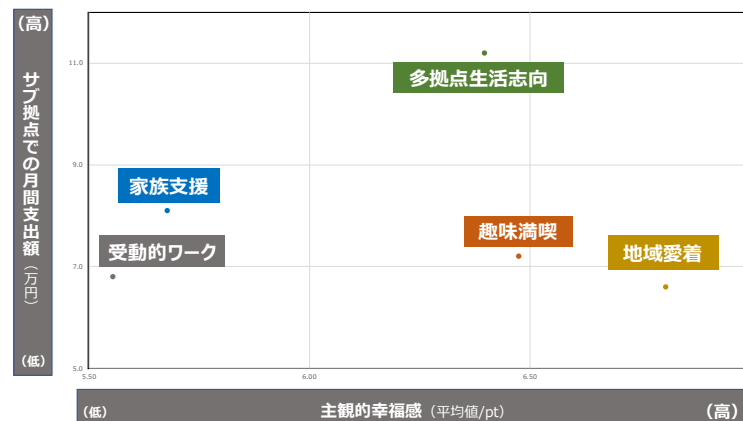


図2：ウェルビーイングと“地域との関わり”【消費】



4.

多拠点居住の意思決定につながる要因分析

P74-85

- 本調査では、多拠点居住に際する意思決定に影響する要因は目的タイプごとに異なることを仮定し、タイプ別に意思決定要因分析（CALC分析 ※P74参照）を行った。

	直接要因	第2水準要因 ※直接要因に紐づく要因	媒介要因
多拠点生活志向 【498s】	物価の安さ (.045)	食べ物の美味しさ (.060)、助成金がもらえること (.059)、安価な土地購入 (.056)、優しい人の多さ (.044)、都心部アクセスの良さ (.027)	優しい人の多さ (12)
	気候の良さ (.044)	食べ物の美味しさ (.075)、街並み・景観の良さ (.067)、優しい人の多さ (.055)、文化資源の豊かさ (.055)、趣味ができること (.031)、【きっかけ】友人が多拠点居住生活をしていて (.020)	仲間とみなしてくれること (8)
	年齢 (.043)	独立した子供と同居 (.067)、性別 (.053)、既婚有無 (.034)	子育て環境の充実 (7)
地域愛着 【281s】	助成金がもらえること (.039)	地域内での仕事の多さ (.097)、外の人に支援的 (.073)、安価な土地購入 (.058)、自然の豊かさ (.051)、気候の良さ (.039)	地域内での仕事の多さ (11) 優しい人の多さ (10) 自然の豊かさ (9) 外の人に支援的 (8) 気候の良さ (7) 配偶者の希望 (7)
	仕事で訪れていたこと (.044)		
趣味満喫 【223s】	組織の理解が得られない懸念 (.085)	家族の理解が得られない懸念 (.366)、助成金がない懸念 (.357)、【きっかけ】転職 (.038)	外の人に支援的 (7)
	家族が意思を尊重してくれること (.065)	家族との仲の良さ (.964)、家庭での居場所観 (.925)、家族時間の重視 (.900)、配偶者と同居 (.263)、居住形態 (.136)	
	助成金がもらえること (.065)	外の人に支援的 (.082)	
	食べ物の美味しさ (.039)	物価の安さ (.070)、気候の良さ (.049)、外の人に支援的 (.047)、自然の豊かさ (.039)	
	街並み・景観の良さ (.039)	自然の豊かさ (.062)、生活利便性の良さ (.051)、優しい人の多さ (.050)、文化資源の豊かさ (.044)、地域の落ち着き (.039)	
	やりたい仕事ができること (.037)	地域内での仕事の多さ (.051)、地域の仲間意識 (.041)	
【きっかけ】TV・雑誌の特集 (.020)			

＜多拠点生活志向タイプ＞

地域における「優しい人の多さ」は2つの直接要因に紐づいており、他要因とのつながりも多くみられていたことから、その地域内の“人”が特に重要と考えられる。

＜地域愛着タイプ＞

「地域の行き来で助成金がもらえること」が直接要因、「地域内での仕事の多さ」が第2水準要因かつ媒介要因であることなどから、地域を行き来する上での“金銭面・仕事面による支援”が重要と考えられる。

＜趣味満喫タイプ＞

多様な地域の魅力が直接要因であった。特徴として、「組織からの理解」や「家族からの理解」といった仕事・家庭状況の要素が直接要因に紐づき、それらの相関量が大きかったことから、“組織・家庭内における障壁を取り除くこと”が特に重要と考えられる。

※直接要因・第2水準要因のカッコ内は相関量。媒介要因のカッコ内は入出力紐帯数

## 4.

## 多拠点居住の意思決定につながる要因分析

P74-85

- 本調査では、多拠点居住に際する意思決定に影響する要因は目的タイプごとに異なることを仮定し、タイプ別に意思決定要因分析（CALC分析 ※P74参照）を行った。

	直接要因	第2水準要因 ※直接要因に紐づく要因	媒介要因
家族 支援 【320s】	家庭での自分時間の重視 (.046)	家庭での役割観 (.881)、職務上での他者との関わり (.124)、 既婚有無 (.108)、【きっかけ】子供の就学 (.025)	職務上での他者との関わり (8)
	安価な土地購入 (.045)	物価の安さ (.053)、外の人に支援的 (.040)	介護/実家の管理 (8)
	気候の良さ (.041)	食べ物の美味しさ (.053)、地域の落ち着き (.048)、生活利便 性の良さ (.042)、自然の豊かさ (.040)	子育て環境の充実 (7)
受動的 ワーク 【254s】	家族時間の重視 (.077)	家庭での居場所観 (1.103)、家族との仲の良さ (1.053)、家族 が意思尊重してくれること (1.044)、家庭での役割観 (1.021)、 【きっかけ】結婚 (.048)	気候の良さ (7)
	食べ物の美味しさ (.052)	気候の良さ (.067)、街並み・景観の良さ (.057)、物価の安さ (.056)、やりたい仕事ができること (.037)、地域に仲間がいること (.027)	
	都心部アクセスの良さ (.046)	生活利便性の良さ (.058)、外の人に支援的 (.052)、気候の良 さ (.046)、物価の安さ (.037)、地域内での仕事の多さ (.032)	

## ＜家族支援タイプ＞

「家庭内での自分時間の重視」が直接要因、「職務上での他者との関わり合い」が媒介要因であることなどから、家庭の環境・状況と、「**職場内でのサポート体制**」が重要と考えられる。

## ＜受動的ワークタイプ＞

「家族時間の重視」が直接要因であり、第2水準要因でも「家庭内での居場所観」や「家族と仲が良さ」などがあったことから、「**家庭内での居心地**」が意思決定に影響していることが示唆される。

※直接要因・第2水準要因のカッコ内は相関量。媒介要因のカッコ内は入出力紐帯数

5.

## 多拠点居住者のウェルビーイングにつながる要因分析

P87-97

■ 多拠点居住者のウェルビーイングに影響する要因分析においても同様にタイプ別のCALC分析を行った。

	直接要因	第2水準要因 ※直接要因に紐づく要因	媒介要因
多拠点生活志向 [428s]	友人・知人との関係性 (.194)	世帯年収 (.070)、多拠点居住先での宿泊頻度 (.066)	優しい人の多さ (8) 移動・交通に関する提供情報の活用 (7) 仕事に関する提供情報の活用 (7) 仕事に関する補助金・助成金の活用 (7) 介護・医療に関する提供情報の活用 (7) 住まいに関する提供情報の活用 (7) 助成金がもらえること (7) 尊敬できる人がいること
	労働貢献意識 (.165)	企業・自治体からの仕事に関する提供情報の活用 (.100)、移動・交通に関する提供情報の活用 (.090)	
地域愛着 [99s]	生活費がかさむ懸念 (.213)	交通費がかさむ懸念 (.946)、助成金がもらえない懸念 (.406)	交通費がかさむ懸念 (8) その地域に仕事があること (8) 個人の趣味を満喫すること (7)
趣味満喫 [160s]	友人・知人との関係性 (.133)	多拠点居住先での居場所観 (.247)、頻繁に話す友人・知人の数 (.152)、友人・知人との関係性変化 (.136)、祭り・地域イベントの良さ (.083)、地域の賑わい (.078)、地域での仲間意識 (.069)、優しい人の多さ (.066)	リフレッシュすること (8) 友人・知人との関係性 (7) 家族等の近くで生活すること (7) 介護/実家の管理 (7)
家族支援 [369s]	友人・知人との関係性 (.081)	多拠点居住先での居場所観 (.192)、家族の理解が得られない懸念 (.183)	子育て環境の充実 (9) 介護/実家の管理 (8) 家族の理解が得られない懸念 (7) その地域に仕事があること (7) 自分時間を過ごすこと (7) よそ者を受け付けない風習があること (7)
受動的ワーク [442s]	友人・知人との関係性 (.133)	顔見知りの数 (.203)、家族の理解が得られない懸念 (.176)、友人・知人との関係性変化 (.102)、地域内での仕事の多さ (.027)	介護/実家の管理 (10) 新しい仕事をする・探す (10) 家族の理解が得られない懸念 (8) 人との付き合い懸念 (8) その地域に仕事があること (8)

### <多拠点生活志向タイプ>

「労働貢献意識」と「友人・知人との関係性」が直接要因であった。多拠点生活志向タイプでは、**労働による地域貢献**や**地域で関わる人達との関係性深耕**がウェルビーイングにつながると考えられる。

### <地域愛着タイプ>

「生活費がかさむ懸念」が直接要因、「交通費がかさむ懸念」「補助金・助成金がもらえない懸念」が第2水準であったことから、**金銭面における懸念の払拭**がウェルビーイングにつながると考えられる。

### <趣味満喫/家族支援/受動的ワークタイプ>

いずれのタイプも「友人との関係性」が直接要因であることから、**サブ拠点で会う人との関係性構築**がウェルビーイングにつながると考えられる。また、**家族支援タイプ**と**受動的ワークタイプ**では、「家族からの理解が得られること」が第2水準要因かつ媒介要因であることなどから、**多拠点居住を家族に理解してもらうことも重要**と考えられる。

※直接要因・第2水準要因のカッコ内は相関量。媒介要因のカッコ内は入出力紐帯数

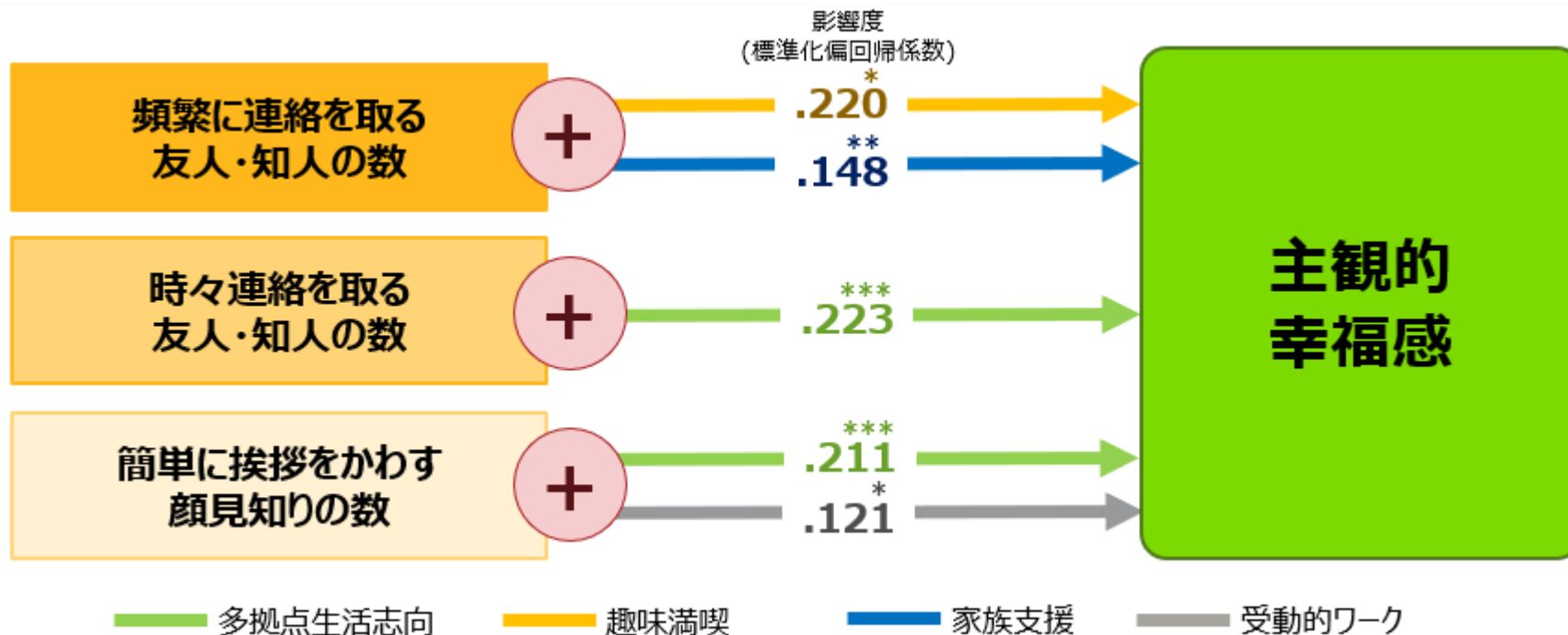
## 5.

## 多拠点居住者のウェルビーイングにつながる要因分析

P87-97

- 友人・知人数が主観的幸福感に与える影響を確認したところ、趣味満喫や家族支援タイプでは、頻繁に連絡を取るような“濃い”関係性の友人を増やすこと、多拠点生活志向や受動的ワークタイプでは、たまに連絡を取ったり挨拶を交わす“ゆるい”関係性の友人・知人を増やすことがウェルビーイングにつながることを示唆された。

図：主観的幸福感と友人・知人数の関係性



※地域愛着タイプは、いずれの項目も非有意のため割愛

## 多拠点生活志向タイプ<sup>o</sup> (29.6%)

目的

- 多様な目的を有する
- 地域で活動したいモチベーションが特に強い

きっかけ

- TV・雑誌の特集やSNSでの紹介

年世帯

973.8 万円 ↑

属性等

- 男性30～40代が多い
- 多拠点居住開始時に副業を始めた人が多い

### 地域との関わり ～ 地域貢献度が最も高い～

- サブ拠点で副業を行っている人が多い
- 地域での消費額や仕事・活動実施率が高い
- 複数地域で多拠点居住を行う人が多い
- “地域で交流する人達との関わり”に悩んでいる

#### 幸福感

※日本平均:6.04

6.40 pt (106.5) ↑

#### 地域生活の 幸せ実感

4.54 pt (106.3) ↑

#### はたらく 幸せ実感

4.60 pt (109.0) ↑

#### はたらく 不幸せ実感 (低いほど良好)

3.74 pt (117.2) ↑

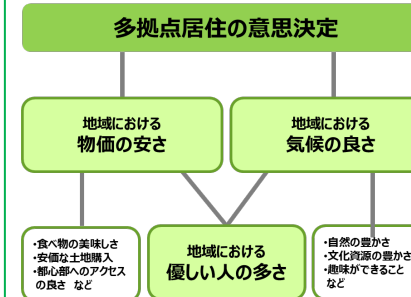
#### 家庭生活 満足度

4.64 pt (109.2) ↑

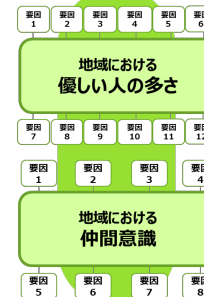
※カッコ内は、多拠点居住者全体を100とした指数

### 多拠点居住の意思決定要因

意思決定における直接要因・第2水準要因

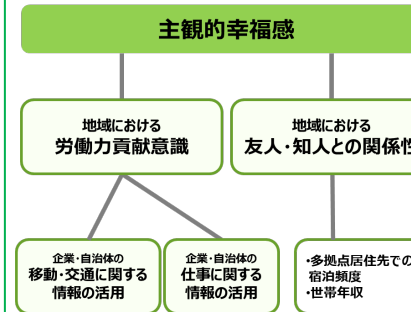


媒介要因

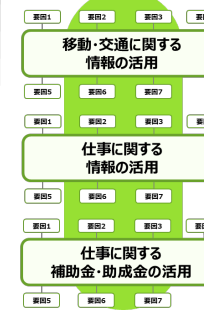


### 多拠点居住のウェルビーイング要因

主観的幸福感における直接要因・第2水準要因



媒介要因



地域貢献へのモチベーションが高く、地域における**副業等の「労働」を行っている割合が高いタイプ**。  
本タイプが多拠点居住を選択する決め手として、地域の魅力に加え、地域で関わる人達と“つながり”を持つことがポイントとなる。  
地域内での人間関係は、ウェルビーイングの観点で重要だが、一方で“**地域で交流する人達との関わり合い**”に悩みを抱えている様子がみられた。本タイプが、副業などを通じて複数の地域と“ゆるく”つながることを求めている場合は、**就業者側の意識と地域住民側の持つ意識にギャップ**が生じる可能性が高まる。その際は、両者の意識ギャップを埋めることが肝要であろう。

## 地域愛着タイプ (13.6%)

目的

- 気分転換・リフレッシュや、地域の魅力を堪能するモチベーションが強い

きっかけ

- サブ拠点への観光

年世帯

908.2 万円 ↓

属性等

- 男性50～60代が多い
- 情報通信業やサービス業がやや多い

地域との関わり

～労働による地域貢献は高い～

- サブ拠点での月額支出額は6.6万円で最も低く、住居関連費の占める割合が多い
- 地域に関わる仕事・活動実施率は全体平均よりやや高く、労働による貢献意識も高い

幸福感

※日本平均:6.04

6.81 pt (113.3) ↑

地域生活の  
幸せ実感

4.87 pt (114.1) ↑

はたらく  
幸せ実感

4.80 pt (113.7) ↑

はたらく  
不幸せ実感  
(低いほど良好)

2.75 pt (86.2) ↓

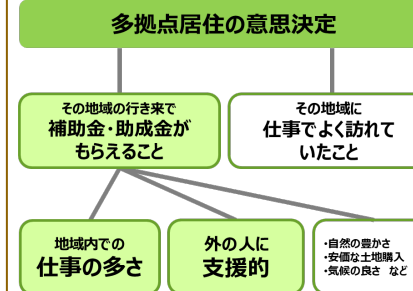
家庭生活  
満足度

4.86 pt (114.4) ↑

※カッコ内は、多拠点居住者全体を100とした指数

## 多拠点居住の意思決定要因

意思決定における直接要因・第2水準要因

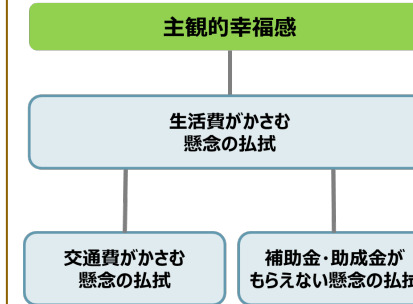


媒介要因



## 多拠点居住のウェルビーイング要因

主観的幸福感における直接要因・第2水準要因



媒介要因



地域の魅力を堪能するモチベーションが高く、その地域での仕事・地域活動といった「労働」を起点に関わりを持つタイプ。本タイプが多拠点居住を選択する決め手として、地域を行き来する上での“金銭面・仕事面による支援”がポイントとなる。また、金銭面における懸念の払拭は、ウェルビーイングの観点でも重要であるが、現状**地域への消費額があまり高くない特徴**がみられた。本タイプは、地域への愛着が強く「労働による地域貢献」や「移住」へのポテンシャルが高い層と考えられる。個人・地域の両観点において、**移動や宿泊にかかる費用の支援**が有効と考えられる。

## 趣味満喫タイプ (13.0%)

目的

- 自身の趣味や嗜好を堪能するモチベーションが強い

きっかけ

- テレワークの浸透
- サブ拠点への観光

年世帯

**1001.7** 万円 ↑

属性等

- 男性60代が多い
- テレワークについて、全くしていない人と、ほぼ毎日している人に二分される

### 地域との関わり ～地域貢献度は現状高くない～

- サブ拠点での月額支出額は7.2万円と、全体平均よりやや低い
- 地域に関わる仕事・活動を行っている割合や労働による貢献意識は最も低い

幸福感

※日本平均:6.04

**6.48** pt (107.8) ↑

地域生活の  
幸せ実感

**4.69** pt (109.8) ↑

はたらく  
幸せ実感

**4.40** pt (104.3) ↑

はたらく  
不幸せ実感  
(低いほど良好)

**3.06** pt (95.9) ↓

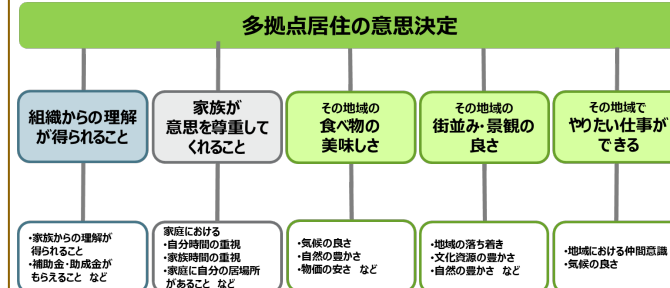
家庭生活  
満足度

**4.65** pt (109.4) ↑

※カッコ内は、多拠点居住者全体を100とした指数

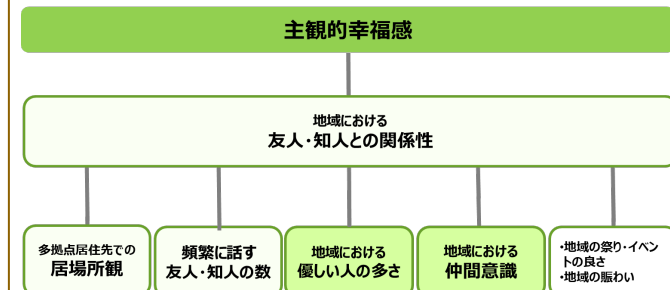
### 多拠点居住の意思決定要因

意思決定における直接要因・第2水準要因



### 多拠点居住のウェルビーイング要因

主観的幸福感における直接要因・第2水準要因



自身の趣味を堪能するモチベーションが高く、地域との関わりをあまり持っていないタイプ。本タイプが多拠点居住を選択する決め手として、地域の魅力認知に加え、“組織・家庭内における障壁を取り除けていること”がポイントとなる。また、ウェルビーイングの観点では、サブ拠点で親しい友人と趣味を楽しんだり、地域で会う人と濃い関係性を築くことが重要。本タイプは、世帯年収が高く「消費による地域貢献」のポテンシャルが高い層と考えられる。個人・地域の両観点において、**地域内での関係性構築を支援**するような施策が有効と考えられる。



## 家族支援タイプ (21.9%)

目的

- 近親者の介護や、実家等の保有物件を管理するために行う

きっかけ

- 近親者の介護
- 近親者の死別

年世帯

823.9 万円 ↓

属性等

- 女性20~40代が多い
- 自治体・企業が提供する多拠点居住の施策を活用できなかった人が多い

地域との関わり

～地域貢献度は2番目に高い～

- サブ拠点での月額支出額は8.1万円と、5タイプ中2番目に高い。また、地域に関わる仕事・活動実施率も5タイプ中2番目に高い
- 地域を行き来することのしんどさや、移動のコストに対して悩んでいる人が多い

幸福感

※日本平均:6.04

5.68 pt (94.5) ↓

地域生活の  
幸せ実感

3.98 pt (93.2) ↓

はたらく  
幸せ実感

3.90 pt (92.4) ↓

はたらく  
不幸せ実感  
(低いほど良好)

3.14 pt (98.4) ↓

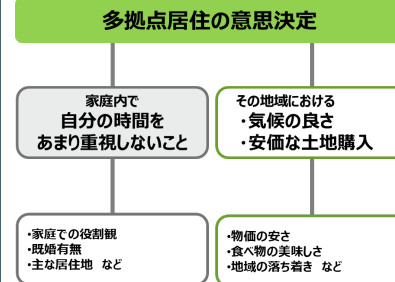
家庭生活  
満足度

3.93 pt (92.5) ↓

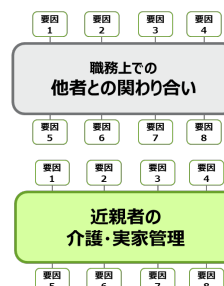
※カッコ内は、多拠点居住者全体を100とした指数

## 多拠点居住の意思決定要因

意思決定における直接要因・第2水準要因

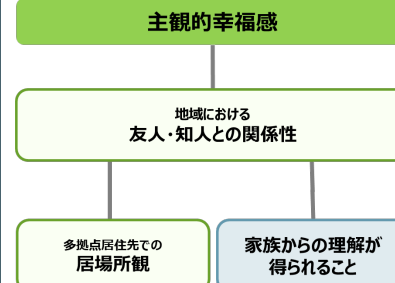


媒介要因

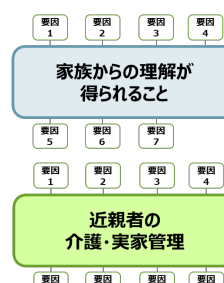


## 多拠点居住のウェルビーイング要因

主観的幸福感における直接要因・第2水準要因



媒介要因



近親者の介護や実家管理のために多拠点居住を行っており、地域との関わりが比較的強いタイプ。多拠点居住を選択する上では「家庭環境・職場内サポート体制の整備」、ウェルビーイングの観点では「地域で親しい友人と会ったり、多拠点居住に対する家族理解」が重要となるが、一方で地域を行き来することに対して、身体的・金銭的な負担を強く感じている。本タイプは、地域での「労働力」「消費」の貢献いずれも高い傾向がある層と考えられる。個人・地域の両観点において、特に**移動・交通に関するサポート**が肝要であろう。

## 受動的ワークタイプ (22.0%)

目的

- その地域に自身の仕事があるため、多拠点居住を行う

きっかけ

- 異動・単身赴任・転勤
- サブ拠点での仕事

年世帯

912.1 万円 ↓

属性等

- 男性50代が多い
- テレワーカーは少ない

地域との関わり

～地域貢献度は現状高くない～

- サブ拠点での月額支出額は6.8万円と、5タイプ中2番目に低い
- 地域に関わる仕事・活動実施率や労働による貢献意識も5タイプ中2番目に低い

幸福感

※日本平均:6.04

5.55 pt (92.4) ↓

地域生活の  
幸せ実感

3.95 pt (92.5) ↓

はたらく  
幸せ実感

3.92 pt (92.9) ↓

はたらく  
不幸せ実感  
(低いほど良好)

2.86 pt (89.7) ↓

家庭生活  
満足度

3.86 pt (90.8) ↓

※カッコ内は、多拠点居住者全体を100とした指数

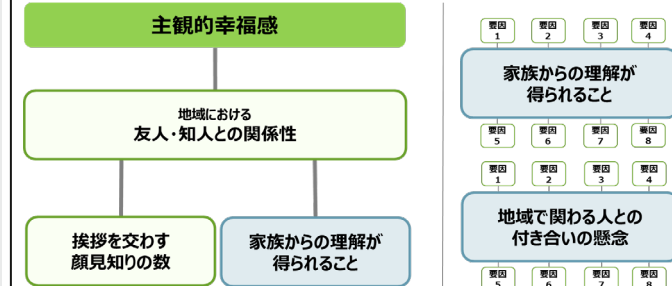
## 多拠点居住の意思決定要因

意思決定における直接要因・第2水準要因



## 多拠点居住のウェルビーイング要因

主観的幸福感における直接要因・第2水準要因



自身の仕事のために多拠点居住を行っているタイプ。多拠点居住に対するモチベーションは低く、地域との関わりもあまり持っていない。本タイプが多拠点居住を選択する上では、家庭環境の状況がポイントとなる。ウェルビーイングの観点でも、家庭環境の側面が重要であり、かつ「サブ拠点で会う人達と“ゆるく”つながること」も重要となる。

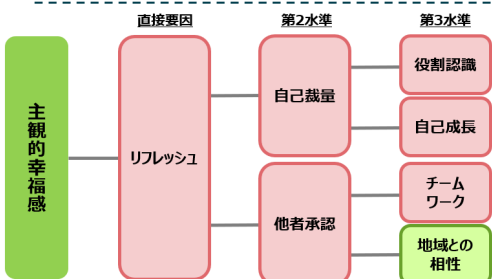
多拠点居住の目的5タイプの中でも本タイプの割合は高く、地域貢献のポテンシャルが強い層と考えられる。個人・地域の両観点において、**地域内での関係性構築を支援するような施策**が有効と考えられる。

6.

多拠点居住者のウェルビーイング因子構造

P100-108

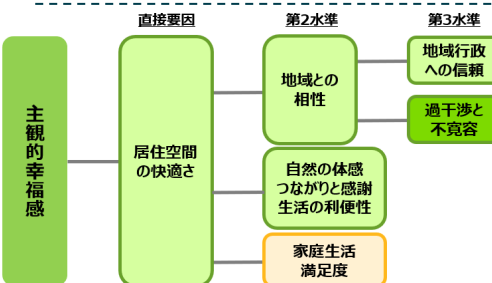
■ 多拠点居住者のウェルビーイングに関する心理構造を把握するために、ウェルビーイングに関する因子を投入したCALC分析も、タイプ別に試みた。



<多拠点生活志向タイプ>

主に「はたらく幸せ因子」の影響がみられる。

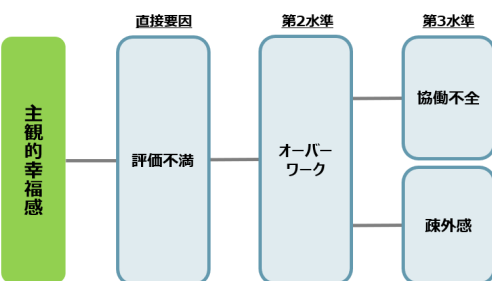
仕事の英気を養えるような状態が前提でありつつ、「マイペースで自発的に仕事に取り組めており、成長につながっている状態」や「地域の仲間とつながりを感じ、認めてもらえている状態」が当該タイプの主観的幸福感を高めると考えられる。



<地域愛着タイプ>

主に「地域生活ウェルビーイング」の影響がみられる。

「地域の雰囲気自然豊かで心地よく、地域住民等との関係も良好。日々の生活基盤も整っているため不便もあまり感じない。そのため、その地域で過ごすことを快適に感じられている状態」が当該タイプの主観的幸福感を高めると考えられる。



<趣味満喫タイプ>

主に「はたらく不幸せ因子」の影響がみられる。

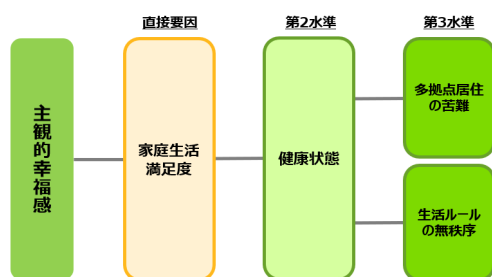
「職場内のメンバーが非協力的であるためにオーバーワークに陥っている。それにもかかわらず、上司とのすれ違いなどから自分の努力が正当に評価されない状態」が当該タイプの主観的幸福感を低下させると考えられる。

## 6.

## 多拠点居住者のウェルビーイング因子構造

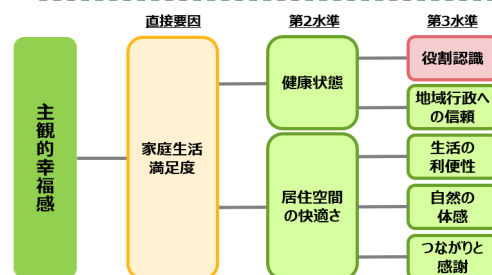
P100-108

- 多拠点居住者のウェルビーイングに関する心理構造を把握するために、ウェルビーイングに関する因子を投入したCALC分析も、タイプ別に試みた。



## &lt;家族支援タイプ&gt;

「家庭生活ウェルビーイング」、関連する「地域生活ウェルビーイング」の影響がみられる。「サブ拠点を行き来する苦難や、サブ拠点での生活ルールの乱れ等から健康を害し、家庭生活にも支障をきたす状態」が、当該タイプの主観的幸福感を低下させると考えられる。



## &lt;受動的ワークタイプ&gt;

「家庭生活ウェルビーイング」、関連する「地域生活ウェルビーイング」の影響がみられる。「自身の健康が安定している状態」や「地域が自然豊かでありつつも日々の生活基盤が整っている。地域住民等との関係も良好のため、その地域で快適に過ごせている状態」が家庭生活満足度を介して、当該タイプの主観的幸福感を高めると考えられる。

## ■ 多拠点居住を能動的に選択している人はウェルビーイングが高い

多拠点居住者は、計画者・意向者と比較して主観的幸福感が高い傾向。  
また、5つの生活タイプのうち、能動的に多拠点居住を選択しているタイプの主観的幸福感、日本の平均値\*よりも高い傾向。\*World Happiness Report 2022 : Japan【6.039】

## ■ 多拠点居住者の中で、切実な悩みを抱えている割合は36.4%

多拠点居住を実践する上での課題として、移動交通費の高さや往来時の労力への負担との回答が多く確認された。特に、家族支援タイプでその傾向が強い傾向。

## ■ 多拠点居住者のウェルビーイングに影響する主要因は、タイプにより異なる

『多拠点生活志向』『趣味満喫』は職業生活、『地域愛着』は地域生活、『家族支援』『受動ワーク』は家庭生活の影響がみられる。なお、『趣味満喫』は職業生活における不幸せが生活全般のウェルビーイングを低下させる傾向。また、地域での人間関係もウェルビーイングに影響するが、タイプごとに関係性の質が異なる。

多拠点居住を行っている就業者のウェルビーイング（身体的・心理的・社会的により良い状態）は、計画者や意向者よりも良好であった。しかし、個別には克服すべき課題（経済的負担や人間関係等）も少なくない。

地域貢献や自己実現、組織や家族の意向など多拠点生活の主目的や背景は様々だが、複数の地域コミュニティに関わる体験は、自身の職業能力や生活能力（社会関係資本としての人脈・信頼など）を育む越境的学習機会ともなり、曖昧で不確かな将来への自己投資として考えることもできよう。職業生活におけるパフォーマンス発揮のみならず、人生をより豊かなものとするためにも、自分にとって望ましい環境を自己選択する姿勢は大切にしたい。

## ■ 多拠点居住のきっかけは、在宅勤務やテレワークの浸透が最も高い

家族支援タイプの就業者は「近親者の介護・死別」、受動ワークタイプは「異動やその地域での仕事」がきっかけとして多い傾向が確認された。

## ■ 多拠点居住開始時に転職・副業を始めたケースは2割程度

家族支援タイプでは転職が20.9%。また、多拠点生活志向タイプでは副業を開始した割合が高く、全体平均と比較して13.5pt高い傾向が確認された。

## ■ 多拠点居住者の中で、切実な悩みを抱えている割合は36.4%

詳細をみると「その地域に行き来することで生じるコストが高かった」「その地域に行き来することが大変だった」との回答が多く、家族支援タイプでその傾向が強い。

本調査から、能動的に多拠点居住という暮らし方を選択し、サブ拠点においても何らかの活動を行っている就業者のウェルビーイングは高い傾向が確認された。就業者のウェルビーイングが高い状態にあると、仕事に対し熱意・没頭・集中する傾向が強まるとの先行研究から、多拠点居住の支援施策は福利厚生に留まらない。また、地域での副業やボランティア活動等を越境的学習機会と考えれば、就業者の能力開発やミドルシニアの活性化・セカンドキャリア支援といった従来の企業内教育では得難い人的資本への投資ともなろう。他方で、介護や実家管理などで行き来する就業者は、移動にかかる経済的負担や働き方の制約など切実な悩みも抱えていた。リテンションや優秀人材獲得への投資として、多拠点居住を許容・支援するための制度や体制構築、社内風土の醸成施策について検討されることを提案したい。

## ■ 能動的な多拠点居住者は、幸福度・地域貢献度（労働・消費）共に高い

自ら望んで多拠点居住を行っている就業者は、幸福度が日本平均（6.04pt）を上回る。  
また、地域活動や副業などへの参加率が高く、月間支出額も多い。

## ■ 自治体・企業からの支援（補助金、助成金）の活用意識\*は約4割 しかし、そのうち約6割は「活用できなかった」と回答

補助金や助成金を活用できなかった割合は64.7%。  
「移動や交通費」「住まい」に関する支援を求める意識が高い傾向。

## ■ 多拠点居住者のウェルビーイングには、地域の友人・知人との関係性が影響する

趣味満喫・家族支援タイプでは、濃い関係性の友人数を増やすこと、多拠点生活志向・受動的ワークタイプでは、ゆるい関係性の友人・知人数を増やすことが有効と確認された。

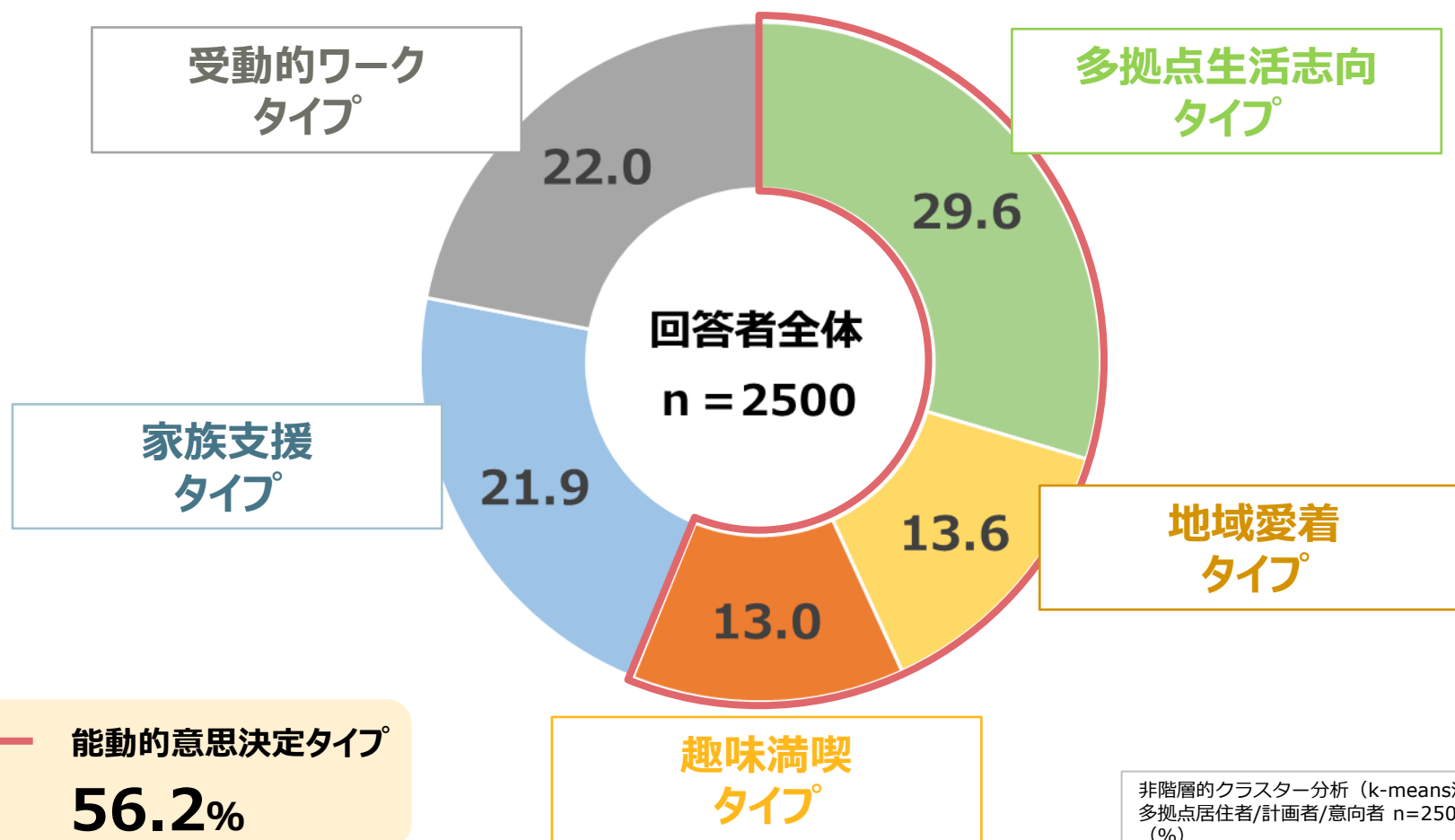
都市圏在住者の移住・定住には一定のハードルがあるため、地域を訪れる多様な人と地域住民（企業等）との交流を通じた地域活性に取り組まれている地域は少なくない。この点において多拠点居住者への期待は大きい。

しかし、多拠点居住者とは一様ではなく、**5つのタイプに分類され、その関心も多様**であった。これは、地域の情報発信や政策立案に際して考慮すべき点が異なる事を示唆している。また、労働・消費への貢献度が高い能動的な多拠点生活者はもとより、地域との関係が薄い「**受動的ワークタイプ**」も潜在的な力を秘めている。ゆるく「挨拶や会話を交わす知人」を増やすための施策と共に、**地域での「役割」と「出番」**をいかにつくり出すかが重要な検討ポイントとなろう。

## 【1】多拠点居住者の目的タイプ別の特徴



多拠点居住の目的に基づいて、本調査の回答者を以下の5タイプに分類した。  
また、後述する調査結果より、多拠点生活志向・地域愛着・趣味満喫タイプは、  
能動的に多拠点居住を選択しているタイプと考えられる。



多拠点居住における各目的タイプの特徴は以下の通り。

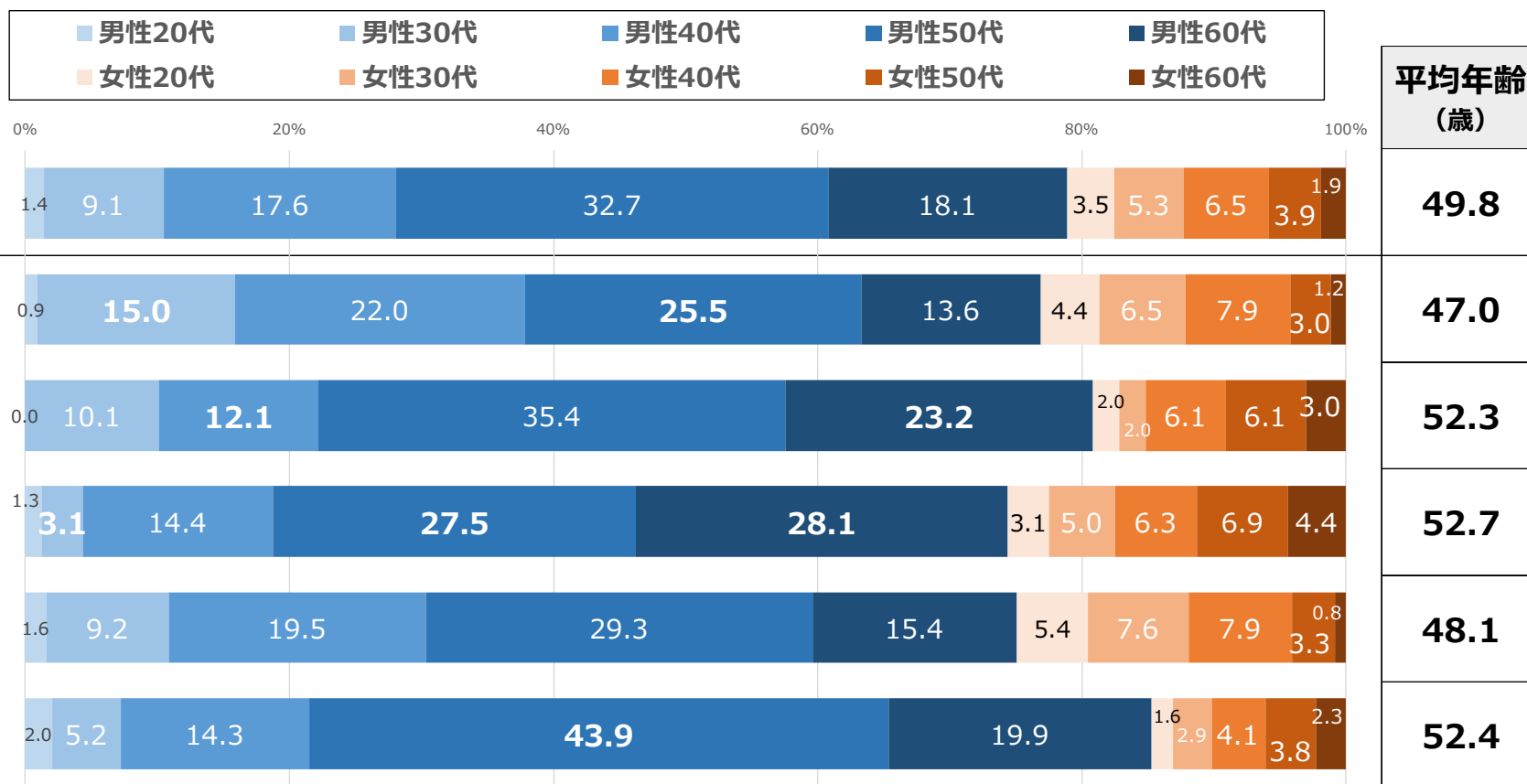
		1	2	3	4	5
タイプ名		多拠点生活志向タイプ	地域愛着タイプ	趣味満喫タイプ	家族支援タイプ	受動的ワークタイプ
特徴的に高い上位2項目 (各項目について全体平均との差が高い項目)		その地域に何らかの貢献をするため (2.09) その地域での暮らしを堪能するため (2.04)	気分転換したり、リフレッシュするため (1.86) その地域での暮らしを堪能するため (1.85)	気分転換したり、リフレッシュするため (1.57) 自分の時間を過ごすため (1.52)	近親者の介護や、実家の管理のため (0.41) 保有している物件・家屋等を管理・活用するため (0.26)	その地域に自身の仕事があるため (-0.65) 近親者の介護や、実家の管理のため (-0.97)
多拠点居住目的	仕事	高い (1.42)	中庸 (0.28)	低い (-1.29)	中庸 (0.01)	低い (-1.34)
	地域	高い (1.30)	高い (1.39)	低い (-0.86)	中庸 (-0.15)	低い (-1.95)
	趣味	高い (0.94)	高い (1.69)	高い (0.94)	中庸 (-0.52)	低い (-2.35)
	家庭	高い (1.44)	低い (-0.71)	低い (-0.94)	中庸 (0.25)	低い (-1.21)
	助成金	高い (1.62)	中庸 (-0.15)	低い (-1.26)	中庸 (0.01)	低い (-1.36)

※設問内容はP29参照

※カッコ内は全体平均との差分 (pt) ※低い: -0.7pt以下、中庸: -0.71pt~0.69pt、高い: 0.7pt以上

多拠点生活志向タイプは男性30～40代、地域愛着タイプでは男性50～60代、趣味満喫タイプでは男性60代、家族支援タイプでは女性20～40代、受動的ワークタイプでは男性50代が高い。

## 性別・年代 (%)



地域愛着タイプと趣味満喫タイプでは、既婚率や子どもとの同居率がやや低い傾向。また、子どもの学齢では、左記2タイプと受動的ワークタイプで、「社会人」の割合が高く、家族支援タイプでは「未就学児」の割合が高い。

既婚率 (%)

子ども同居率 (%)

同居子どもの学齢 (%)

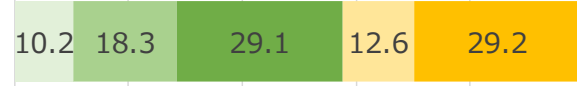
0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0 0.0 20.0 40.0 60.0 80.0

0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0

多拠点居住者  
(1498)



多拠点居住者  
(684)



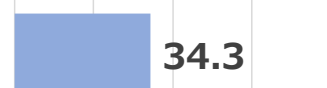
多拠点生活志向  
(428)



多拠点生活志向  
(239)



地域愛着  
(99)



地域愛着  
(34)



趣味満喫  
(160)



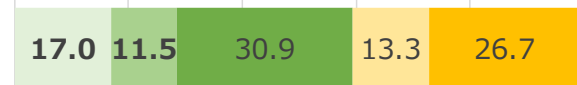
趣味満喫  
(44)



家族支援  
(369)



家族支援  
(165)



受動的ワーク  
(442)



受動的ワーク  
(202)



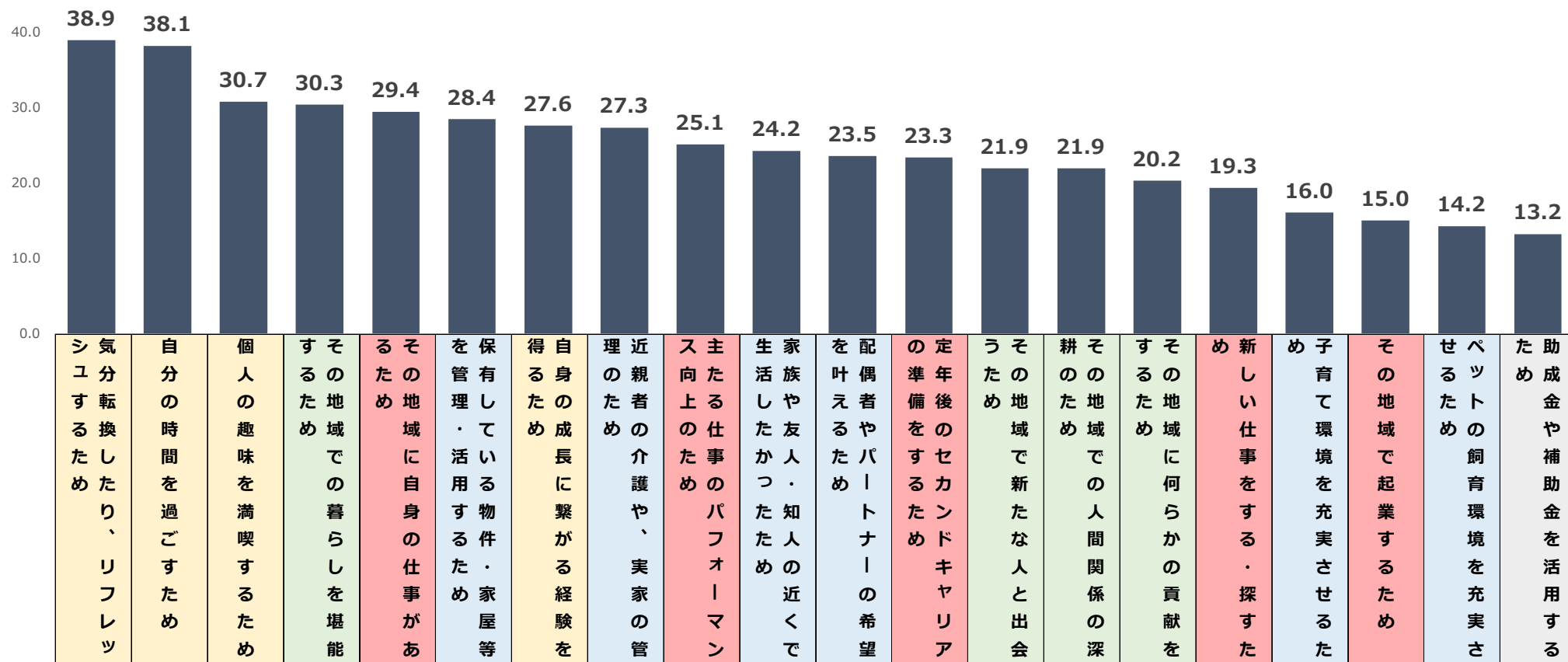
■ 未就学児 ■ 小学生 ■ 中学・高校生 ■ 大学生・専門学校生 ■ 社会人 ■ その他

多拠点居住の目的は、「気分転換したり、リフレッシュするため(38.9%)」が最も高く、「自分の時間を過ごすため(38.1%)」、「個人の趣味を満喫するため(30.7%)」と続く。

## 多拠点居住の目的

多拠点居住者 n=1498

とてもあてはまる/あてはまる/ややあてはまる計 (%)

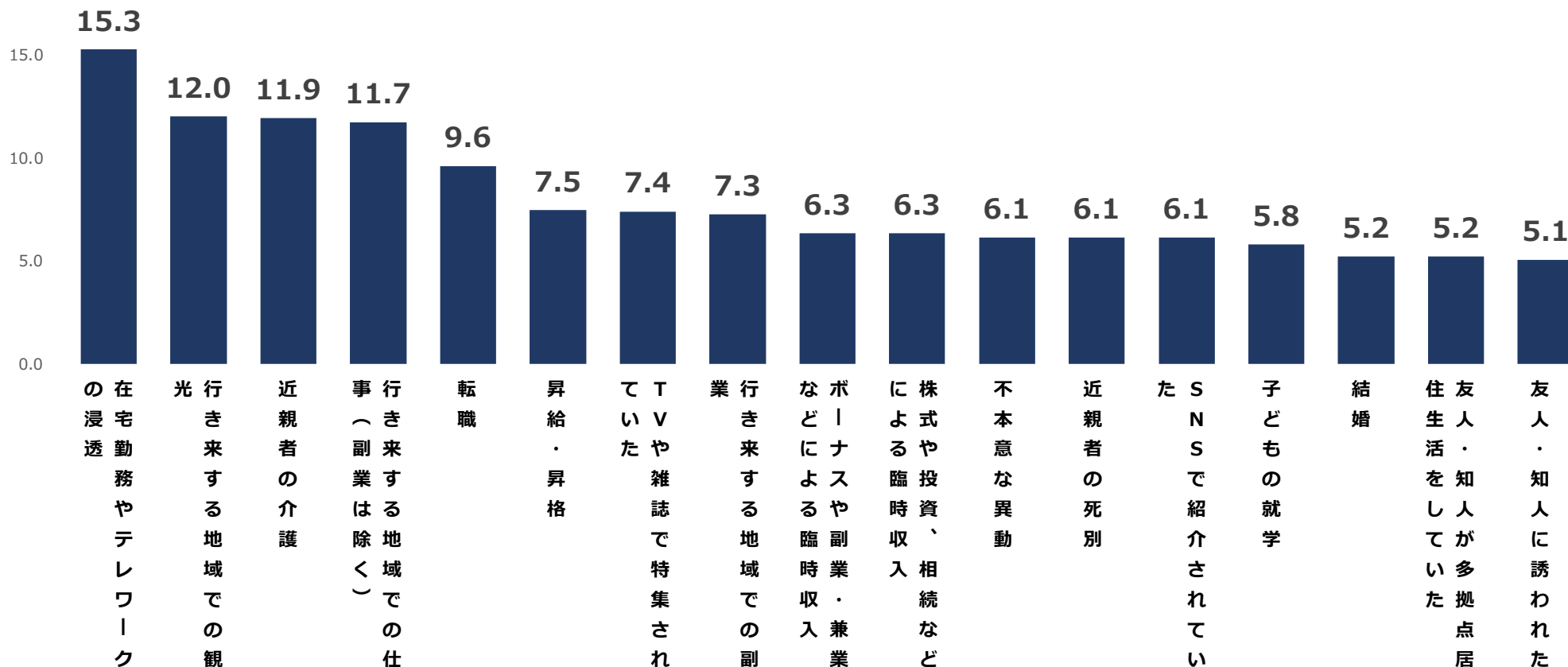


■:仕事関連、■:地域関連、■:趣味関連、■:家族関連、■:その他

多拠点居住のきっかけは、「在宅勤務やテレワークの浸透(15.3%)」が最も高く、「行き来する地域での観光(12.0%)」、「近親者の介護(11.9%)」と続く。

## 多拠点居住のきっかけ

多拠点居住者 n=1498 (%)



多拠点生活志向タイプでは、TVやSNSによるきっかけも高い傾向。また、地域愛着タイプではその地域での観光、家族支援タイプでは近親者の介護・死別、受動的ワークタイプでは異動やその地域での仕事がきっかけとなっている。

### 多拠点居住のきっかけ | 全体平均との差分が高い上位5項目

多拠点生活志向タイプ (n=428)		全体平均との差分 (pt)
1	在宅勤務やテレワークの浸透	9.7
2	TVや雑誌で特集されていた	9.2
3	SNSで紹介されていた	8.3
4	行き来する地域での観光	8.3
5	ボーナス副業・兼業などによる臨時収入	7.4

地域愛着タイプ (n=99)		全体平均との差分 (pt)
1	行き来する地域での観光	10.2
2	在宅勤務やテレワークの浸透	4.9
3	友人が多拠点居住生活をして いた	3.9
4	行き来する地域での副業	2.8
5	役職定年	2.1

趣味満喫タイプ (n=160)		全体平均との差分 (pt)
1	在宅勤務やテレワークの浸透	6.0
2	行き来する地域での観光	1.1

※3位以降は、全体平均より低い項目のため割愛

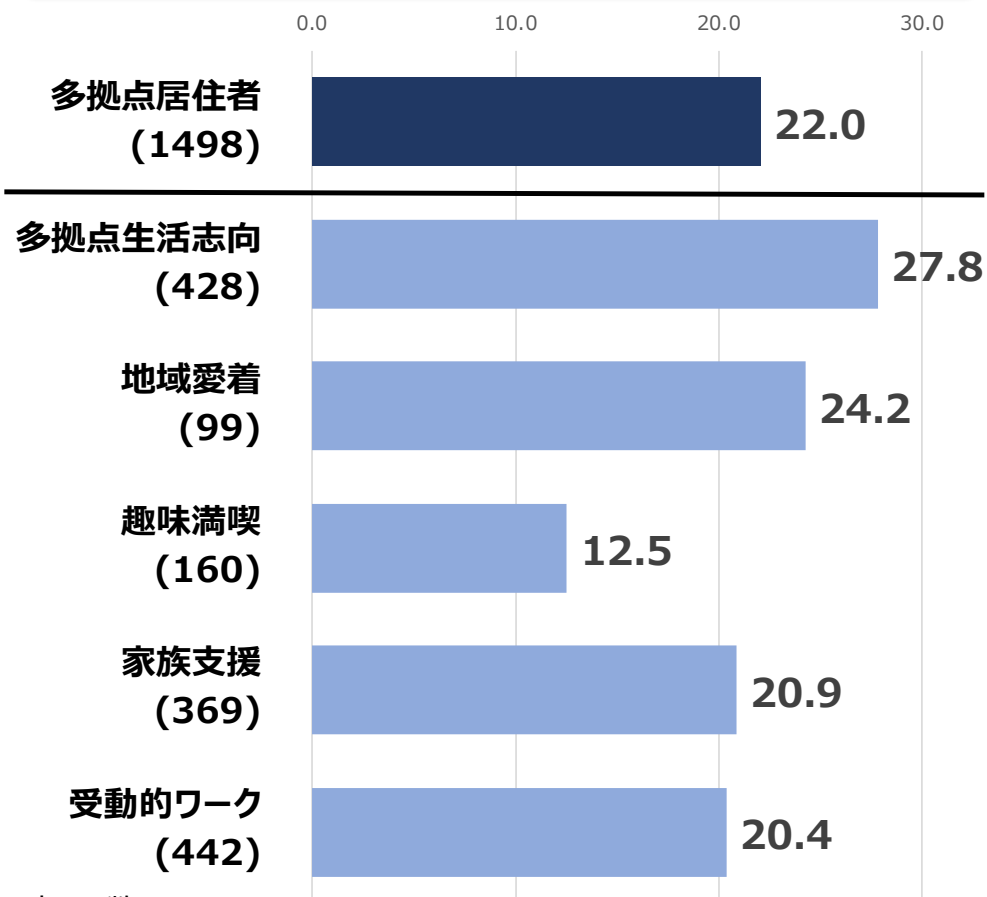
家族支援タイプ (n=369)		全体平均との差分 (pt)
1	近親者の介護	2.7
2	近親者の死別	0.9
3	降格・降給	0.7
4	子どもの独立	0.5
5	役職定年	0.3

受動的ワークタイプ (n=442)		全体平均との差分 (pt)
1	不本意な異動	1.6
2	行き来する地域での仕事（副 業は除く）	1.4
3	近親者の介護	1.2
4	転職	0.1
5	子どもの就学	0.1

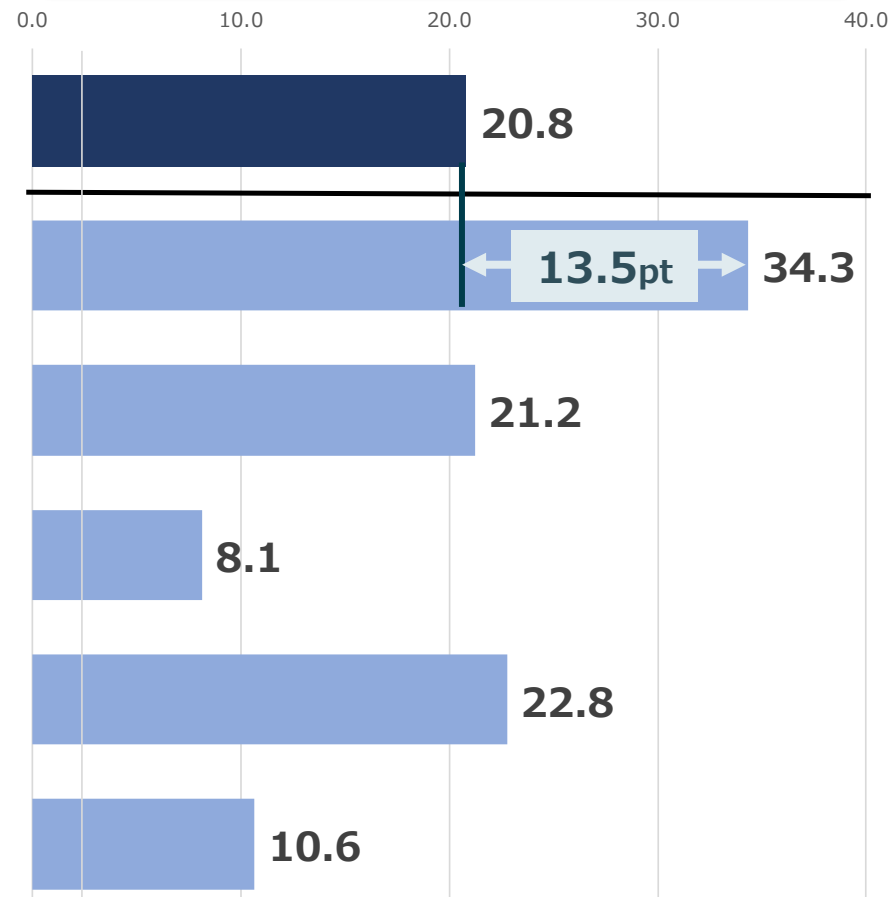
多拠点居住開始時に転職をした・副業を始めたケースは、全体で2割程度。

いずれのケースも、多拠点生活志向タイプで特に高く、副業については全体と比べて13.5ptの差がある。

多拠点居住開始時に転職をした割合 (%)



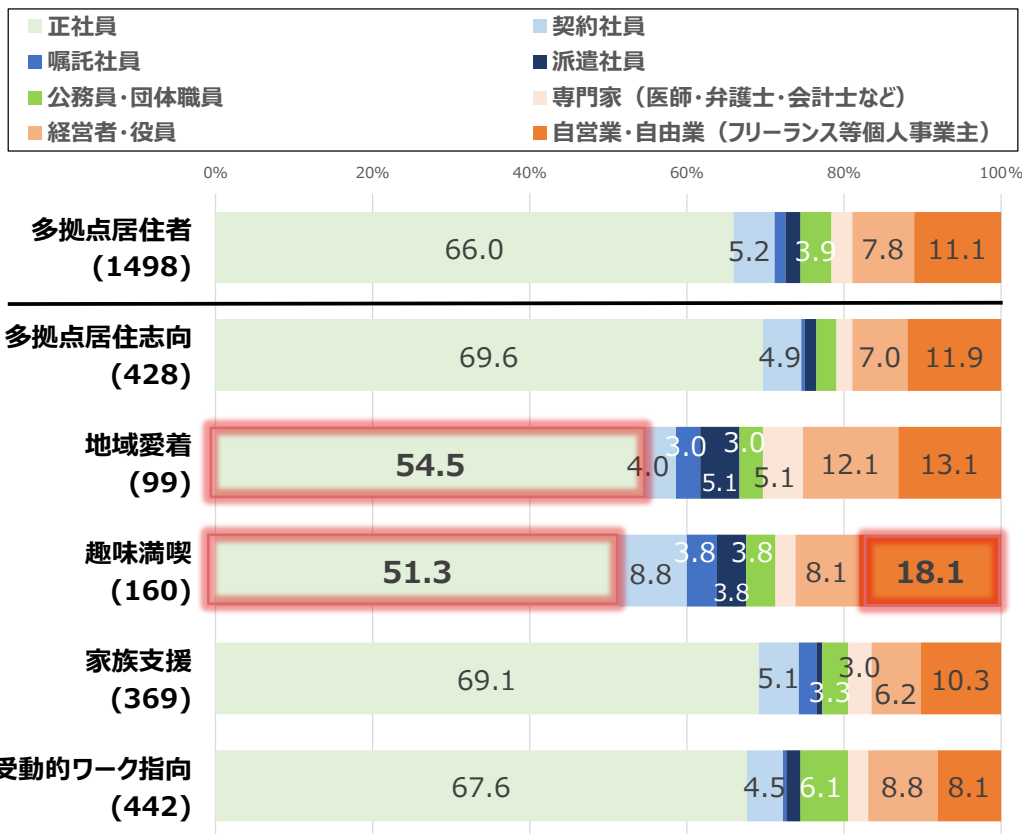
副業を始めた割合 (%)



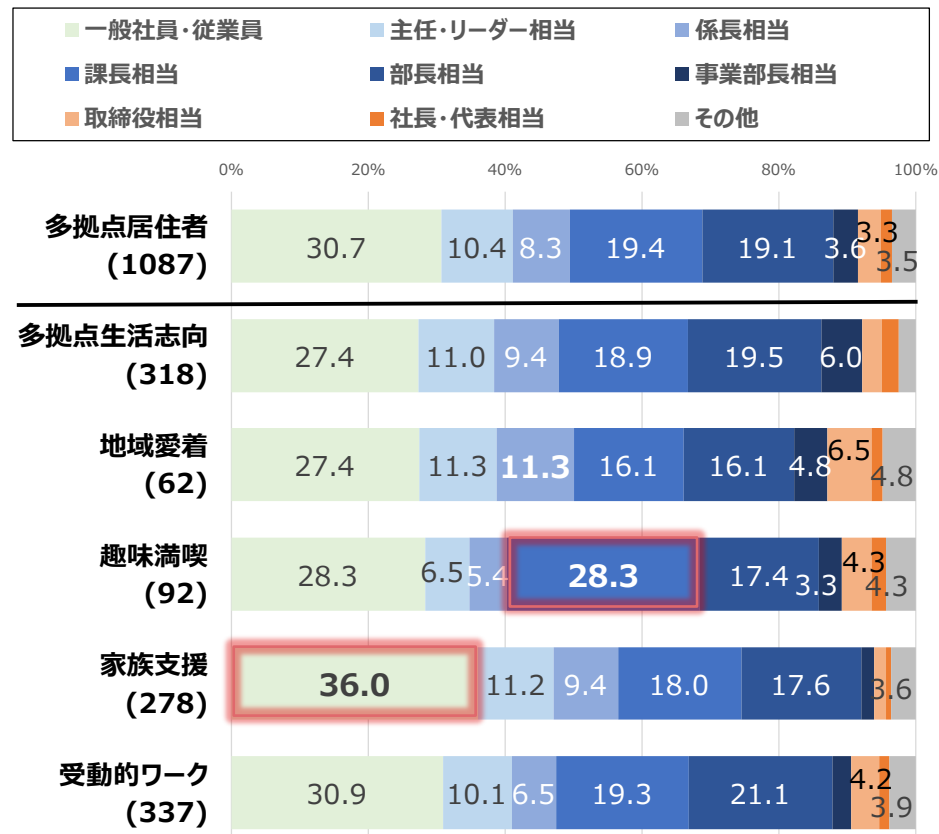


雇用形態について、地域愛着・趣味満喫タイプでは「正社員」が少ない。また、趣味満喫タイプでは「自営業・自由業」が多い。  
職位について、趣味満喫タイプでは「課長相当」が多く、家族支援タイプでは「一般社員・従業員」が多い傾向。

## 現在の雇用形態 (%)



## 現在の職位 (%)

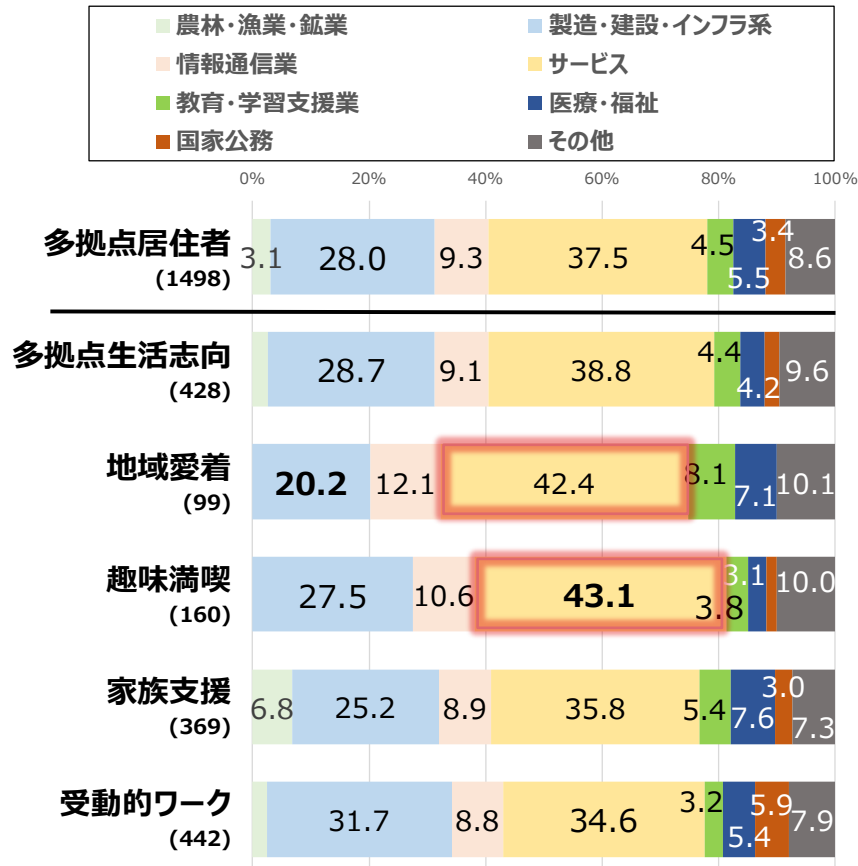


ベース：正社員・公務員・専門家 n=1087

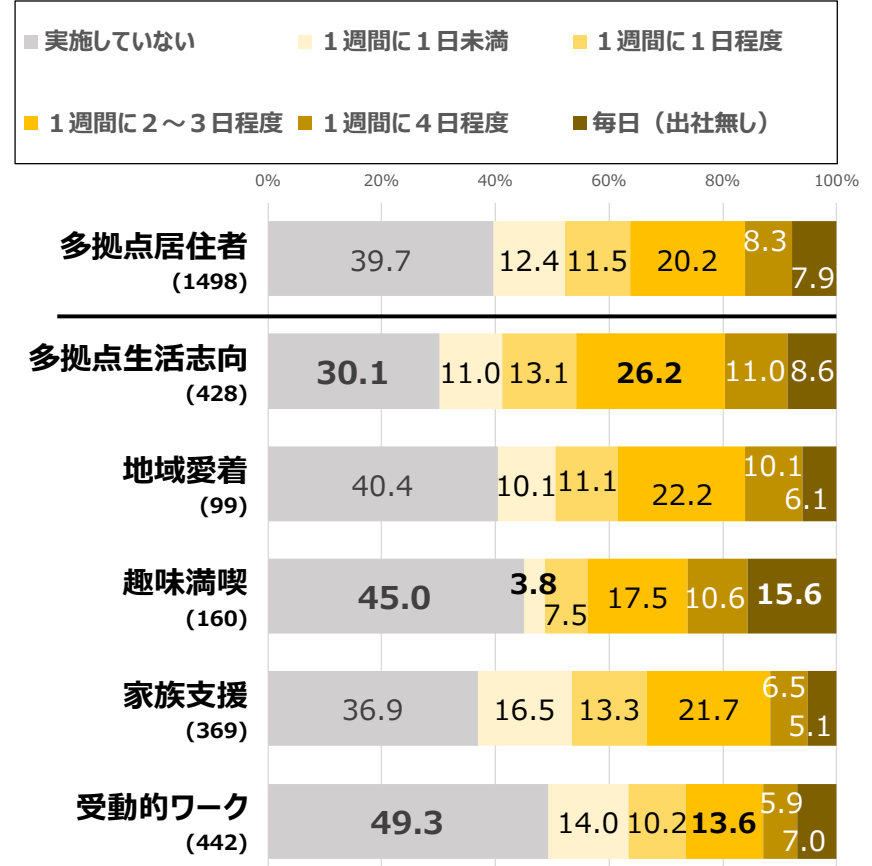
業種について、全般的にサービス業の割合が多く、地域愛着タイプと趣味満喫タイプで多い傾向。

テレワーク頻度については、多拠点生活志向タイプではテレワーク実施割合が多く、受動的ワークタイプでは実施率が少ない。

## 現在の業種 (%)



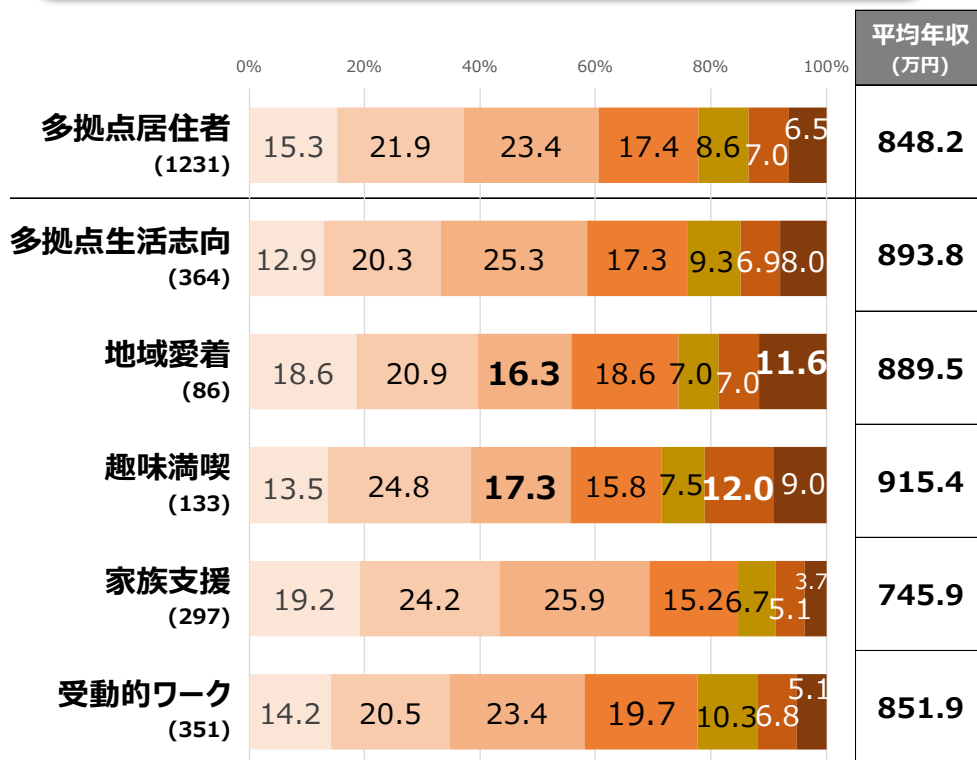
## 現在のテレワーク頻度 (%)



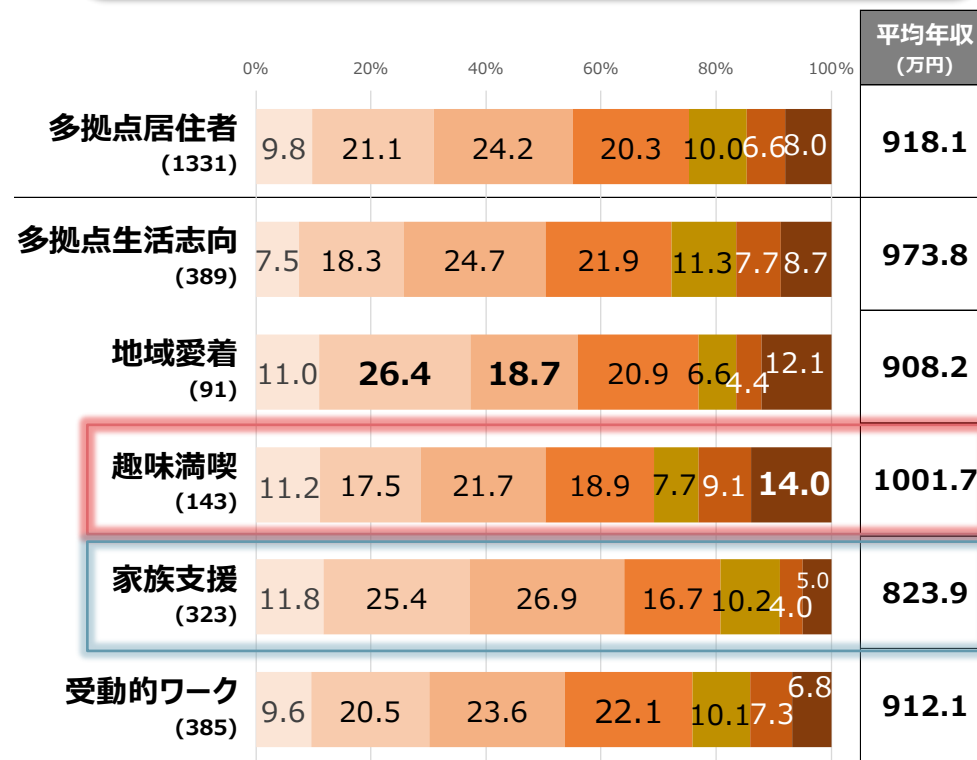
※カッコ内はn数 ※全体±5ptsを太字 ※3%未満は非表記

現在の世帯年収については、趣味満喫タイプが1001.7万で最も高く、次いで多拠点生活志向タイプ(973.8万)が続く。  
家族支援タイプは823.9万で最も低い傾向。

## 世帯年収（「わからない」除く） | 多拠点居住前 (%)



## 世帯年収（「わからない」除く） | 現在 (%)

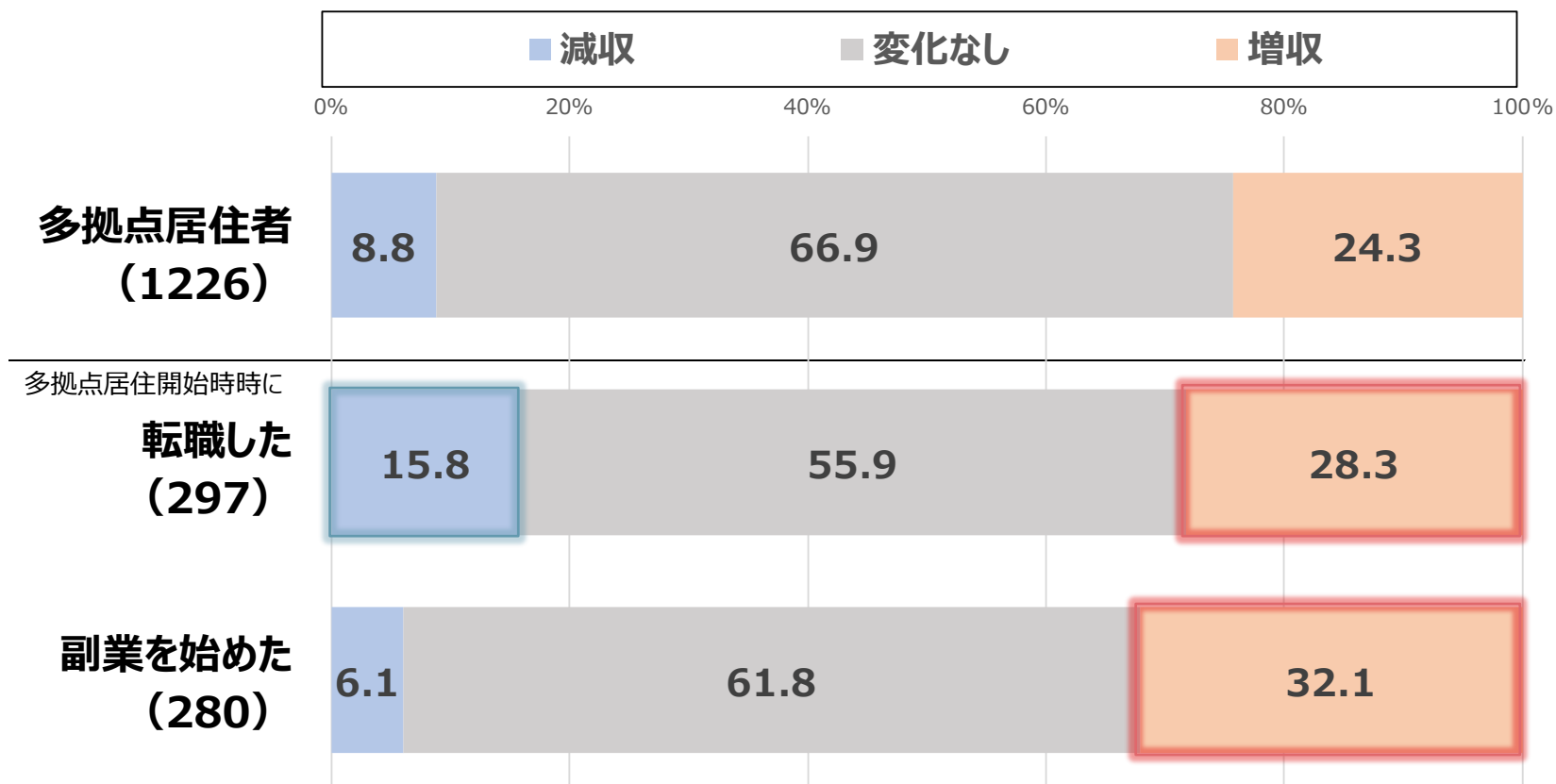


■ 300万円未満 ■ 600万円未満 ■ 900万円未満 ■ 1200万円未満 ■ 1500万円未満 ■ 2000万円未満 ■ 2000万円以上

多拠点居住前から世帯年収が減った割合は8.8%、増えた割合は24.3%。

多拠点居住開始時に転職すると、減収・増収のいずれも高くなる。また、副業を始めると増収する割合が高くなる。

### 多拠点居住前～現在の世帯年収変化（「わからない」除く）（%）

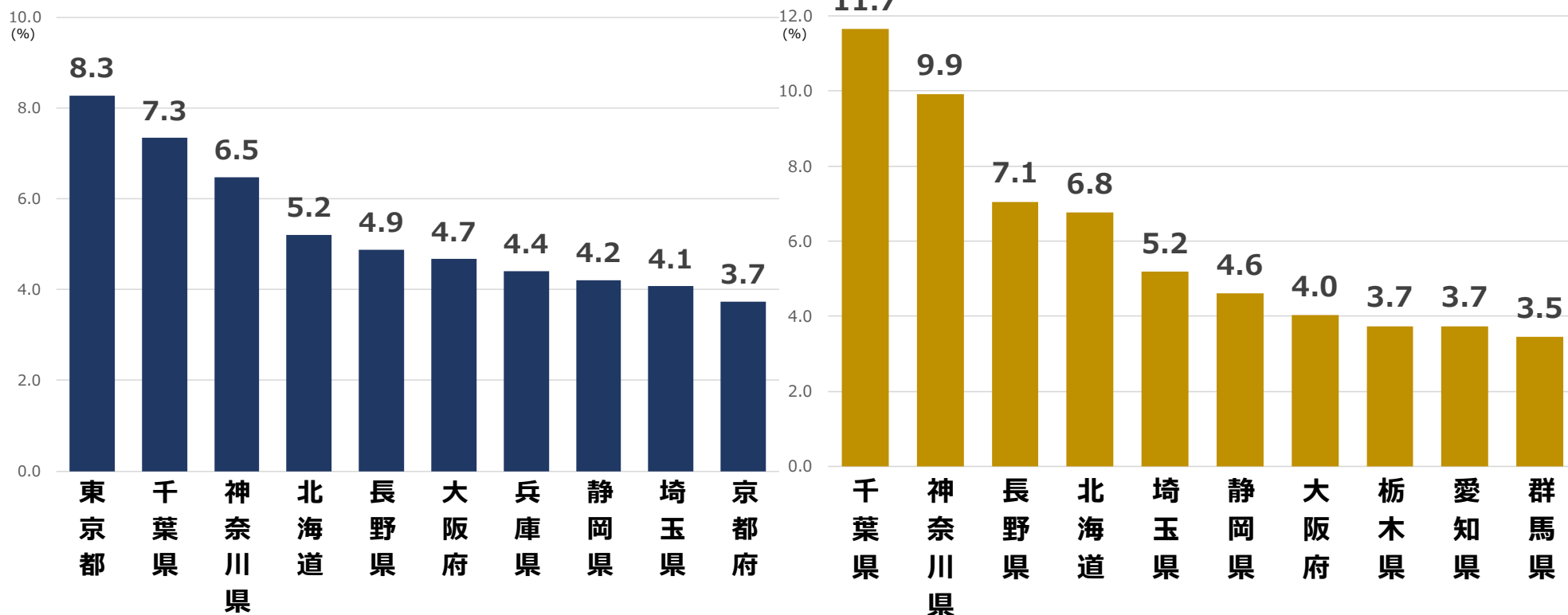


主たる居住地が東京23区内の多拠点居住者に着目し、サブ拠点先を確認したところ、「千葉県(11.7%)」「神奈川県(9.9%)」が高く、隣接する都道府県へ行き来する割合が高い傾向がみられる。

## 多拠点居住を行っている地域 | 上位10地域 (%)

多拠点居住者全体 (n=1498)

うち、東京23区メイン居住者 (n=695)



主たる居住地が東京23区内にある多拠点居住者のサブ拠点先は、5つのタイプごとに異なる傾向がみられた。

※主たる居住地を東京23区にもっている多拠点居住者ベース

注：サンプル数が少ないため参考値

## 多拠点居住を行っている地域 | 全体平均との差分が高い上位5地域

多拠点生活志向タイプ (n=212)		全体平均との差分 (pt)
1	三重県	1.4
2	北海道	1.3
3	岩手県	1.2
4	山梨県	1.2
5	長崎県	1.2

地域愛着タイプ (n=52)		全体平均との差分 (pt)
1	長野県	14.1
2	沖縄県	4.4
3	京都府	3.3
4	福岡県	3.2
5	香川県	3.1

趣味満喫タイプ (n=90)		全体平均との差分 (pt)
1	静岡県	6.5
2	山梨県	4.8
3	長野県	2.9
4	神奈川県	2.3
5	千葉県	1.7

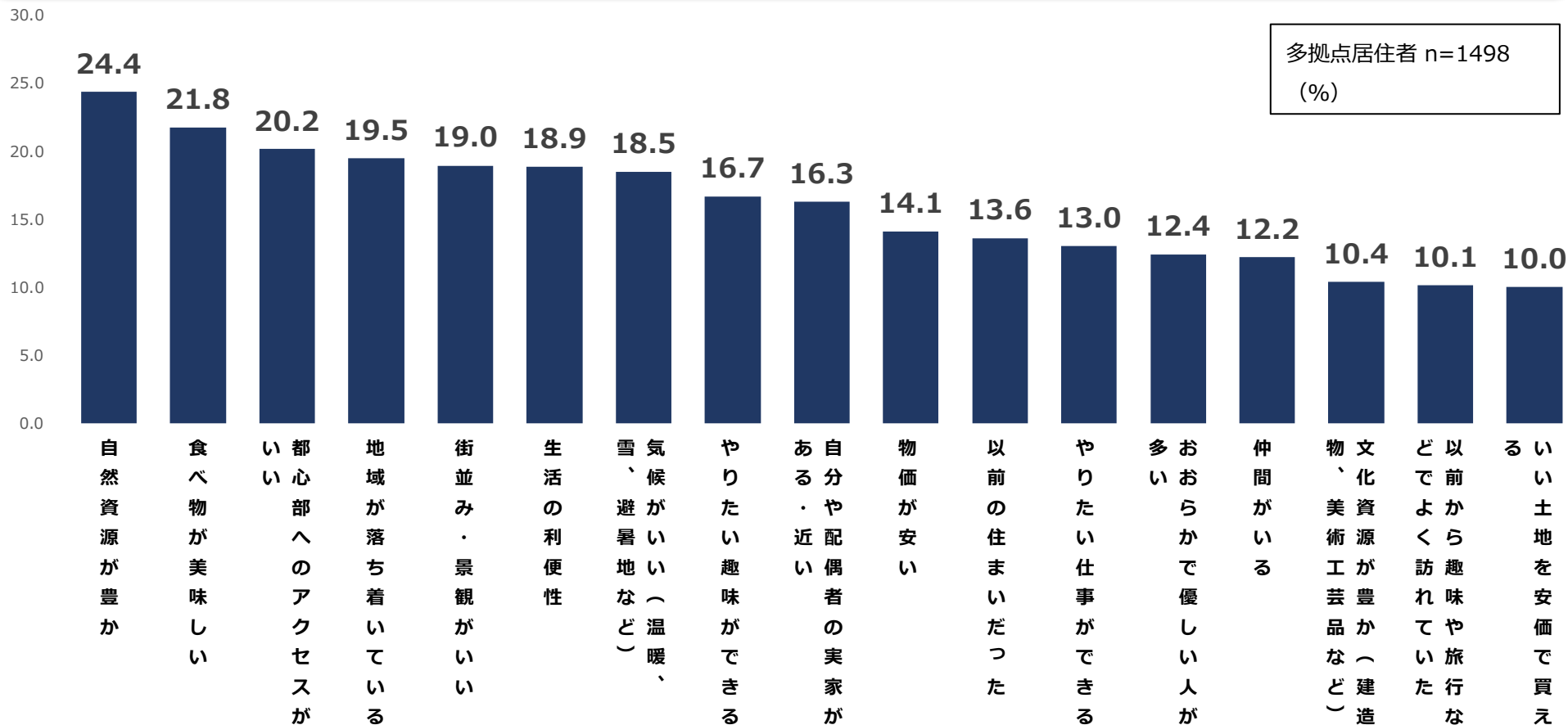
家族支援タイプ (n=154)		全体平均との差分 (pt)
1	青森県	2.9
2	石川県	2.3
3	神奈川県	1.8
4	群馬県	1.7
5	千葉県	1.3

受動的ワークタイプ (n=187)		全体平均との差分 (pt)
1	愛知県	4.3
2	大阪府	3.5
3	兵庫県	2.2
4	福島県	1.6
5	京都府	1.3

東京23区メイン居住者

多拠点居住を行っている地域を選んだ理由は、「自然資源が豊か(24.4%)」「食べ物が美味しい(21.8%)」「都心部へのアクセスがいい(20.2%)」といった、“地域の魅力”に関する項目が理由として多くあがった。

### 多拠点居住を行っている地域を選んだ理由



多拠点生活志向・地域愛着・趣味満喫タイプでは、“地域の魅力”に関する理由が多い。他方で、家族支援・受動的ワークタイプでは、「近親者の介護先」や「単身赴任・転勤・異動」などの環境面に関する理由が多い特徴がみられた。

## 多拠点居住を行っている地域を選んだ理由 | 全体平均との差分が高い・低い項目

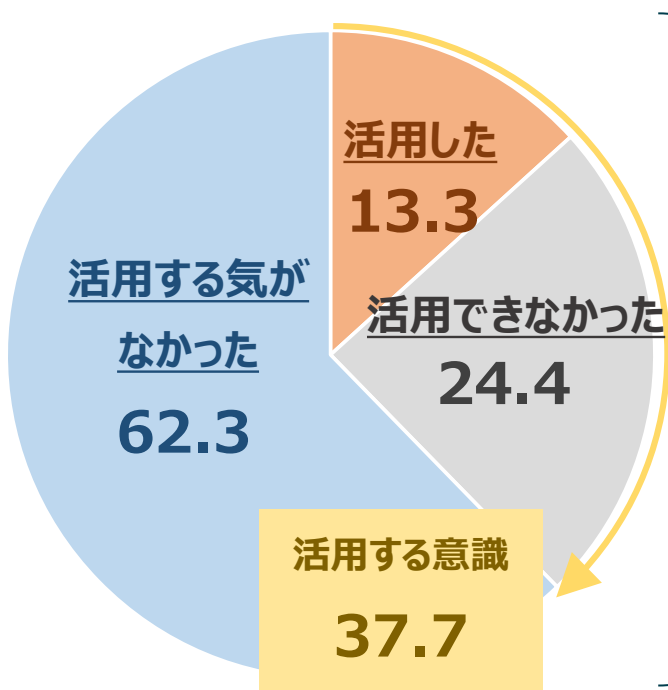
	多拠点生活志向タイプ (n=428)	地域愛着タイプ (n=99)	趣味満喫タイプ (n=160)	家族支援タイプ (n=369)	受動的ワークタイプ (n=442)
(大)  全体平均との差分  (小)	食べ物が美味しい	自然資源が豊か	自然資源が豊か	近親者の介護先	<u>その他の理由</u>
	街並み・景観がいい	やりたい趣味ができる	気候がいい	教育環境が整っている	近親者の介護先
	おおらかで優しい人が多い	街並み・景観がいい	やりたい趣味ができる	以前の住まいだった	以前の住まいだった
	自然資源が豊か	以前から趣味や旅行などでよく訪れていた	都心部へのアクセスがいい	その地域内での職が多い	以前の勤め先だった
	やりたい仕事ができる	気候がいい	食べ物が美味しい	都心部へのアクセスがいい	自分や配偶者の実家がある・近い
	地域が落ち着いている	地域が落ち着いている	街並み・景観がいい	家族がその地域を希望していた	以前の就学先だった
	気候がいい	文化資源が豊か	以前から趣味や旅行などでよく訪れていた	以前の就学先だった	その地域内での職が多い
	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
	以前の就学先だった	教育環境が整っている	文化資源が豊か	食べ物が美味しい	都心部へのアクセスがいい
	以前から仕事の関係でよく訪れていた	以前の勤め先だった	おおらかで優しい人が多い	以前から趣味や旅行などでよく訪れていた	街並み・景観がいい
	以前の住まいだった	自分や配偶者の実家がある・近い	助成金や補助金がもらえる・多い	おおらかで優しい人が多い	地域が落ち着いている
	自分や配偶者の実家がある・近い	助成金や補助金がもらえる・多い	教育環境が整っている	やりたい趣味ができる	気候がいい
	都心部へのアクセスがいい	その他の理由	その地域内での職が多い	自然資源が豊か	やりたい趣味ができる
	近親者の介護先	近親者の介護先	近親者の介護先	街並み・景観がいい	食べ物が美味しい
その他の理由	以前の住まいだった	やりたい仕事ができる	気候がいい	自然資源が豊か	

単身赴任、  
転勤、異動  
など

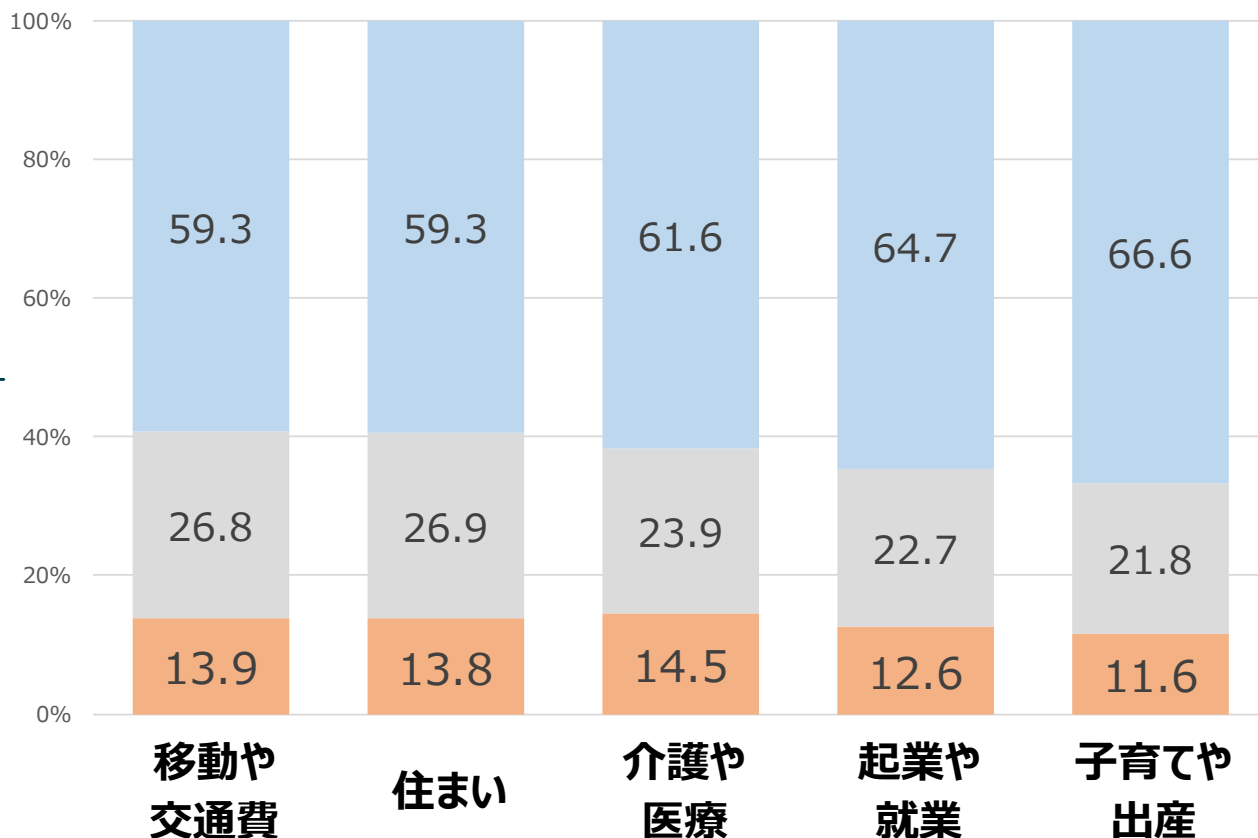


多拠点居住に関する自治体や企業からの補助金・助成金について、活用する意識（「活用した」+「活用できなかった」）は約4割。  
詳細をみると、「移動や交通費」「住まい」に関する支援を求める意識がやや高い。

## 多拠点居住に関する補助金・助成金



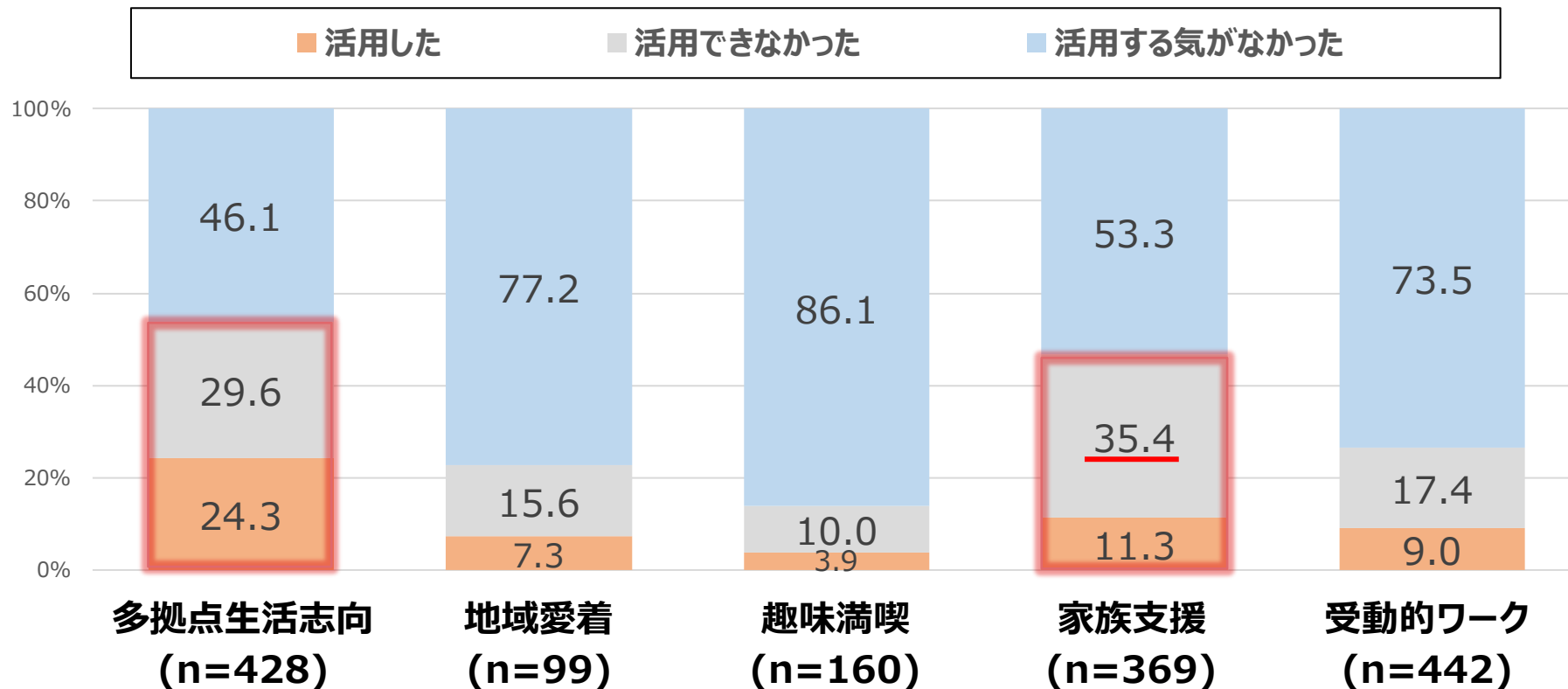
多拠点居住者 n=1498 (%)



※「活用する気がなかった」が低い順にソート

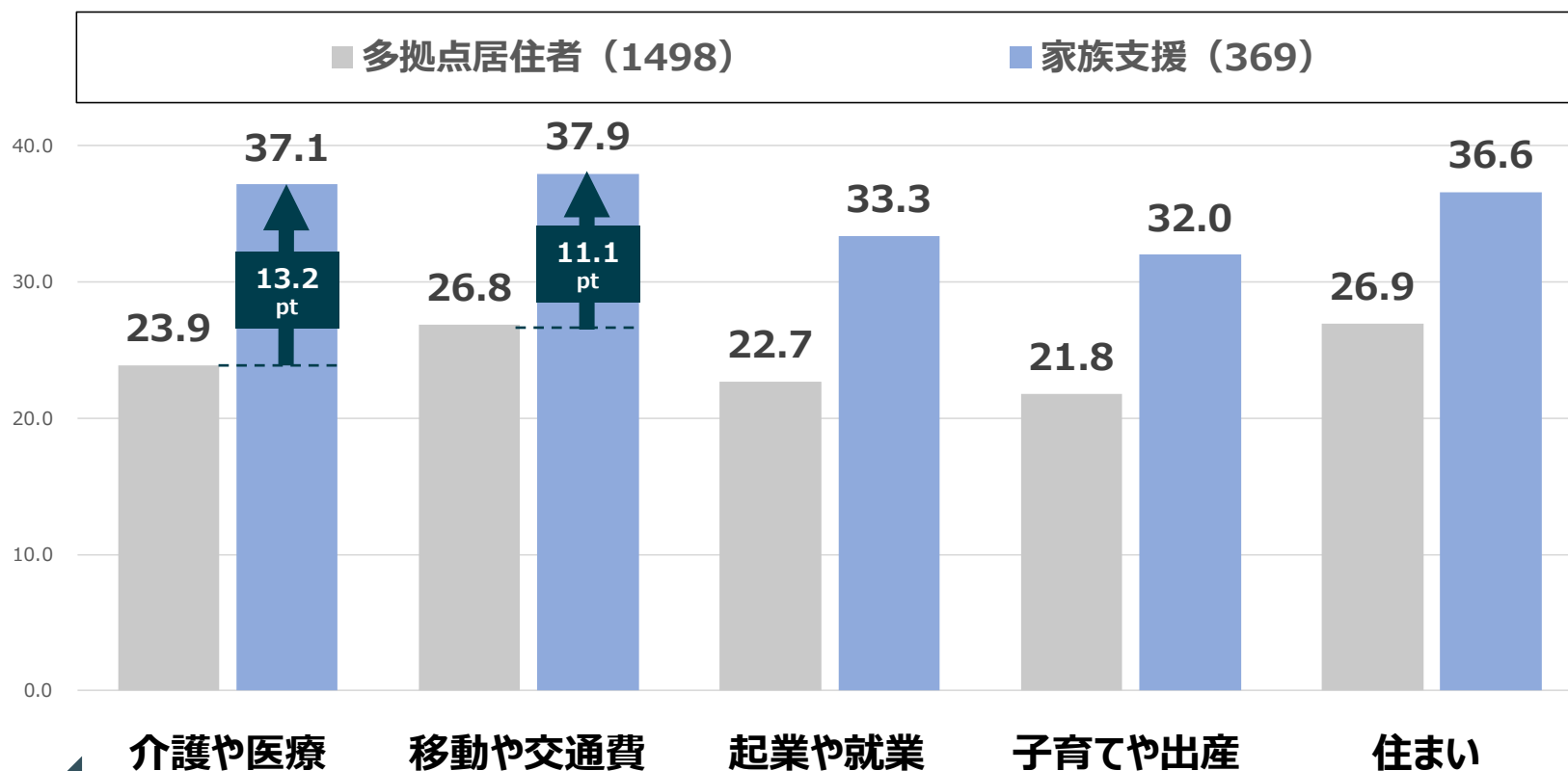
支援の活用状況をタイプ別にみると、多拠点生活志向タイプと家族支援タイプで活用する意識が高い。  
また、家族支援タイプにおいては、「活用できなかった」割合が多い傾向。

## 多拠点居住に関する補助金・助成金



家族支援タイプについて、補助金・助成金を活用できなかった割合を詳細別にみたところ、「介護や医療」「移動や交通費」のギャップが大きく、課題感が示唆される。

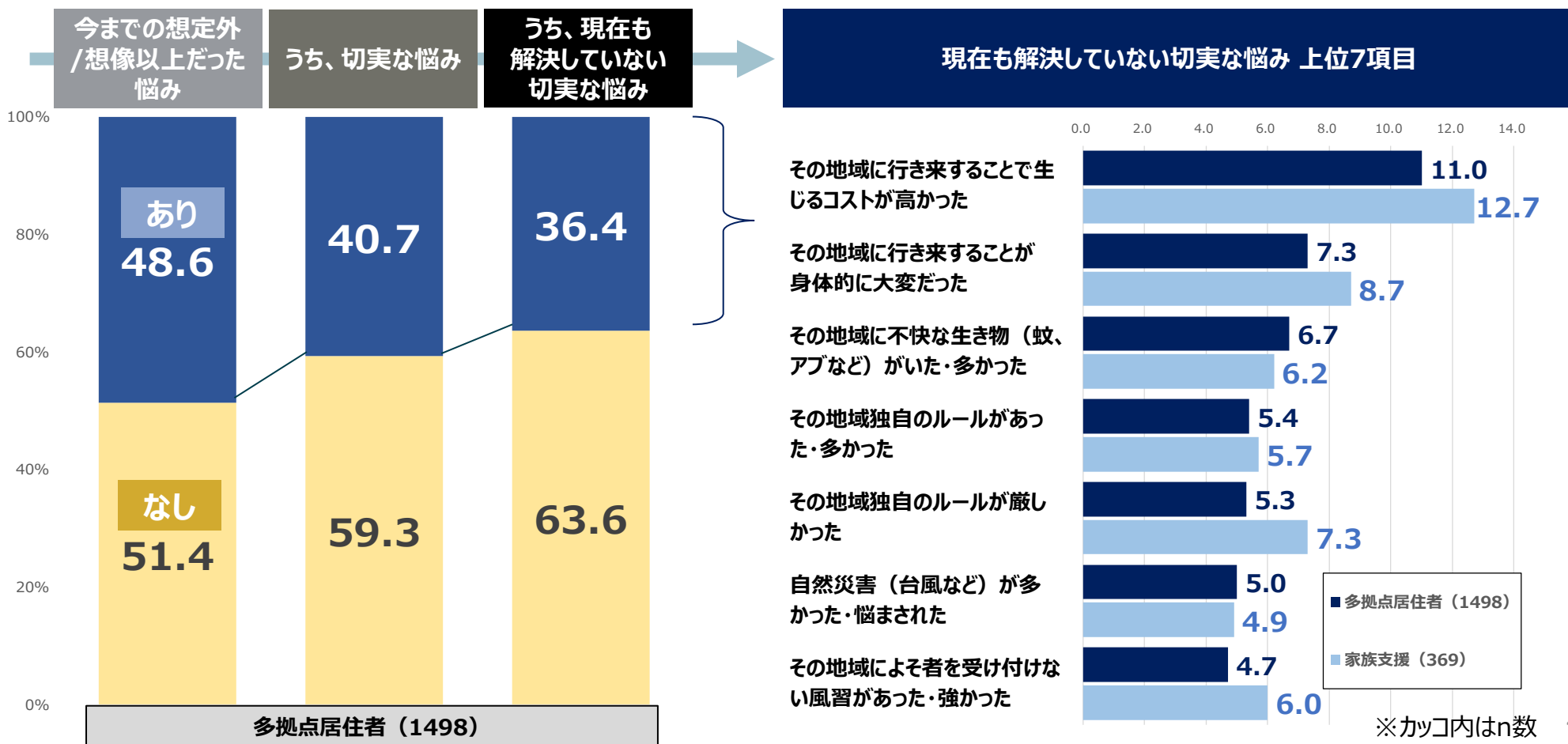
### 補助金・助成金 | 活用できなかった割合 (%)



GAP大

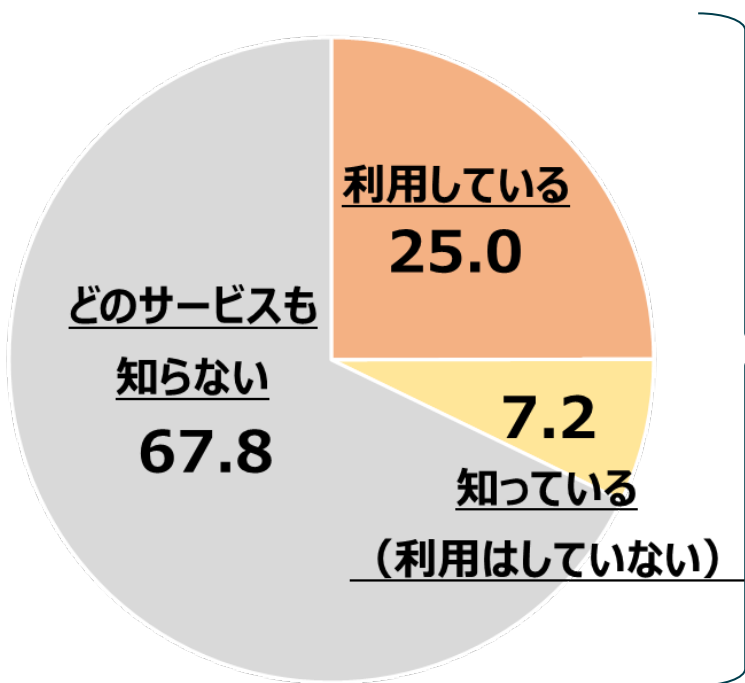
多拠点居住者の中で、現在も解決していない切実な悩みがある割合は36.4%。詳細をみると、「その地域に行き来することで生じるコストが高かった」「その地域に行き来することが身体的に大変だった」が高く、家族支援タイプでその傾向が強い。

## 多拠点居住の悩み (%)

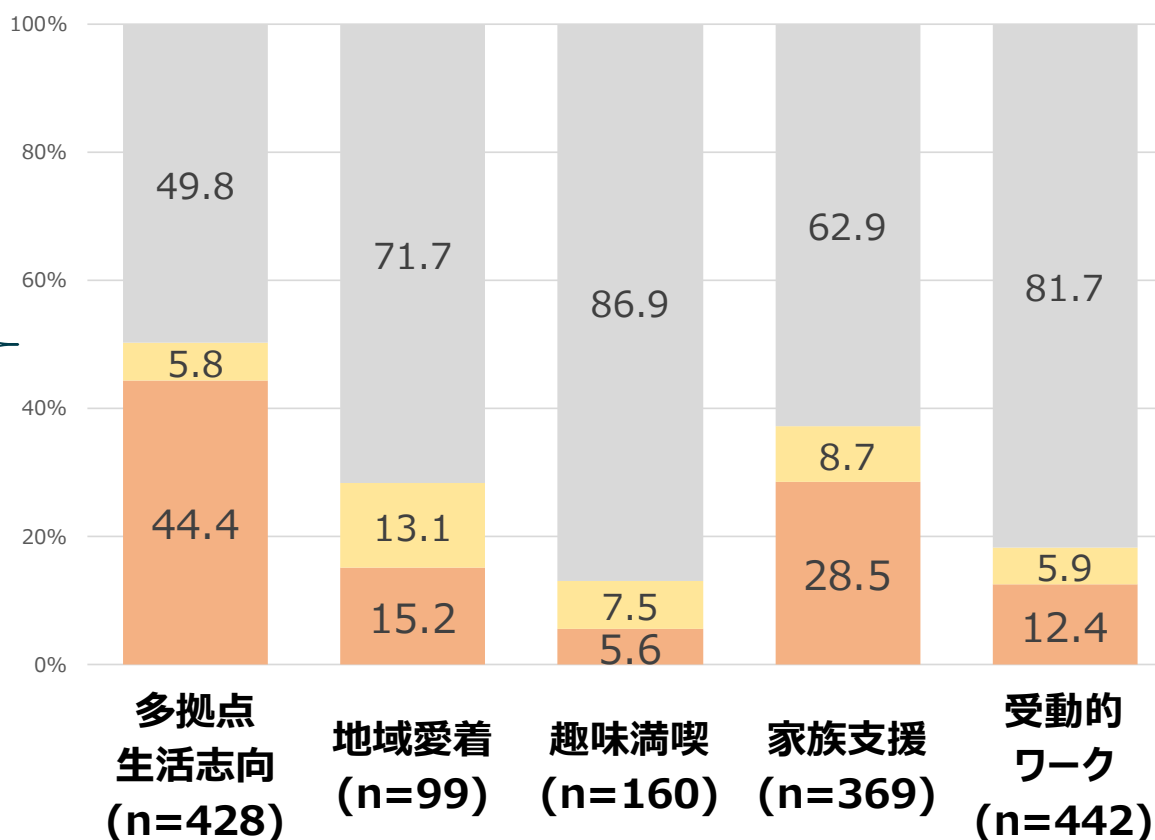


多拠点居住者の4人に1人が、多拠点居住に関するサブスクリプションサービスを利用していると回答。  
特に、多拠点生活志向タイプで利用している割合が高い。

## 多拠点居住に関するサブスクリプションサービスの利用・認知



多拠点居住者 n=1498 (%)



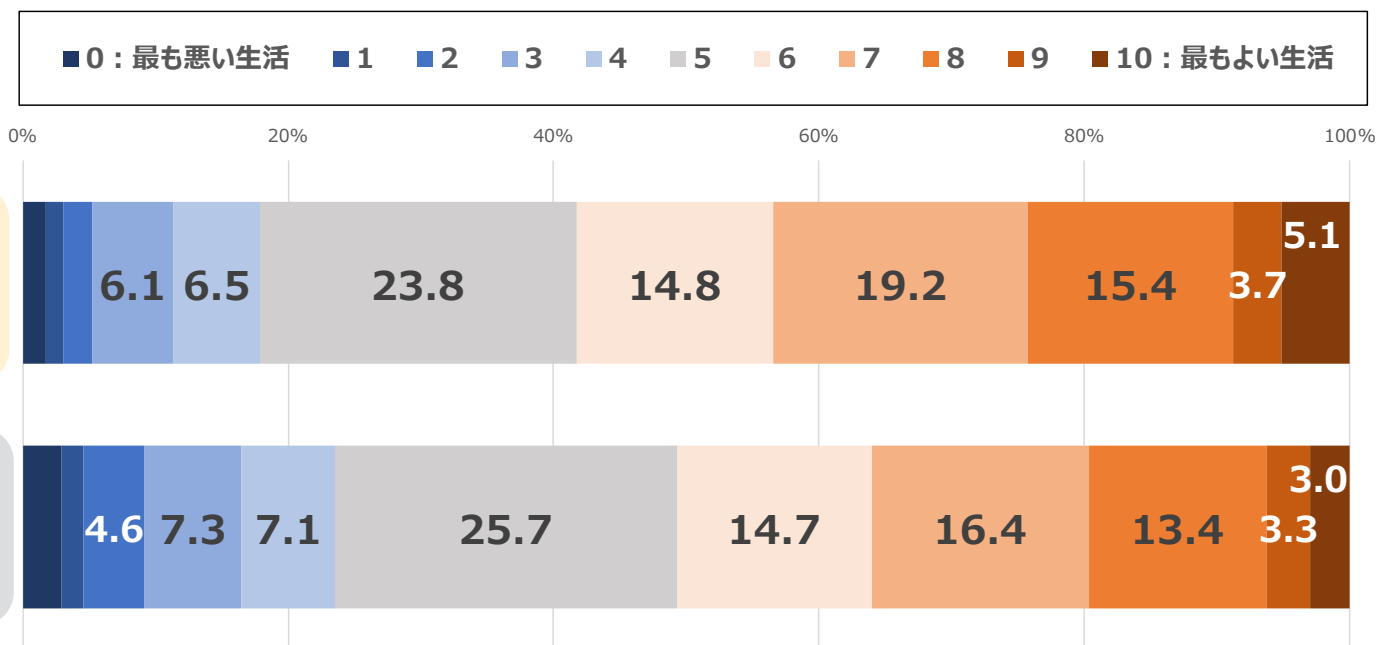
## 利用しているサブスクリプションサービス内容 (%)

		多拠点居住者全体 (n=1498)	多拠点生活志向タイプ (n=428)	地域愛着タイプ (n=99)	趣味満喫タイプ (n=160)	家族支援タイプ (n=369)	受動的ワークタイプ (n=442)
地域での住まい関連	ADDRESS 【アドレス】	9.7	19.2	7.1	0.6	9.5	4.5
	HafH 【ハフ】	5.7	12.6	4.0	1.3	5.1	1.4
	Backpackers Home 【バックパッカーズホーム】	5.2	11.0	1.0	1.3	5.7	1.6
	Hostel Life 【ホステルライフ】	5.0	9.6	3.0	0.6	6.0	1.8
	LivingAnywhere Commons 【リビングエニウェア commons】	4.1	8.9	2.0	0.6	4.1	1.4
	地方での住まいに関する その他サービス	3.1	7.0	1.0	3.8	1.1	1.4
地域での仕事・副業関連	ふるさと兼業	4.8	12.1	3.0	0.6	3.3	0.9
	SMOUT 【スマウト】	3.3	8.6	2.0	0.6	1.9	0.5
	Skill Shift 【スキルシフト】	3.2	8.4	4.0	0.6	0.8	0.9
	WORKATORS 【ワーケイターズ】	2.9	8.6	1.0	0.6	1.1	0.2
	スタヒロ	2.7	7.0	2.0	0.6	1.9	0.2
	SAGOJO 【サゴジョー】	2.5	7.7	1.0	0.6	0.3	0.2
	YOSOMON ! 【ヨソモン】	2.5	5.8	0.0	0.6	2.2	0.7
	Loino 【ロイノ】	2.3	6.5	0.0	0.6	1.1	0.5
	地方での仕事・副業に関する その他サービス	2.7	6.3	1.0	1.9	1.6	0.9

## 【2】多拠点居住者のウェルビーイング実態

主観的幸福感を多拠点居住者/計画者・意向者で比較したところ、多拠点居住者の方が高い傾向がみられた。  
“多拠点居住”という生活スタイルがウェルビーイングを高める傾向がうかがえる。

## 主観的幸福感 (%)

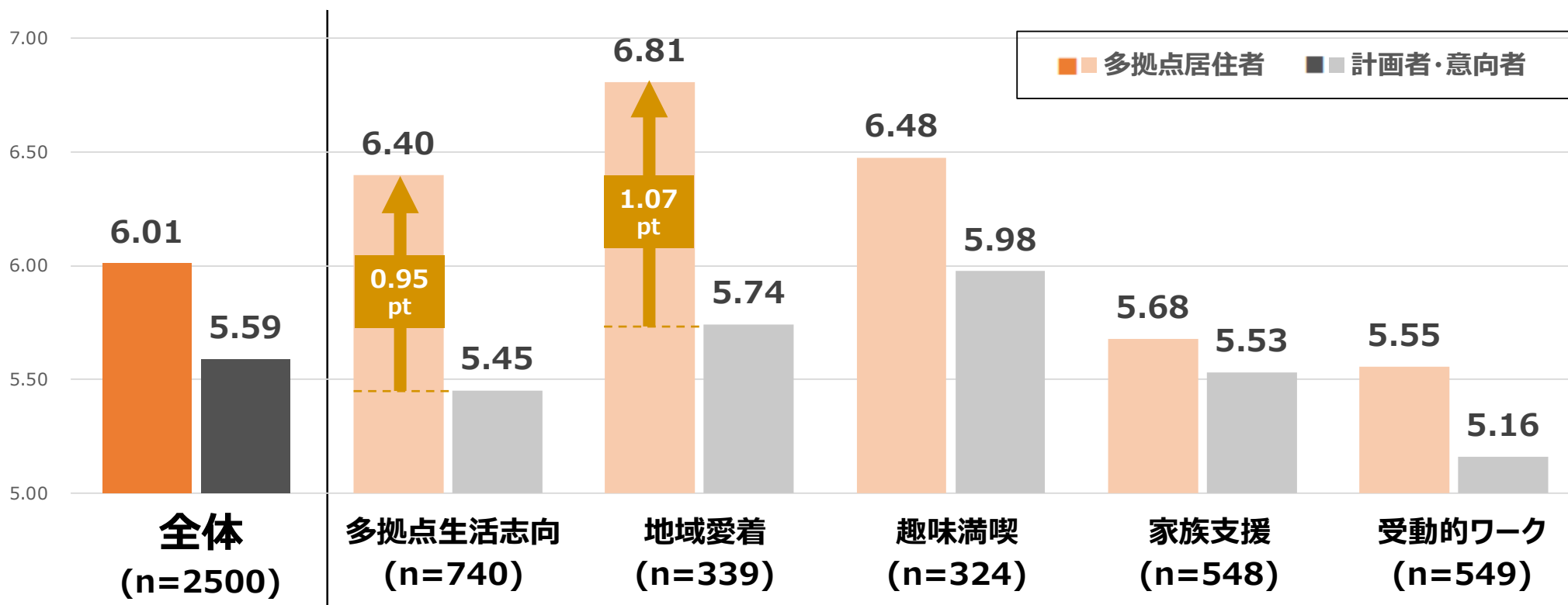


【0：最も悪い生活】⇔【10：最もよい生活】のどちらに近いかを11段階で聴取（キャントリルラダー）



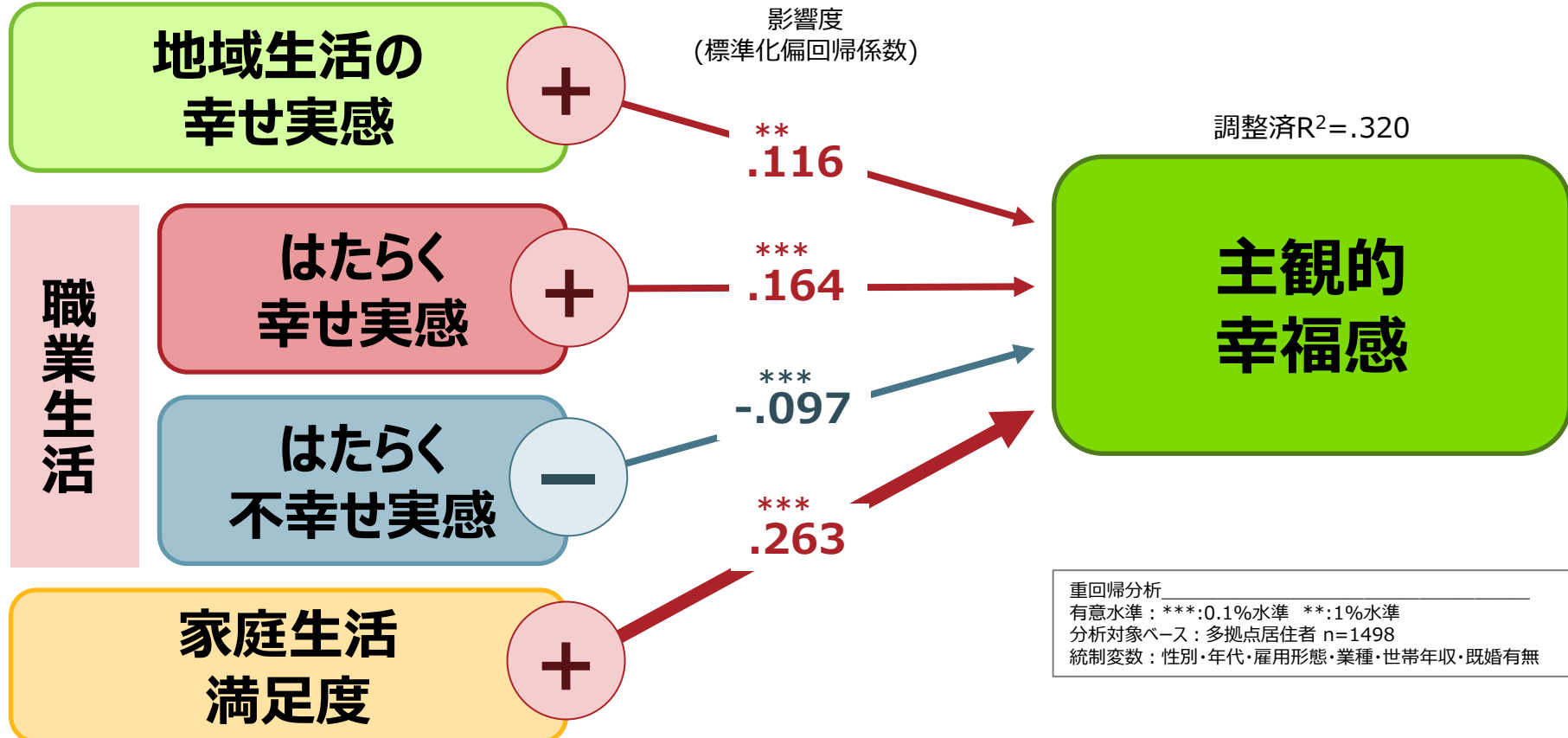
主観的幸福感について、どのタイプにおいても多拠点居住者で高い傾向がみられた。  
特に多拠点生活志向タイプや地域愛着タイプでその傾向が強い。

## 主観的幸福感（平均値/pt）



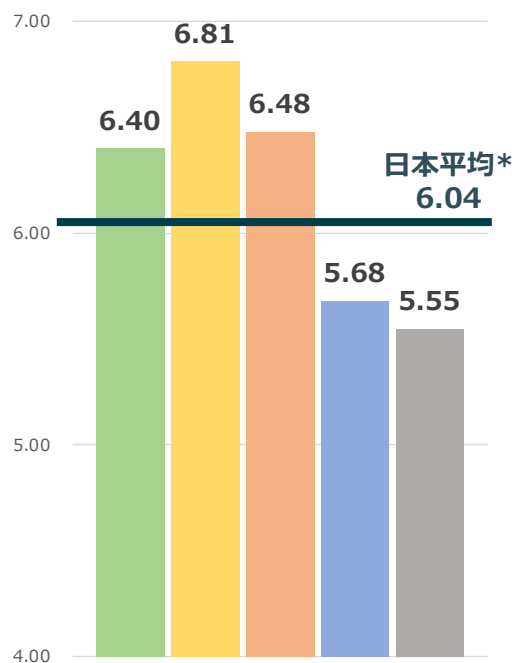
主観的幸福感に対して、地域生活・職業生活・家庭生活の各ウェルビーイングが影響を与えている。  
特に、家庭生活満足度は影響力が強いことが確認された。

## ウェルビーイング要因



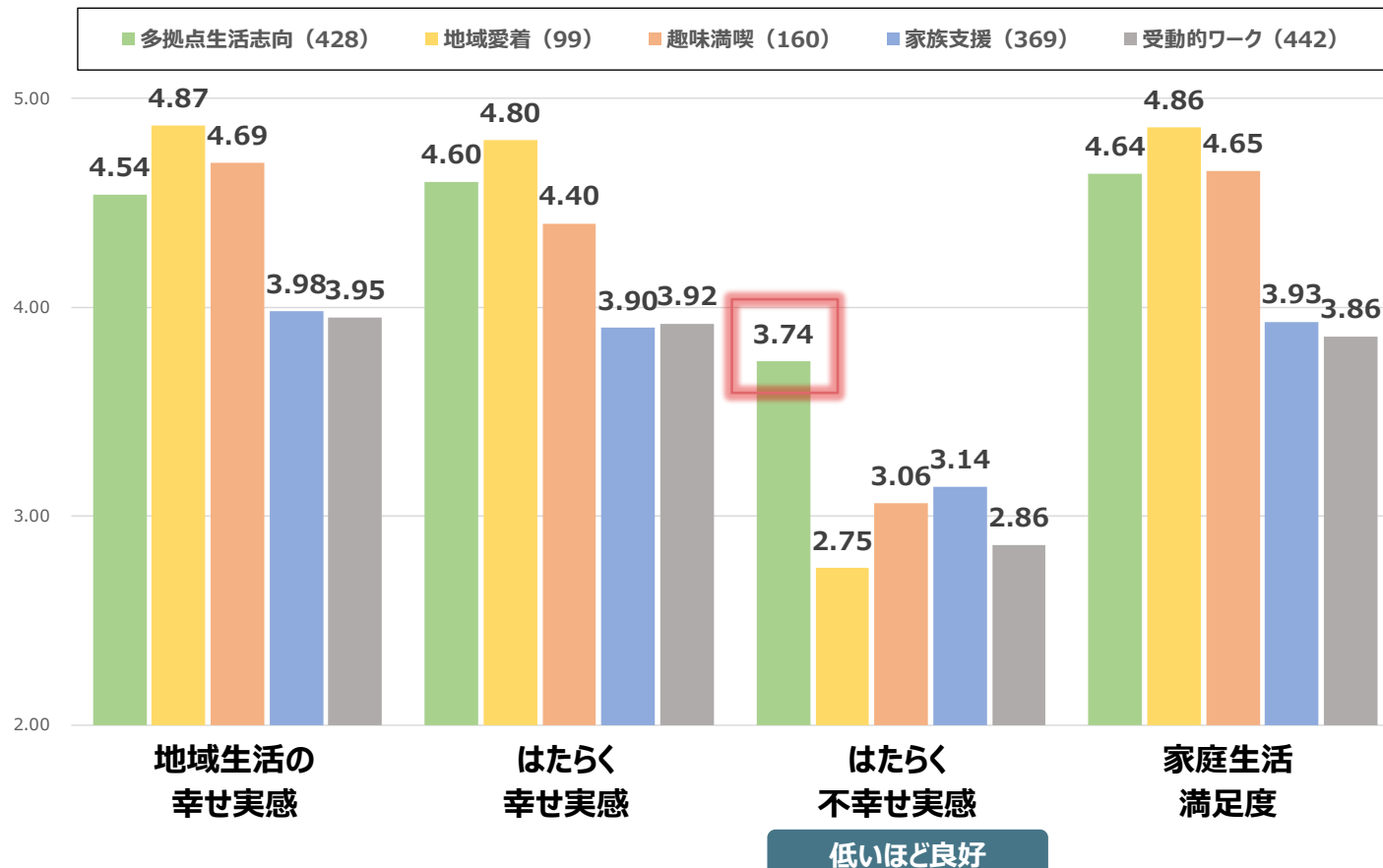
地域愛着タイプは、すべてのウェルビーイングにおいて主観的な状態の評価が高い。  
また、多拠点生活志向タイプは「はたらく不幸せ実感」が3.74ptで、最も高い傾向がみられる。

## 主観的幸福感 (平均値/pt)



主観的幸福感

## 地域・職業・家庭生活のウェルビーイング (平均値/pt)

地域生活の  
幸せ実感はたらく  
幸せ実感はたらく  
不幸せ実感家庭生活  
満足度

低いほど良好

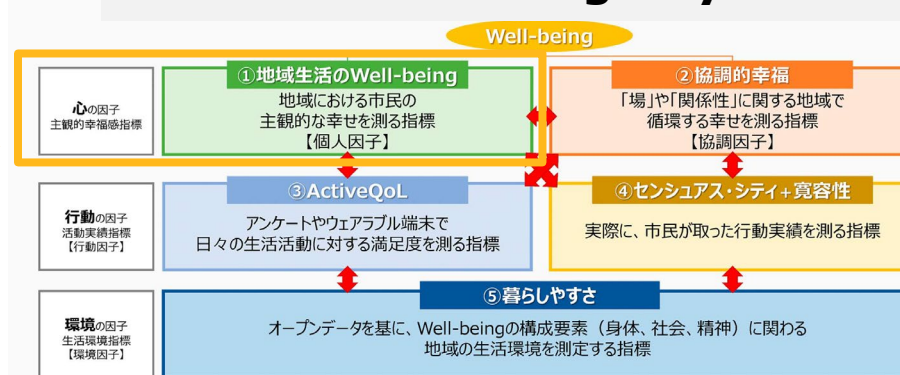
地域に暮らす市民の幸せの形やその要因は多様である。

しかし、個々人が主観的に幸せを感じる地域生活の要因については、概ね以下の10の因子によって説明することができる。

## 地域生活のWell-being指標



## Liveable Well-Being City 指標\*



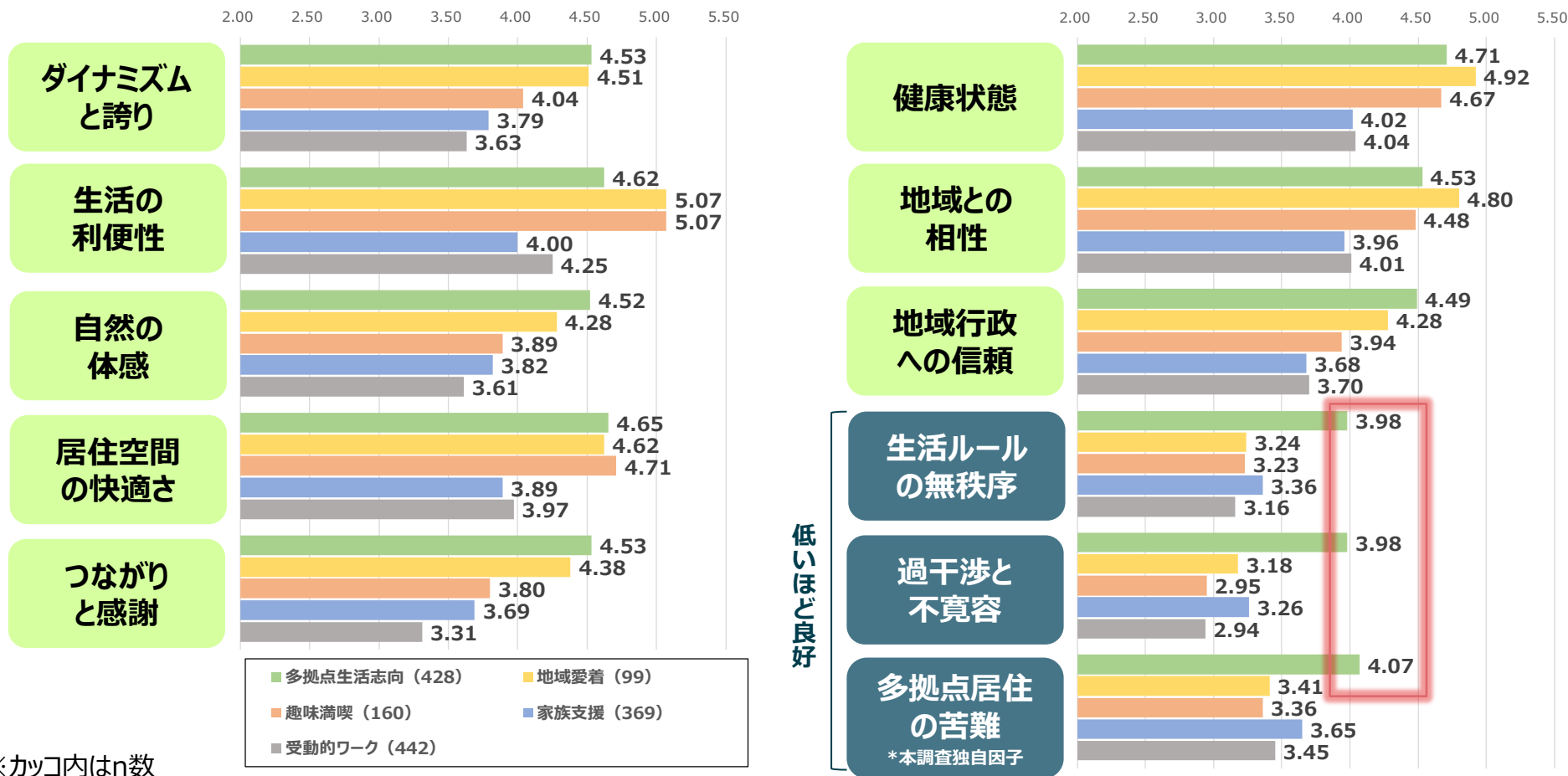
### \*Liveable Well-Being City 指標

市民の幸福感を高めるまちづくりに際するわが国独自の指標として開発された指標。政府が推進する「デジタル田園都市国家構想」において、地域におけるWell-Beingを計測する指標として活用されている。

一般社団法人スマートシティ・インスティテュート

地域生活のウェルビーイング因子の「ダイナミズムと誇り」「自然の体感」「つながりと感謝」「地域行政への信頼」において、多拠点生活志向タイプが最も高い。一方で、低いほど良好な「生活ルールの無秩序」「過干渉と不寛容」「多拠点居住の苦難」も、最も高い傾向がみられる。

## 地域生活ウェルビーイング10因子+「多拠点居住の苦難」※本調査独自因子（平均値/pt）



就業者が働くことを通じて感じる幸せ／不幸せの形は様々である。  
しかし、その要因に着目すると概ね以下それぞれ7つの因子によって説明することができる。

## はたらく人の幸せの7因子



## はたらく人の不幸せの7因子



【診断ページ】

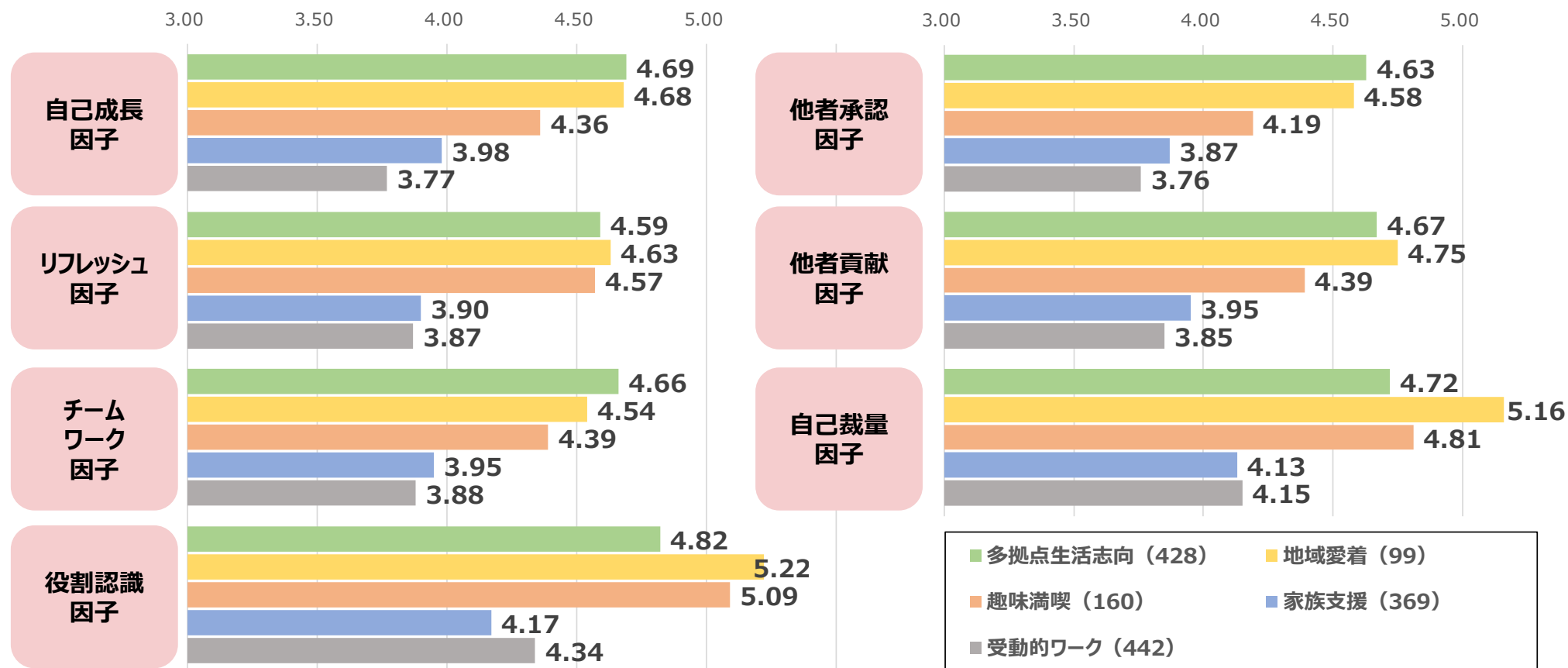


詳細解説 [https://rc.persol-group.co.jp/thinktank/spe/well-being/img/Well-Being\\_AtWorkScale.pdf](https://rc.persol-group.co.jp/thinktank/spe/well-being/img/Well-Being_AtWorkScale.pdf)

原著論文「職業生活における主観的幸福感因子尺度/不幸福感因子尺度の開発」(Inoue.et.al.,日本感情心理学会, 2022,12)

多拠点生活志向、地域愛着、趣味満喫タイプと比較して、家族支援、受動的ワークタイプの  
はたらく幸せ因子のスコアは低い傾向。

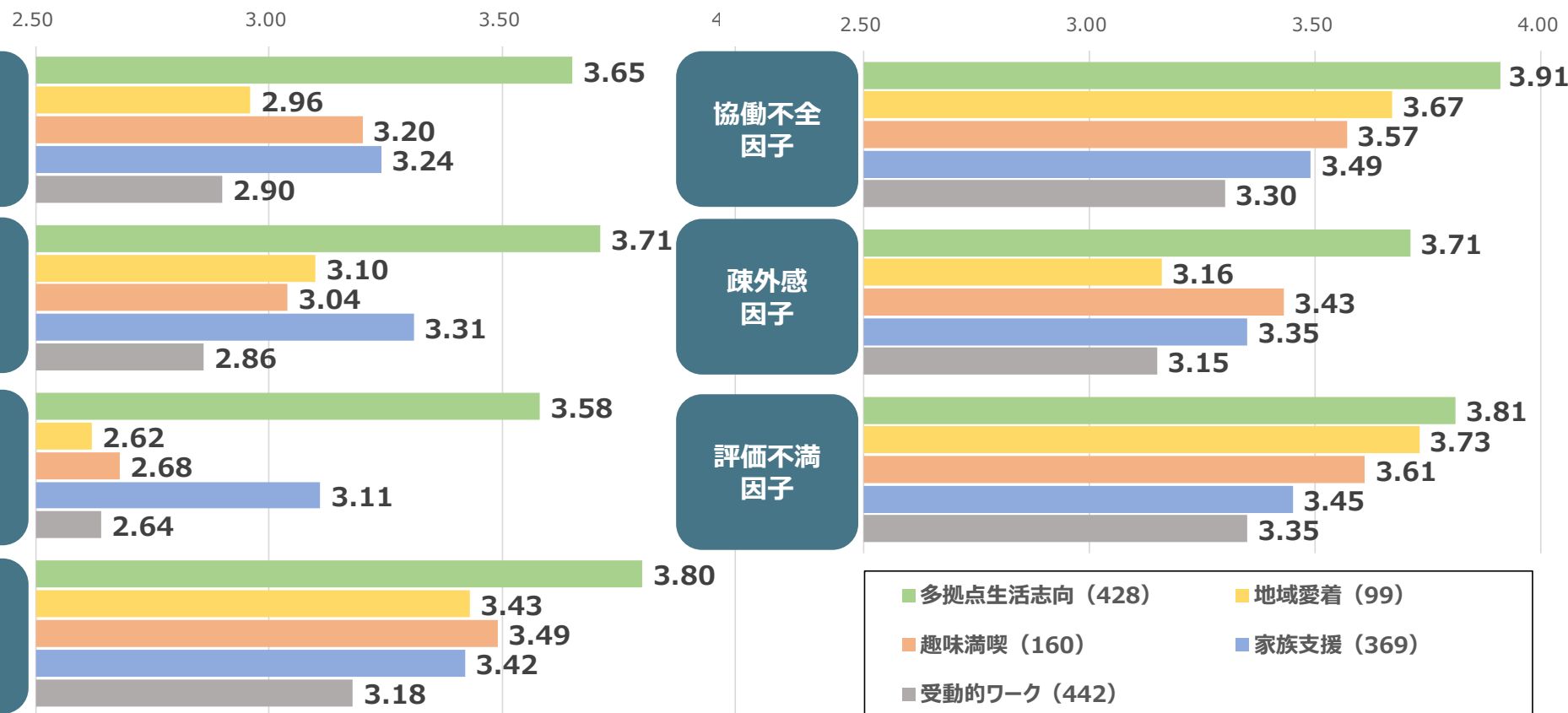
### はたらく幸せ7因子（平均値/pt）



はたらく不幸せ因子の全7因子において、多拠点生活志向タイプが最も高く、特に「不快空間」が他タイプとの差が大きい。

※スコアが低いほど良好

### はたらく不幸せ7因子（平均値/pt）



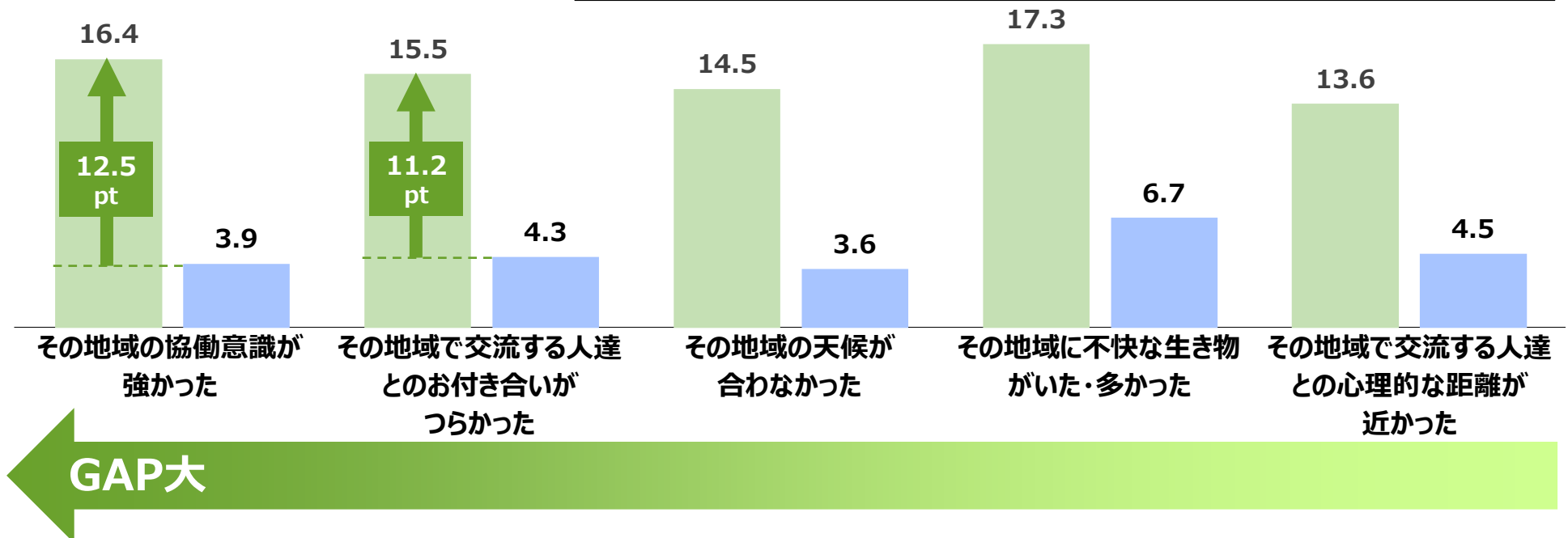


現在も解決していない切実な悩みについて、多拠点生活志向タイプにおける【はたらく幸せ・不幸せ実感の高群\*】と多拠点居住者を比較したところ、「その地域の協働意識が強い」「交流する人達との付き合いがづらい」といった“地域で交流する人達との関わり”のGAPが大きい傾向。

\* 「はたらく幸せ実感」「はたらく不幸せ実感」のスコアがともに4.0pt以上の多拠点生活志向タイプ

### 多拠点居住の現在も解決していない切実な悩み【GAPの大きい上位5項目】（%）

■ 多拠点生活志向【はたらく幸せ・不幸せ実感高群】(110) ■ 多拠点居住者(1498)

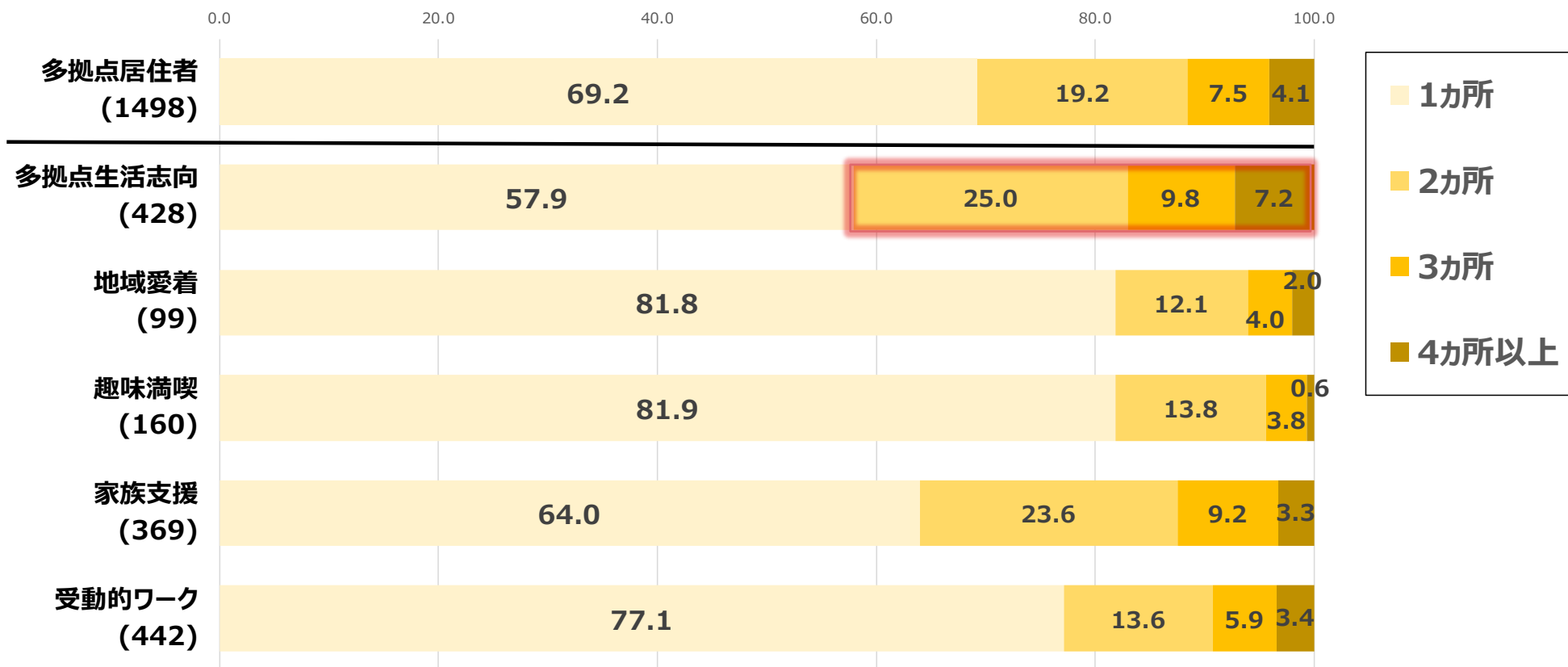


※ カッコ内はn数

## 【3】多拠点居住者の地域との関わり合い

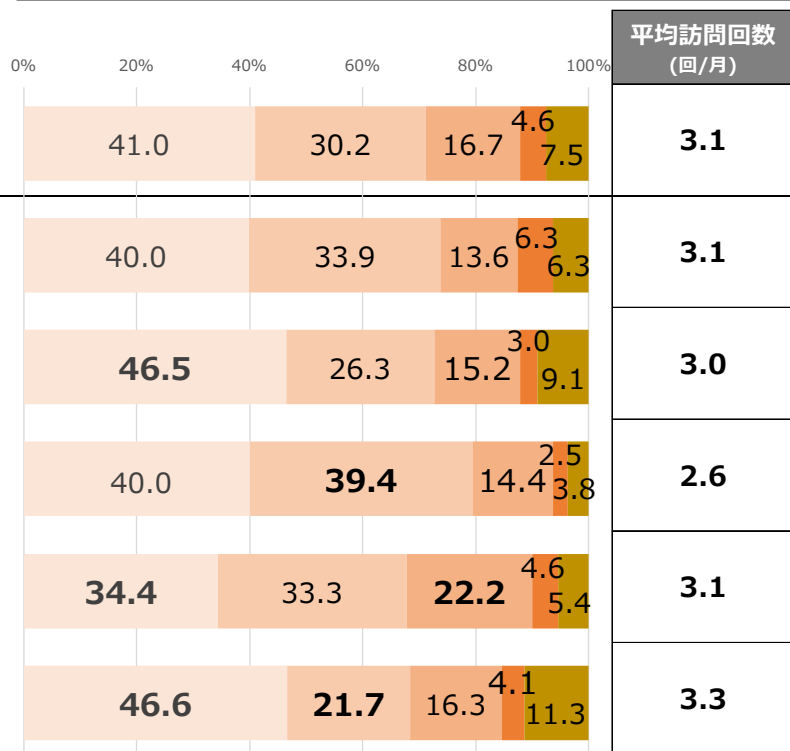
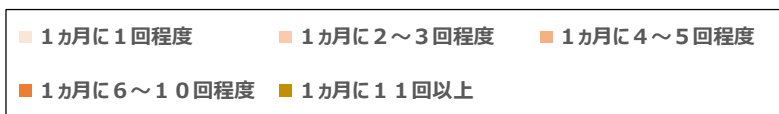
多拠点生活志向タイプでは、2拠点以上の地域にサブ拠点を持っている割合が高い。

多拠点居住を行っているサブ拠点数 (%)

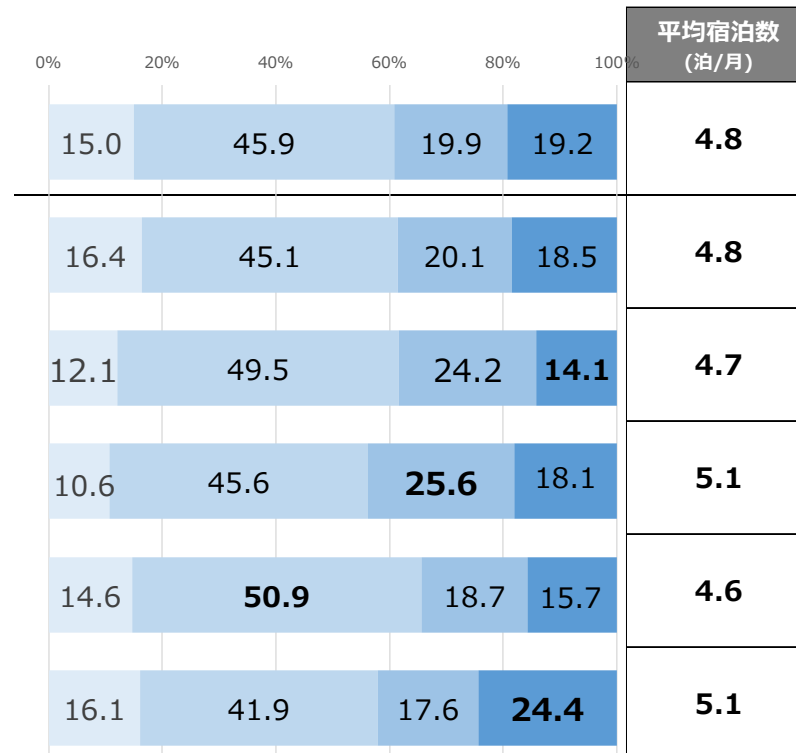


家族支援タイプにおいては、サブ拠点への訪問回数は3.1回と全体平均並みであるのに対して、宿泊日数は4.6泊で最も少なく、訪問1回あたりの宿泊日数の少ないことが確認された。（＝訪問1回あたりの移動負荷が高い）

## 訪問回数



## 宿泊日数

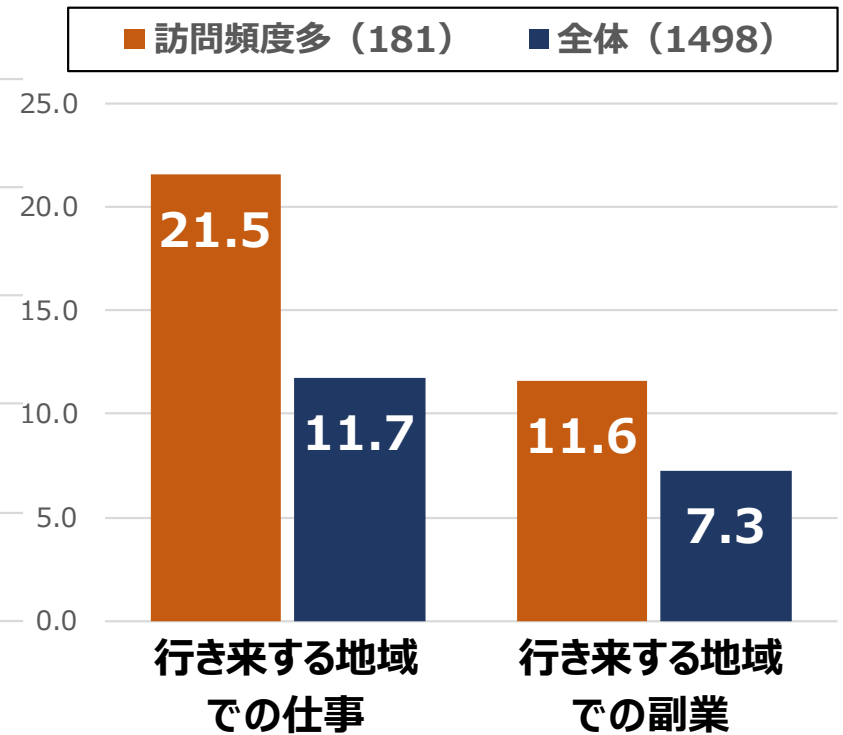
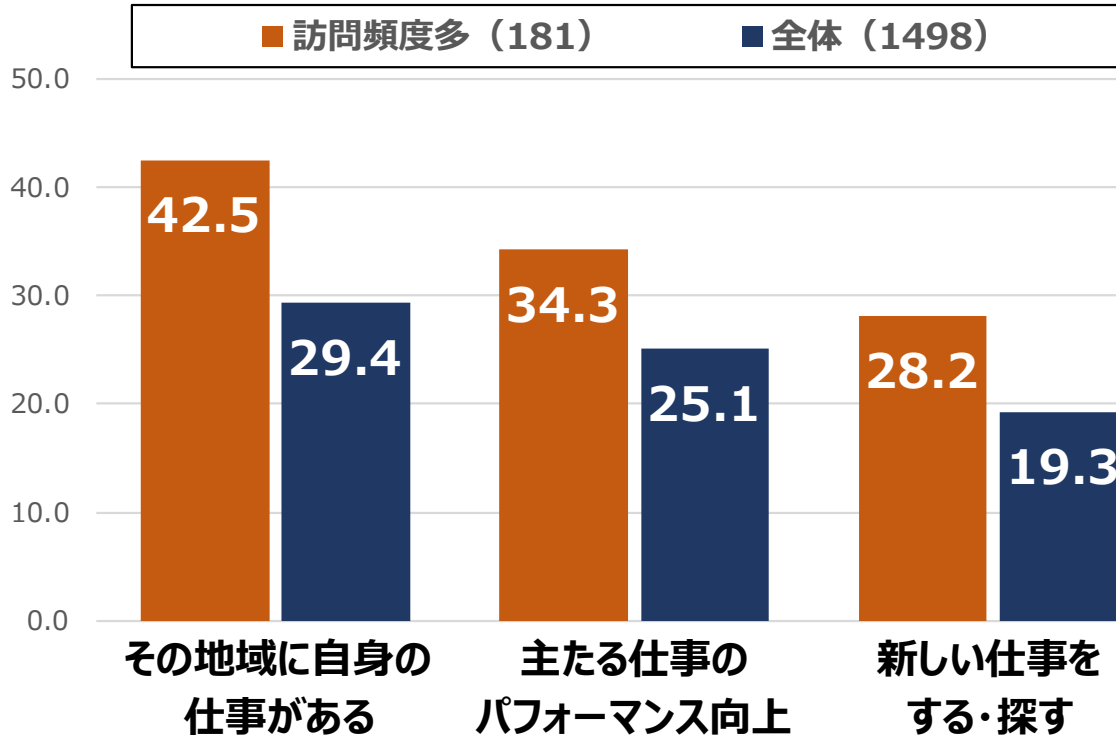


※カッコ内はn数 ※全体±5ptsを太字

サブ拠点を多く訪れる人ほど、仕事に関連する要素が強い傾向がうかがえる。

多拠点居住の目的 (%)

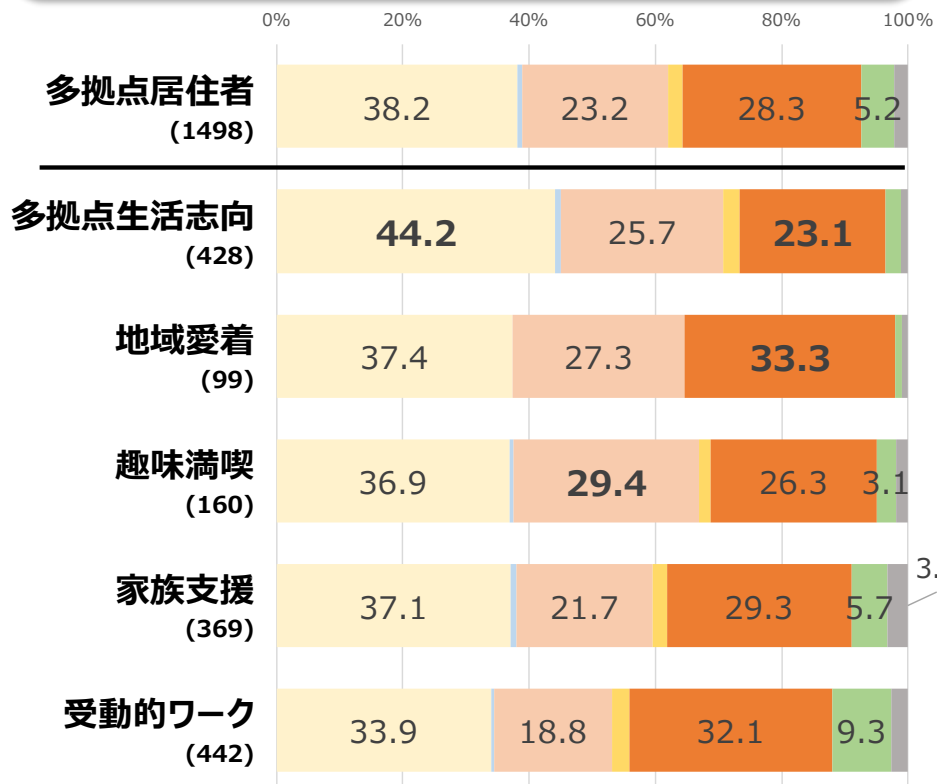
多拠点居住のきっかけ (%)



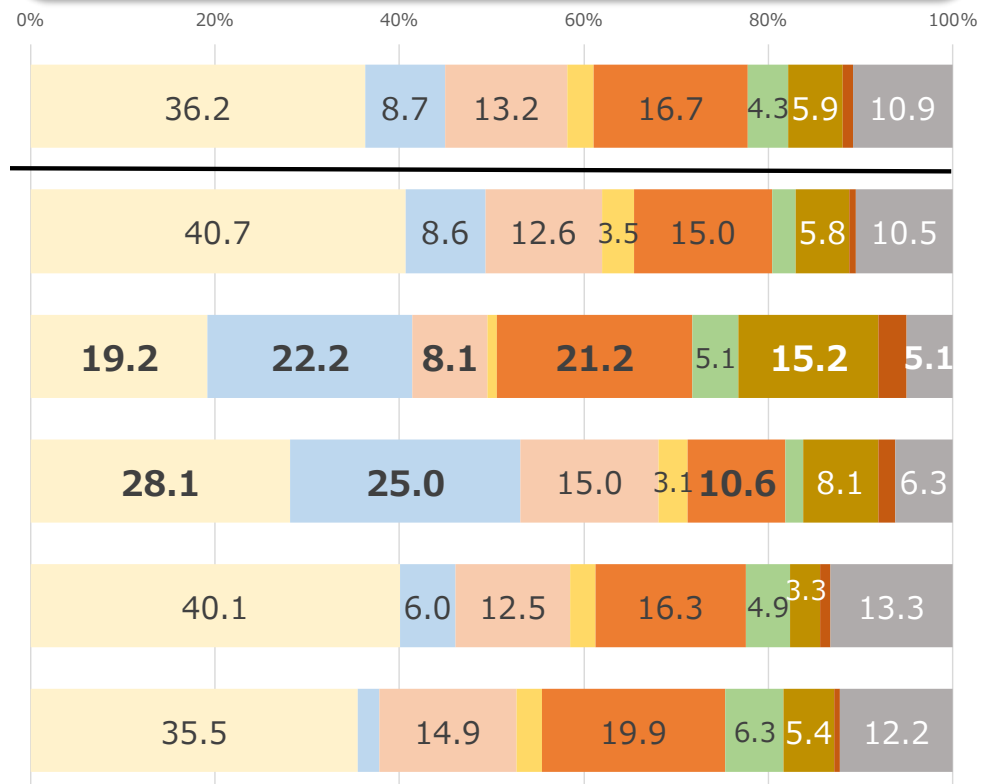
サブ拠点の居住形態について、趣味満喫タイプでは「別荘」が高い。

地域愛着タイプでも「別荘」が高いが、一方で「賃貸（集合住宅）」「ホテル・ホステル・民宿など」の割合も高い。

## メイン拠点



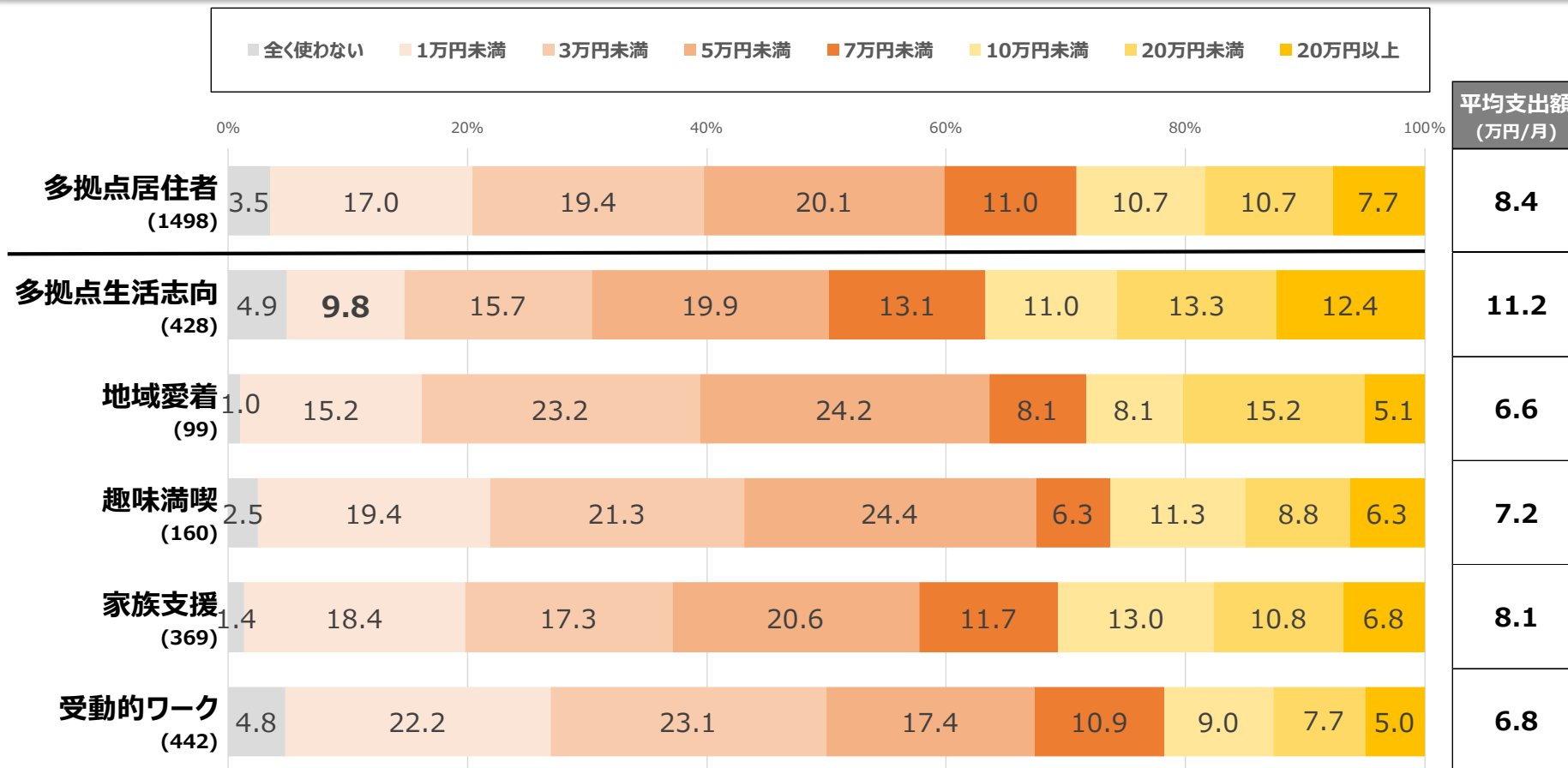
## サブ拠点



- 持ち家（一戸建て）
- 別荘
- 持ち家（マンションなどの集合住宅）
- 賃貸（一戸建て）
- 賃貸（マンションなどの集合住宅）
- 社宅・寮・シェアハウス
- ホテル・ホステル・民宿など
- 車中泊・ネットカフェ
- その他

サブ拠点での月間支出額について、多拠点生活志向タイプが11.2万円で最も高く、次いで家族支援タイプ(8.1万円)、趣味満喫タイプ(7.2万円)と続いていく。地域愛着タイプは6.6万円で最も低い。

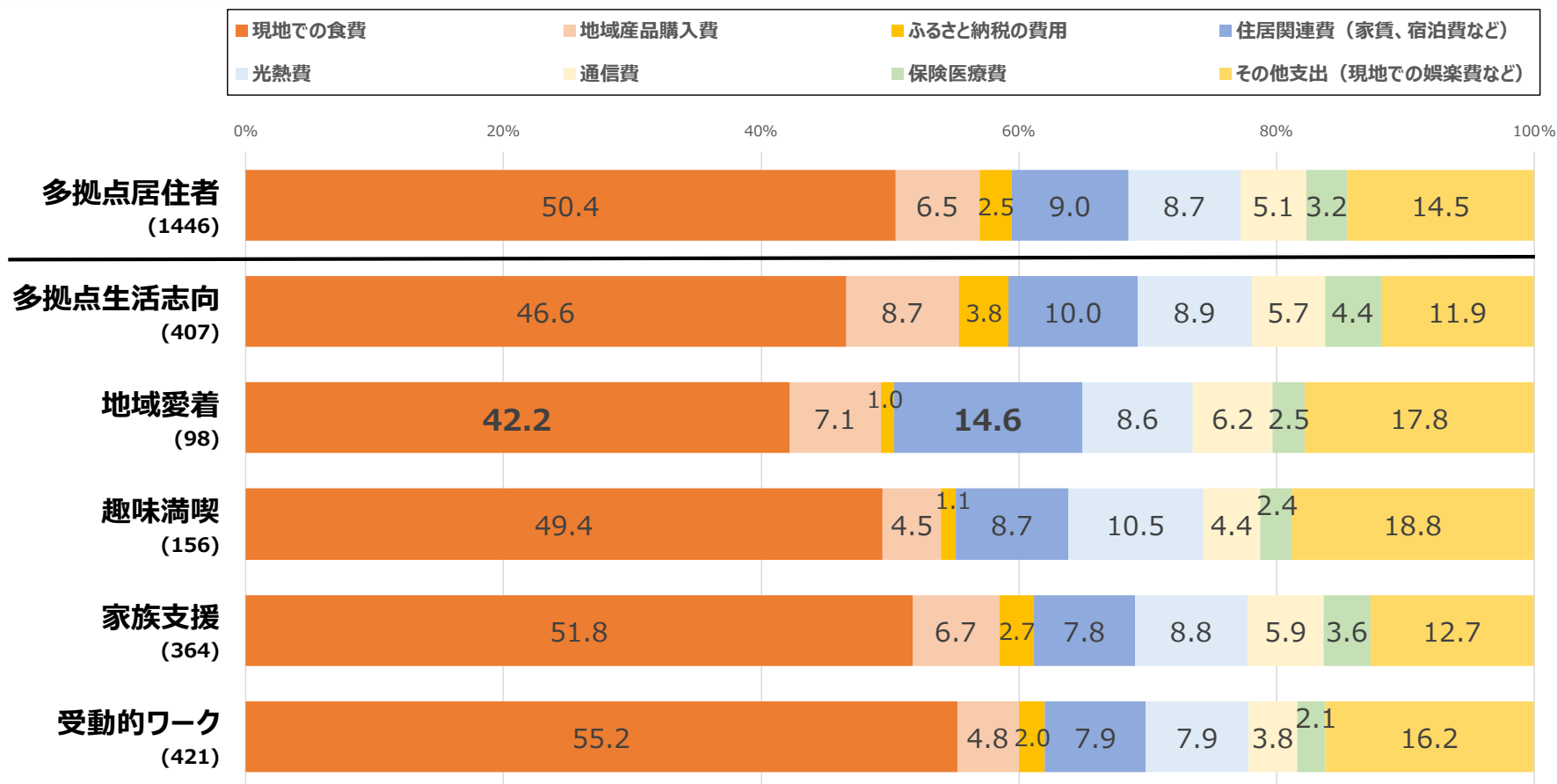
## 地域での月間支出額 (%)



※カッコ内はn数 ※全体±5ptsを太字

月間支出内訳をみると、全体では「現地での食費」が50.4%と、支出の半数を占めており、次いで「その他支出（現地での娯楽費）（14.5%）」、「住居関連費（9.0%）」と続く。また、地域愛着タイプでは、「住居関連費」が高い傾向。

### 地域での月間支出内訳（「全く使わない」除く）（%）

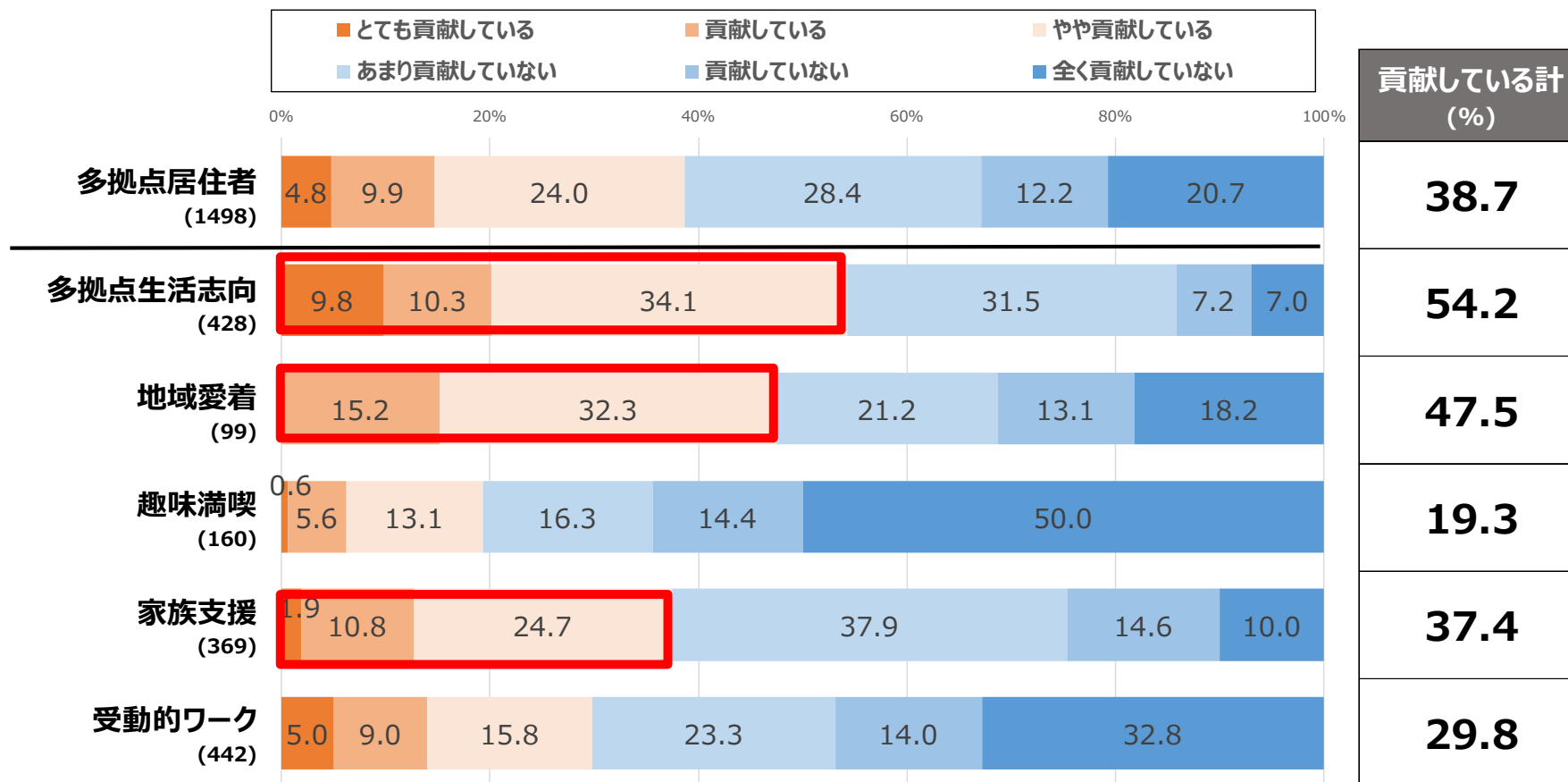


※カッコ内はn数 ※全体±5ptsを太字



労働力貢献意識は、多拠点生活志向タイプが54.2%で高く、  
次いで、地域愛着タイプ(47.5%)、家族支援タイプ(37.4%)が続く。

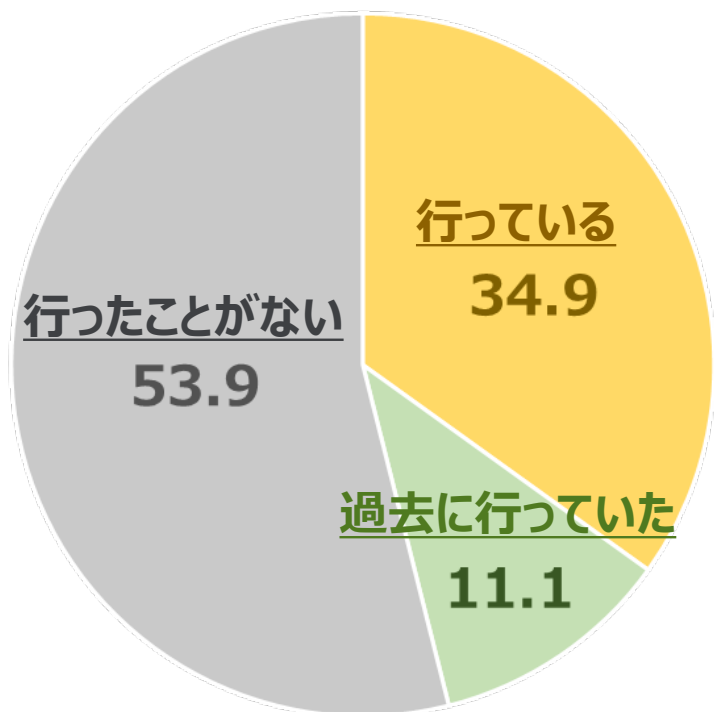
## 地域における「労働力による貢献」意識 (%)



多拠点居住者がサブ拠点となる地域に関わる仕事・活動を行っている割合は34.9%。

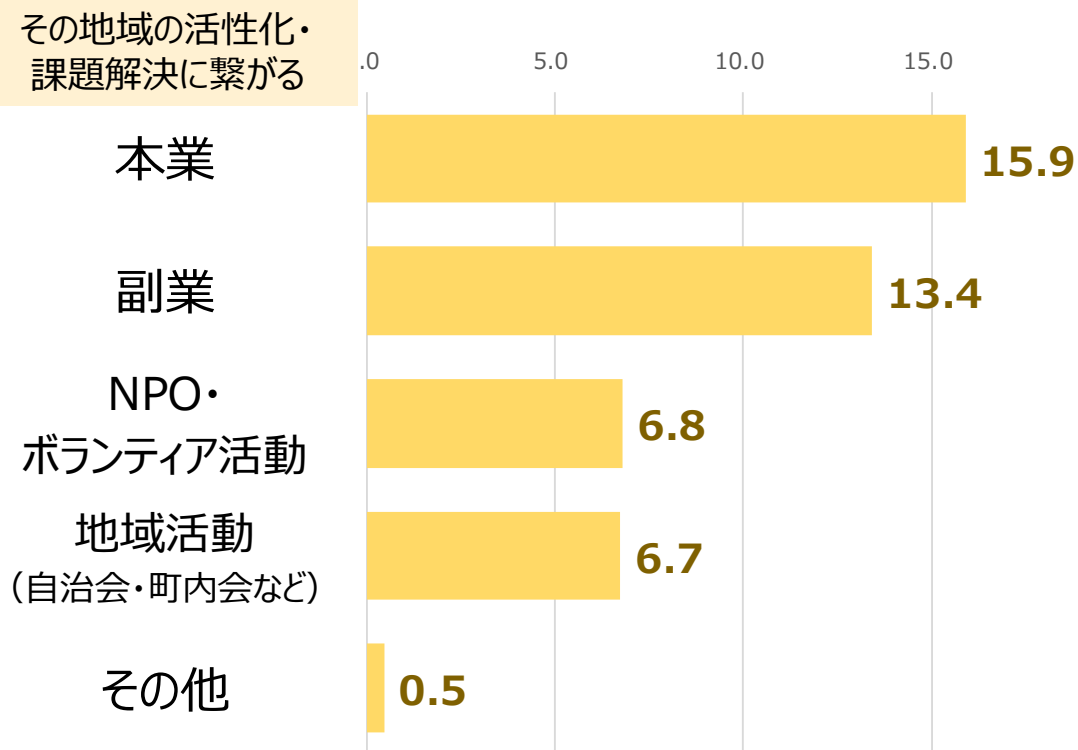
詳細をみると「本業」が15.9%で最も高い。「副業」は13.4%。

### 地域に関わる仕事・活動



多拠点居住者 n=1498  
(%)

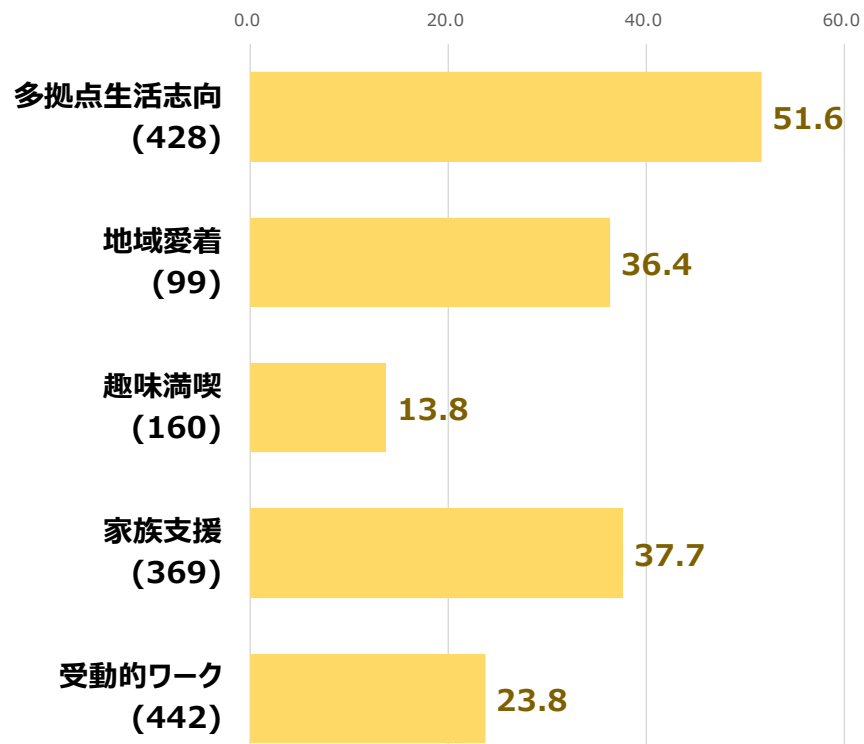
### 地域に関わる仕事・活動内容（複数回答）



多拠点居住者 n=1498  
(%)

タイプ別にみると、多拠点生活志向タイプの仕事・活動実施率が51.6%で最も高く、家族支援タイプ(37.7%)、地域愛着タイプ(36.4%)が同程度で続く。また、多拠点生活志向タイプでは、副業を行っている割合が特に高い傾向。

## 地域に関わる仕事・活動を現在行っている割合 (%)



## 地域に関わる仕事・活動内容 (複数回答) (%)

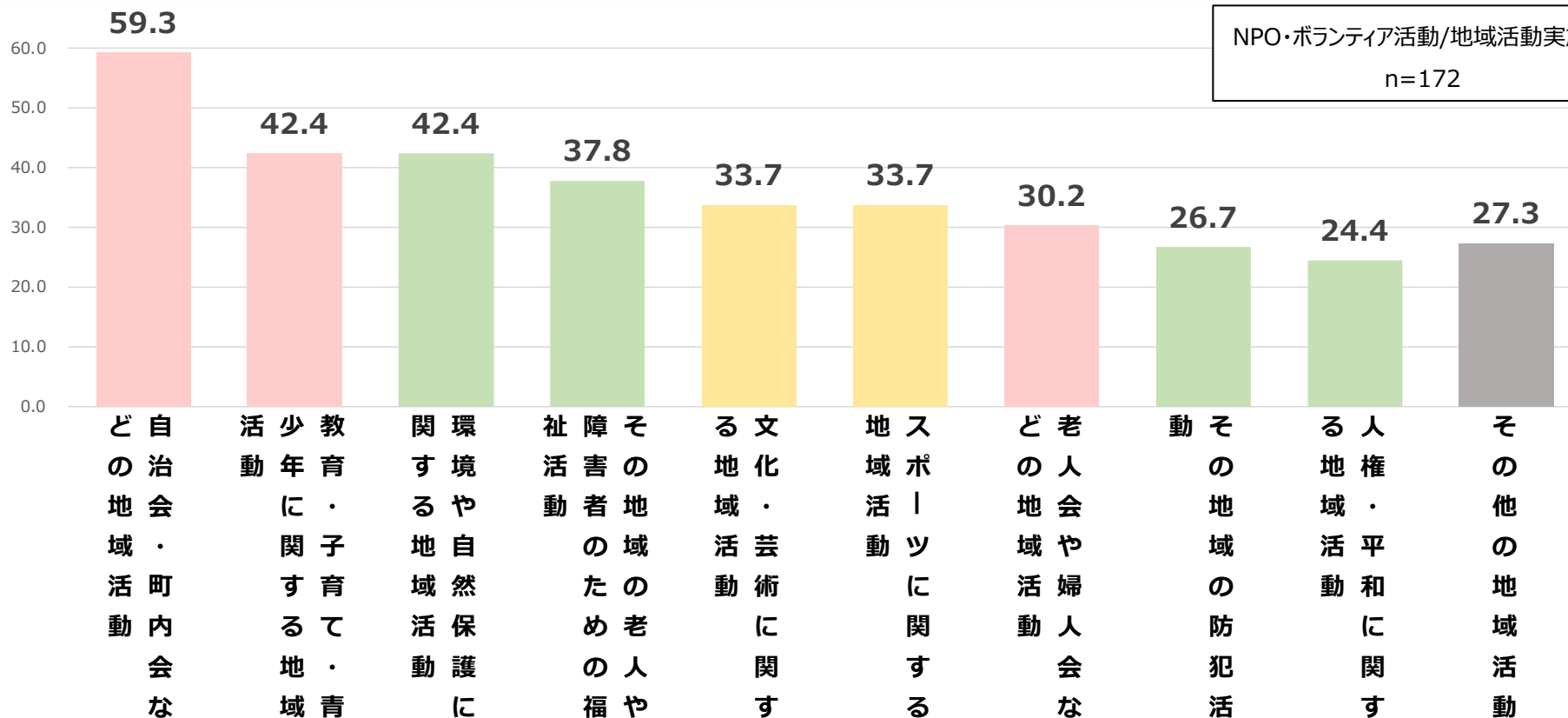
その地域の 活性化・課題解決 に繋がる	地域に関わる仕事・活動内容 (複数回答) (%)			
	本業	副業	NPO・ ボランティア 活動	地域活動
多拠点生活志向 (428)	22.0	24.1	12.9	12.1
地域愛着 (99)	14.1	8.1	9.1	7.1
趣味満喫 (160)	5.0	6.9	1.3	2.5
家族支援 (369)	15.4	13.6	7.0	6.5
受動的ワーク (442)	14.7	6.6	2.3	3.2

5タイプの中で、1位の項目に■、2位の項目に■

NPO・ボランティア活動・地域活動実施者における、活動内容の実態は以下の通り。

(類型化の参考：倉沢進（2002）「コミュニティ論」放送大学教育振興会)

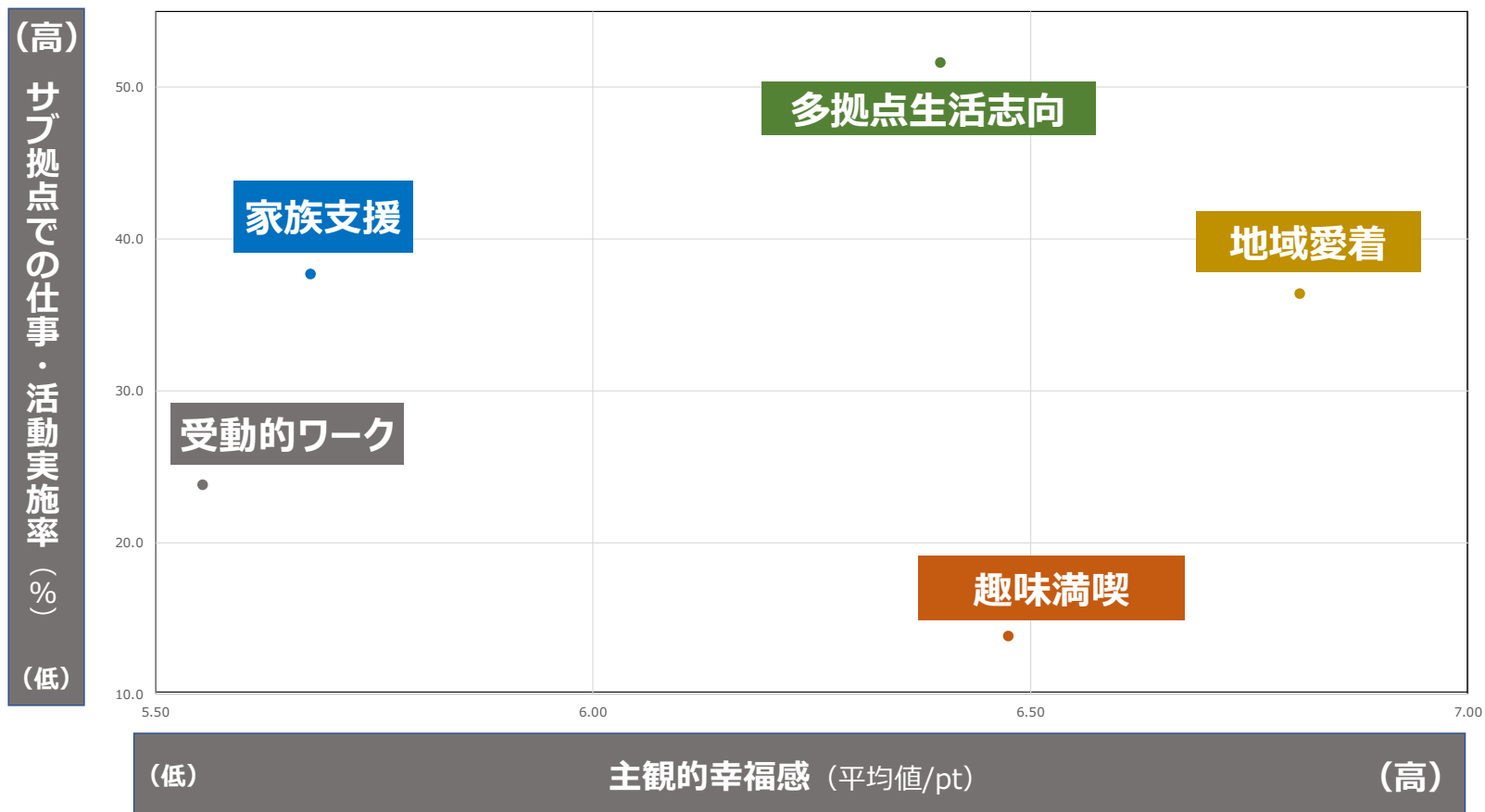
## 行っている地域活動の内容 (%)



NPO・ボランティア活動/地域活動実施者  
n=172

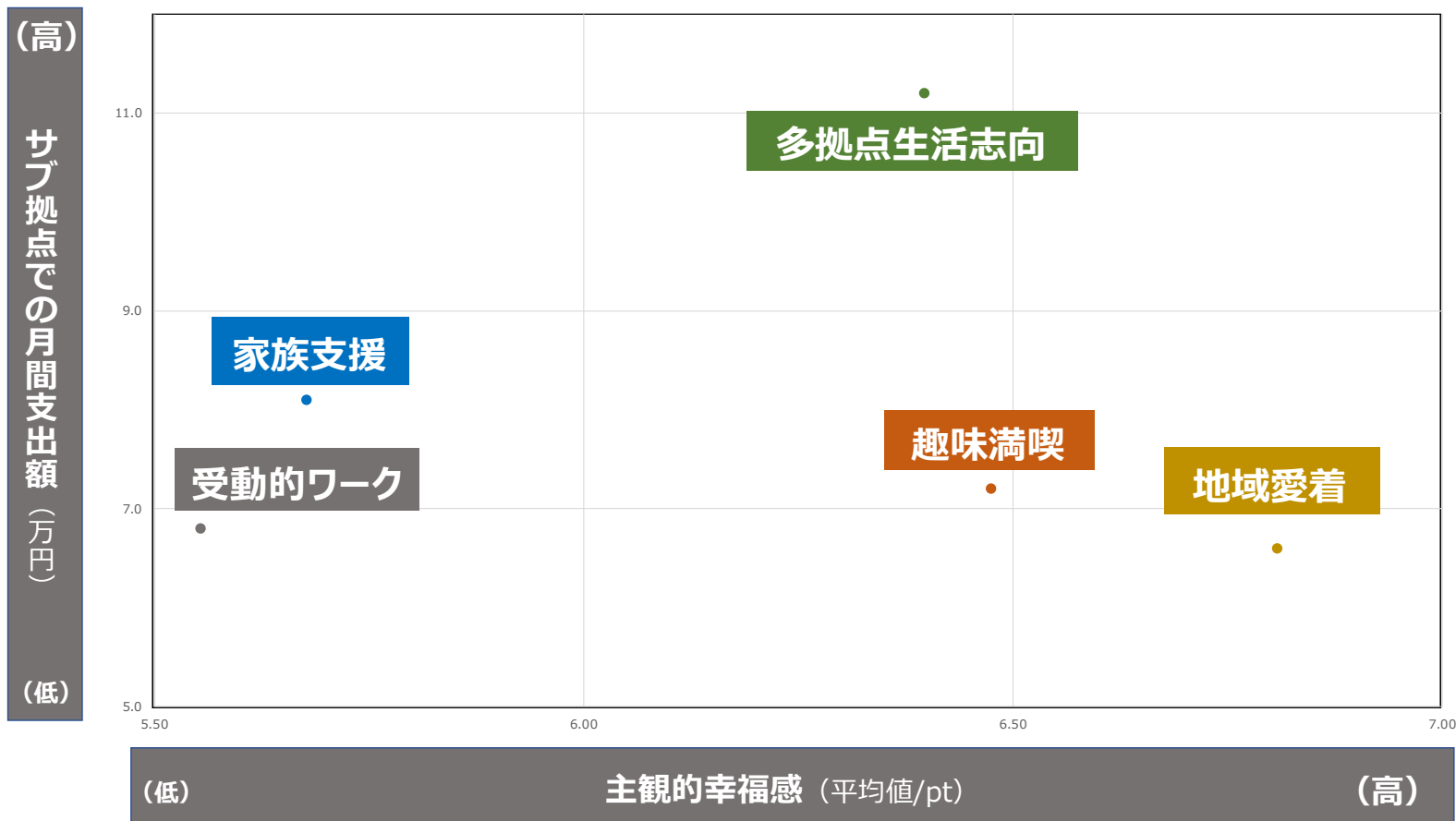
ウェルビーイングと地域の「労働力」を組み合わせ確認した。多拠点生活志向タイプは右上【ウェルビーイング高かつ地域貢献高】、受動的ワークタイプは左下【ウェルビーイング低かつ地域貢献低】にプロットされる。

## ウェルビーイング×地域での「労働力」



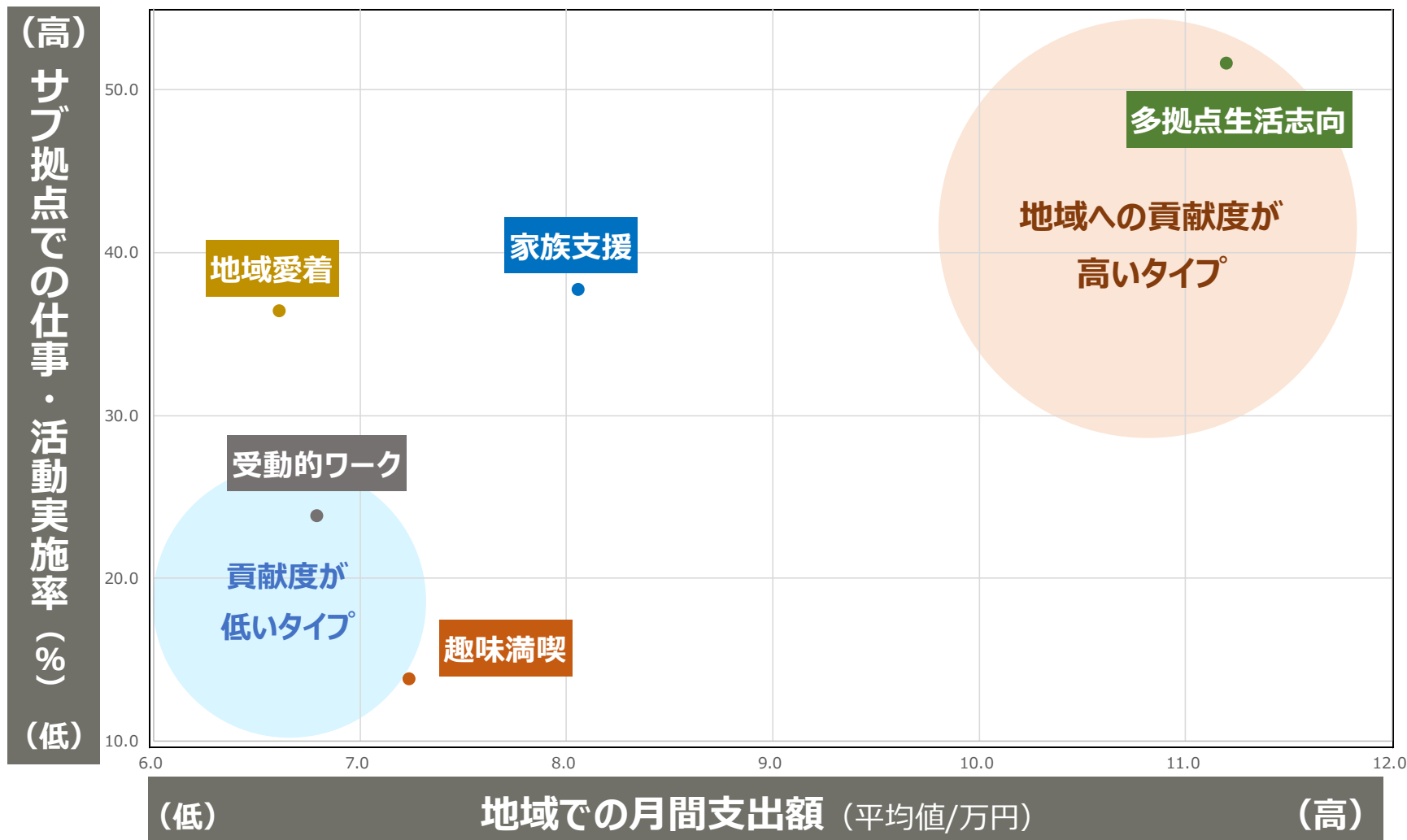
ウェルビーイングと地域の「消費」を組み合わせ確認しても、多拠点生活志向タイプは右上【ウェルビーイング高かつ地域貢献高】、受動的ワークタイプは左下【ウェルビーイング低かつ地域貢献低】にプロットされる。

### ウェルビーイング×地域での「消費」

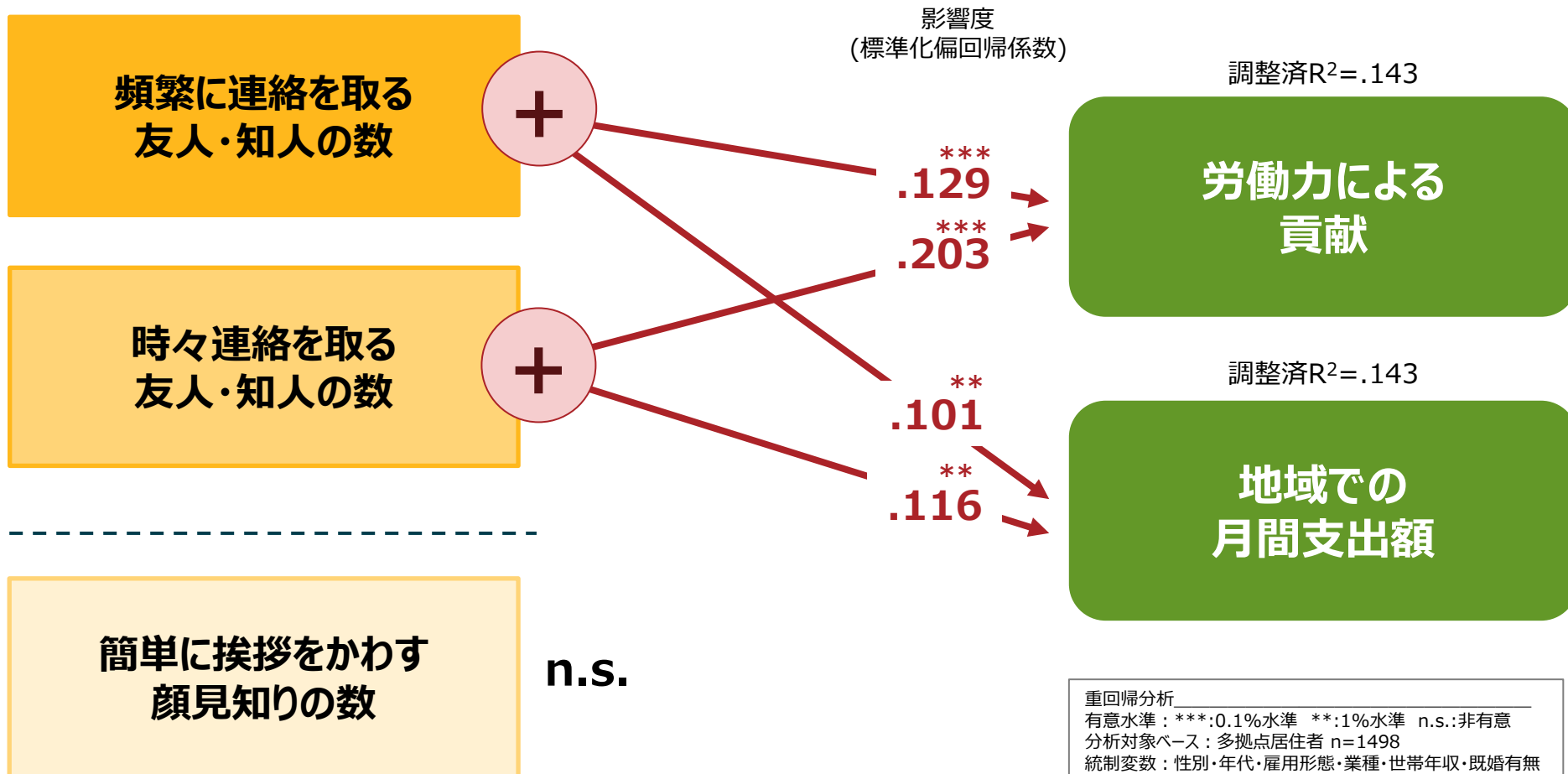


地域における「労働力」「消費」の観点から、タイプ別の地域貢献度合いをみた。

多拠点生活志向タイプは、「労働力」「消費」のいずれにおいても高く、地域貢献度が高いタイプであることがうかがえる。



サブ拠点で頻繁に連絡を取る友人・知人の多さや、たまに連絡を取る友人・知人の多さが、その地域における「労働力」や「消費」を向上させる傾向がみられた。



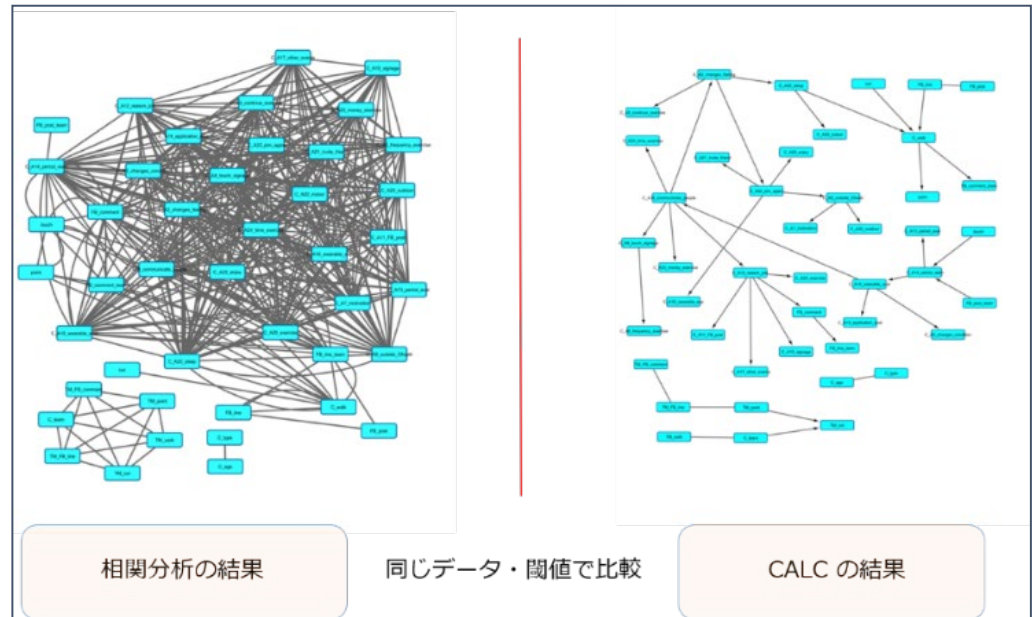


## 【4】多拠点居住の意思決定につながる要因分析

近年、機械学習によるパターン認識の精度は大きく進展し、産業界でも広く用いられるようになってきました。識別・分類・予測といった応用領域では、深層学習（ディープラーニング）などのブラックボックス型（システムが何故その結果を出すに至ったのかなどの説明が困難とされる）の手法の有用性が知られています。

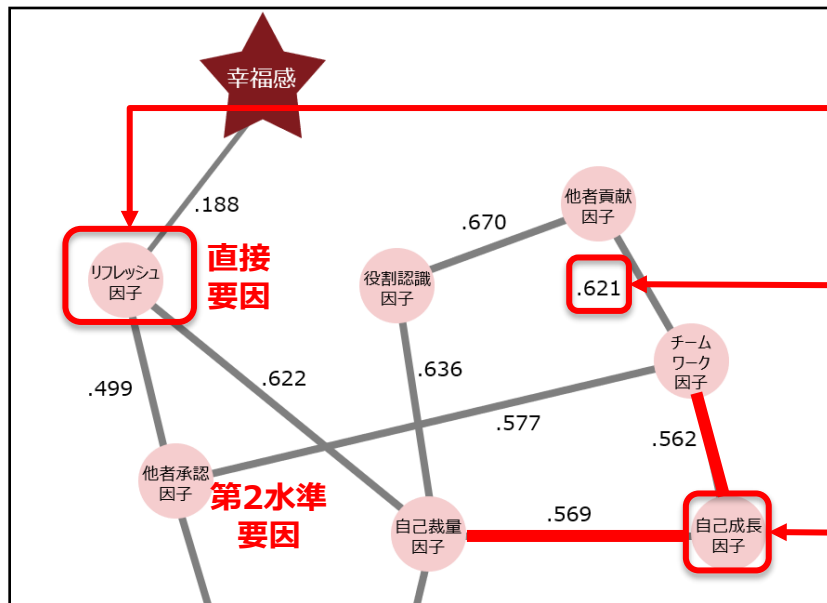
一方、データを用いてその背後にある世界を理解したいとの要求に対しては、伝統的な相関や類似性だけでは理解が難しい現象も多々あります。そのため、複雑な要素間ネットワークに対し、**因果モデルを推定する**というアプローチがあります。「**CALC分析\***」は、因果モデルを推定し、介入の観点を示唆する有用な分析アプローチであり、因果推定分析領域において高い評価を得ている手法です。

CALC分析では、**直接的な要因になっていない相関（偽相関）**を推定し、**直接的な要因と推定された相関関係**だけが線として残る関係グラフを出力します。



\* CALCはソニー株式会社の登録商標です。  
\* CALCは株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所(ソニーCSL)が開発した技術で、株式会社電通国際情報サービス(ISID)、ソニーCSL、クワジットの3社による業務提携に基づき提供されています。

- 変数どうしのつながり**：ある変数【A】に直接つながった変数は、変数【A】に直接的に影響を与えている因子と考えられる  
 ↳この接続状態と変数間の作用関係を調べることで、全体的な関係性をモデルとして解釈できる
- 直接的な相関量の指標**：数値が大きいほど2つの変数間の関係がより強い  
 変数間を結ぶ線上の数値：**0.01**で弱い相関、**0.1~0.4**で相関あり、**0.4**を超えると強い相関  
 \* 一般的な線形相関係数（相関係数）とは異なり、負の値はなく、逆に、1を超えることがあります。  
 \* CALCでは、値の大きな相関関係の線が残るとは限らず、0.01などの弱い相関であっても直接的要因として推測された線が残ります。  
 たとえ大きな値でも直接的な要因関係が推定されなかった場合には、その関係を表す線は残りません。
- 入出力紐帯数**：**媒介要因**としての重要性を示唆  
 ある変数を起点にどれほどの変数につながっているかを考察する観点

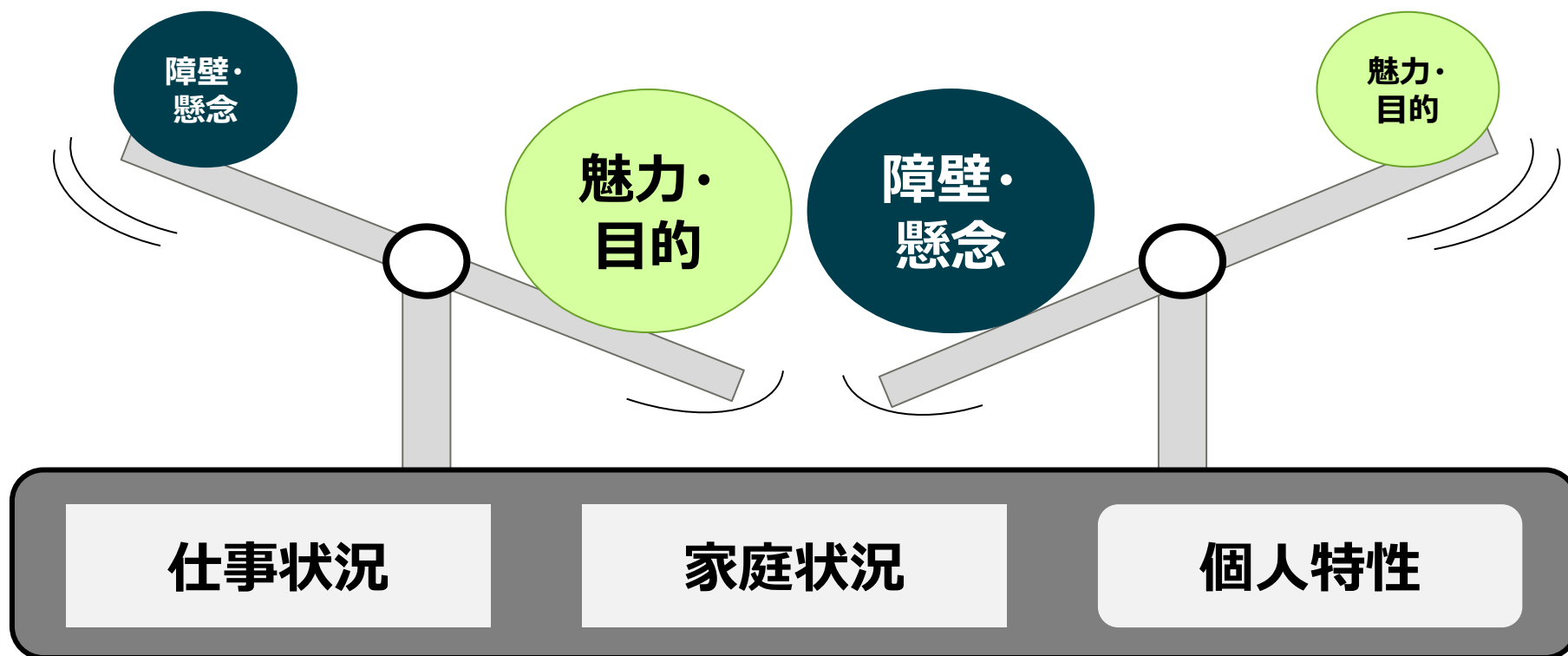


- 変数どうしのつながり**  
 (距離・接続状態)
- 直接的な相関量の指標**  
 (数値)
- 入出力紐帯数**  
 (数量)

就業者が多拠点居住の意思決定を行うか否かは、仕事状況や家庭状況、個人特性の影響が前提の上で、多拠点居住の「魅力・目的」と「障壁・懸念」の重みがポイントになると仮定し、関連する変数を投入した。

多拠点居住の  
意思決定あり

多拠点居住の  
意思決定なし



## 魅力・目的

### 多拠点居住の目的：

仕事のパフォーマンス向上、その地域に仕事がある、子育て環境の充実、介護/実家の管理など【20項目】

### サブ拠点の選択要因：

自然の豊かさ、気候の良さ、地域の落ち着き、優しい人の多さ、外の人に支援的など【33項目】

## 障壁・懸念

### 多拠点居住の障壁・懸念：

生活費がかさむこと、交通費がかさむこと、移動時間がもたないこと、移動時間がしんどいこと、生活の利便性が下がること、人付き合いの懸念など【12項目】

## 仕事状況

タスクの完結性、フィードバック、メンバーの流動性、技能の多様性、仕事の自律性、他者との関わり、成果の明瞭さ、働き方の柔軟性、テレワーク頻度、収入安定意識、転職意向、継続就業意向

## 家庭状況

家族と仲の良さ、家庭内での居場所観、家庭内での役割観、家族からの理解・尊重、家族時間の重視、自分時間の重視

## 個人特性

性別、年齢、既婚有無、出身地、世帯年収  
主な居住地、居住形態、同居子供人数、子供形態、雇用形態、業種、職位

### <その他投入変数>

多拠点居住のきっかけ：テレワーク浸透、転職、企業、その地域での仕事、その地域での観光 など計26項目  
主な居住地での居場所観、主な居住地での役割観

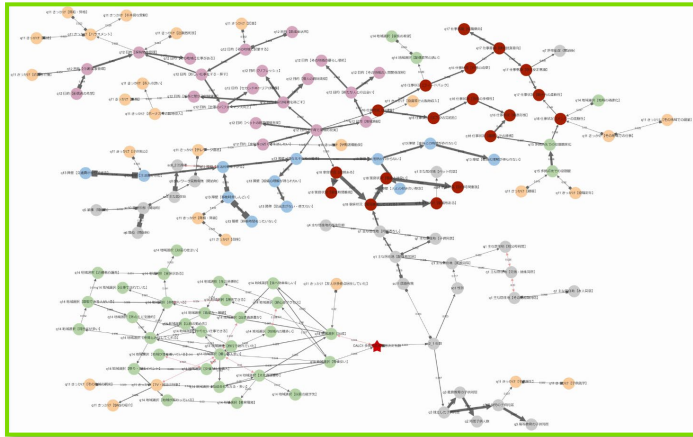
	直接要因	第2水準要因 ※直接要因に紐づく要因	媒介要因
多拠点生活志向 【498s】	物価の安さ (.045)	食べ物の美味しさ (.060)、助成金がもらえること (.059)、安価な土地購入 (.056)、優しい人の多さ (.044)、都心部アクセスの良さ (.027)	優しい人の多さ (12)
	気候の良さ (.044)	食べ物の美味しさ (.075)、街並み・景観の良さ (.067)、優しい人の多さ (.055)、文化資源の豊かさ (.055)、趣味ができること (.031)、【きっかけ】友人が多拠点居住をしていた (.020)	仲間とみなしてくれること (8)
	年齢 (.043)	独立した子供と同居 (.067)、性別 (.053)、既婚有無 (.034)	子育て環境の充実 (7)
地域愛着 【281s】	助成金がもらえること (.039)	地域内での仕事の多さ (.097)、外の人に支援的 (.073)、安価な土地購入 (.058)、自然の豊かさ (.051)、気候の良さ (.039)	地域内での仕事の多さ (11)
	仕事で訪れていたこと (.044)		優しい人の多さ (10)
趣味満喫 【223s】	組織の理解が得られない懸念 (.085)	家族の理解が得られない懸念 (.366)、助成金がない懸念 (.357)、【きっかけ】転職 (.038)	自然の豊かさ (9)
	家族が意思を尊重してくれること (.065)	家族との仲の良さ (.964)、家庭での居場所観 (.925)、家族時間の重視 (.900)、配偶者と同居 (.263)、居住形態 (.136)	外の人に支援的 (8)
	助成金がもらえること (.065)	外の人に支援的 (.082)	気候の良さ (7)
	食べ物の美味しさ (.039)	物価の安さ (.070)、気候の良さ (.049)、外の人に支援的 (.047)、自然の豊かさ (.039)	配偶者の希望 (7)
	街並み・景観の良さ (.039)	自然の豊かさ (.062)、生活利便性の良さ (.051)、優しい人の多さ (.050)、文化資源の豊かさ (.044)、地域の落ち着き (.039)	外の人に支援的 (7)
	やりたい仕事ができること (.037)	地域内での仕事の多さ (.051)、地域の仲間意識 (.041)	
	【きっかけ】TV・雑誌の特集 (.020)		

※直接要因・第2水準要因のカッコ内は相関量。媒介要因のカッコ内は入出力紐帯数。

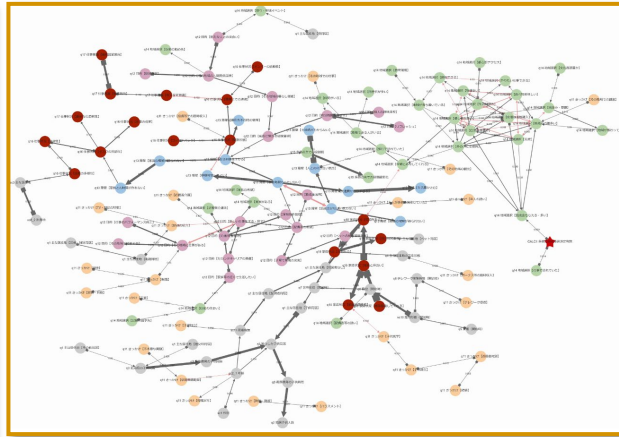
	直接要因	第2水準要因 ※直接要因に紐づく要因	媒介要因
家族 支援 【320s】	家庭での自分時間の重視 (.046)	家庭での役割観 (.881)、職務上での他者との関わり (.124)、既婚有無 (.108)、 【きっかけ】子供の就学 (.025)	職務上での他者との関わり (8)
	安価な土地購入 (.045)	物価の安さ (.053)、外の人に支援的 (.040)	介護/実家の管理 (8)
	気候の良さ (.041)	食べ物の美味しさ (.053)、地域の落ち着き (.048)、生活利便性の良さ (.042)、自 然の豊かさ (.040)	子育て環境の充実 (7)
受動的 ワーク 【254s】	家族時間の重視 (.077)	家庭での居場所観 (1.103)、家族との仲の良さ (1.053)、家族が意思尊重してくれるこ と (1.044)、家庭での役割観 (1.021)、【きっかけ】結婚 (.048)	気候の良さ (7)
	食べ物の美味しさ (.052)	気候の良さ (.067)、街並み・景観の良さ (.057)、物価の安さ (.056)、やりたい仕事 ができること (.037)、地域に仲間がいること (.027)	
	都心部アクセスの良さ (.046)	生活利便性の良さ (.058)、外の人に支援的 (.052)、気候の良さ (.046)、物価の 安さ (.037)、地域内での仕事の多さ (.032)	

※直接要因・第2水準要因のカッコ内は相関量。媒介要因のカッコ内は入出力紐帯数。

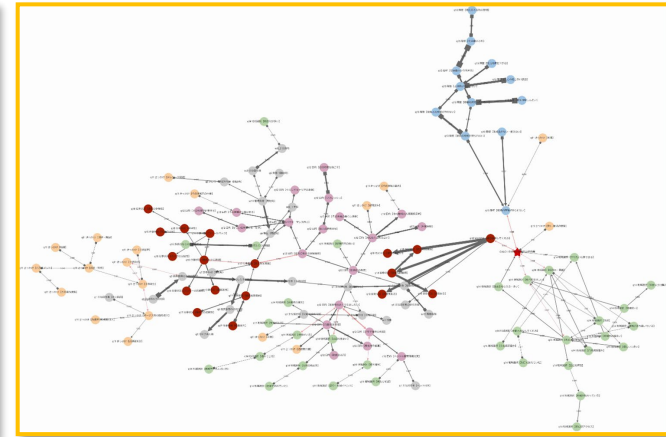
多拠点生活志向タイプ



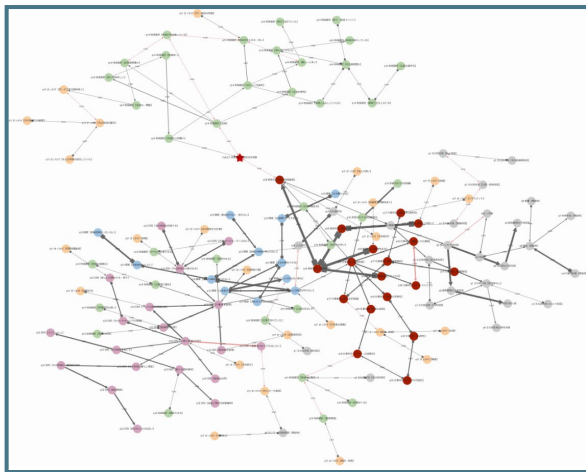
地域愛着タイプ



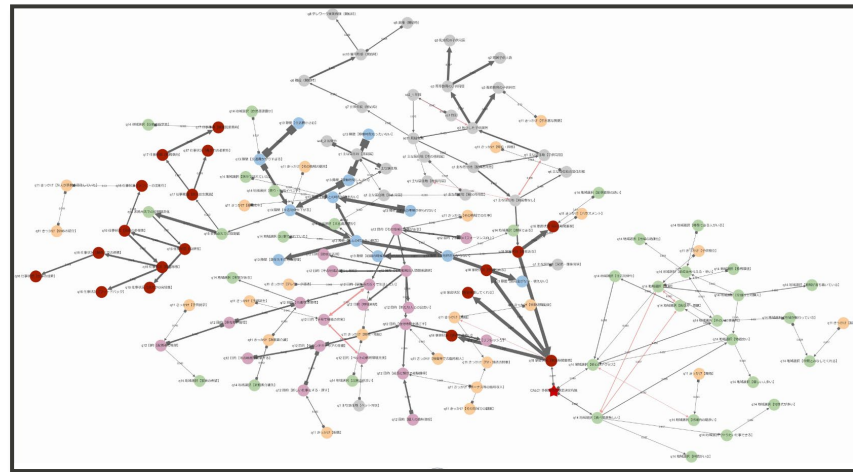
趣味満喫タイプ



家族支援タイプ



受動的ワークタイプ

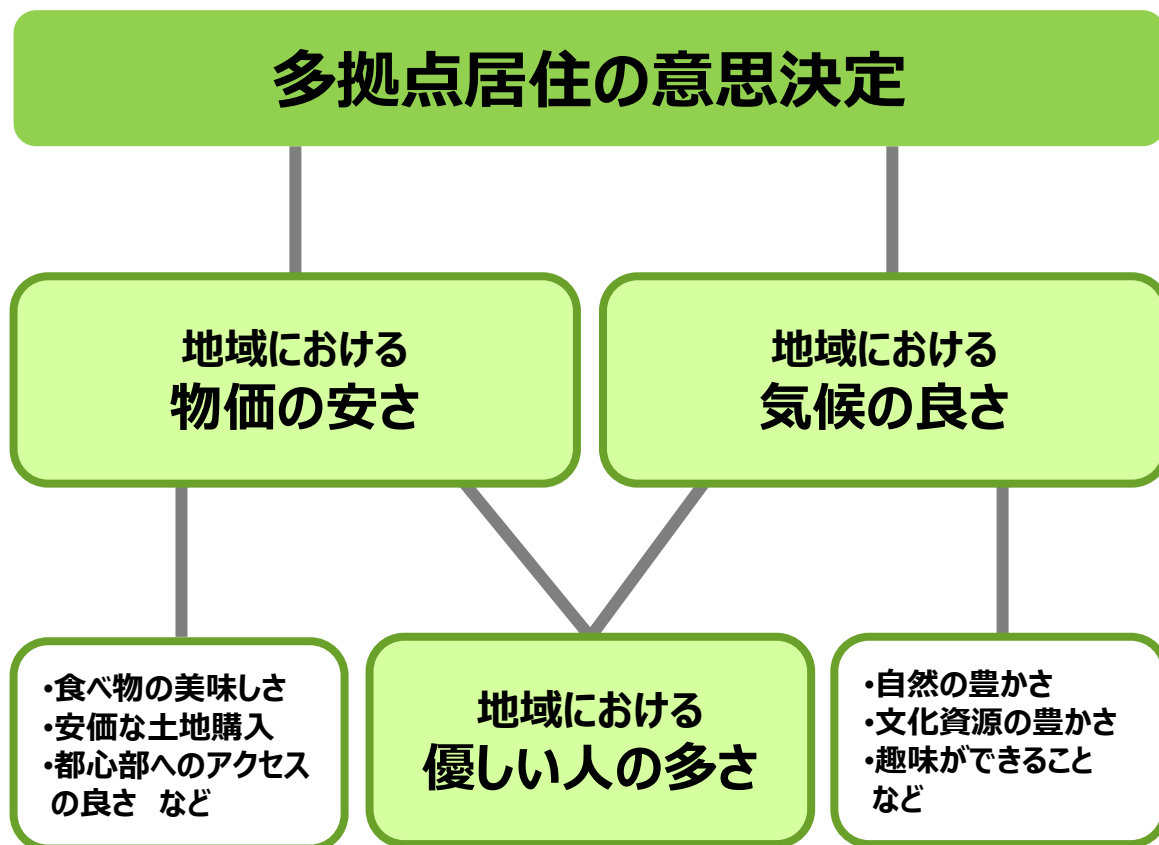




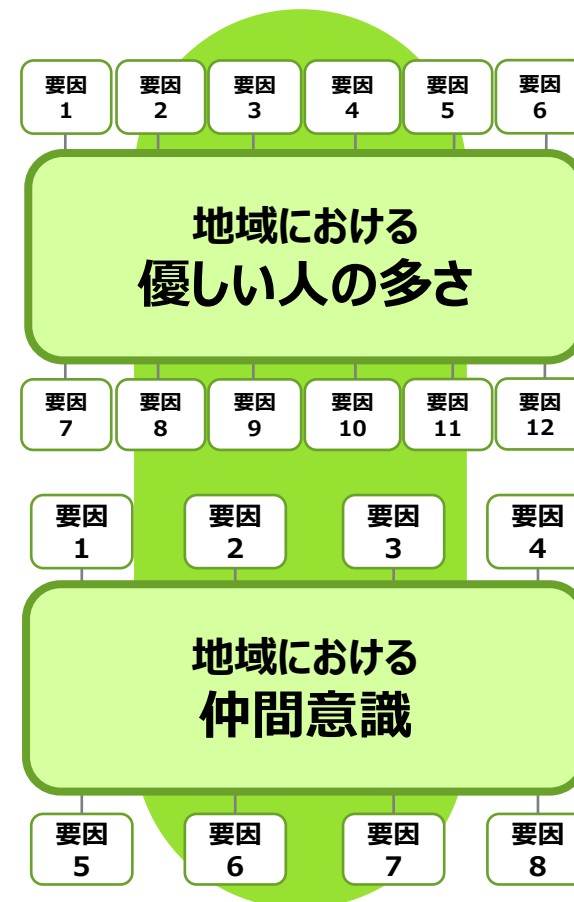
意思決定に対して「物価の安さ」や「気候の良さ」という地域の魅力が直接要因であった。

また、「地域における優しい人の多さ」は、上記2つの直接要因に共通して紐づいており、他要因とのつながりも多くみられていることから、多拠点生活志向タイプの意思決定において、その地域内の“人”が特に重要であることが示唆される。

### 意思決定における直接要因・第2水準要因



### 媒介要因



※各要因の色分けは、P77を参照

意思決定に対して「地域の行き来で補助金・助成金がもらえること」と「その地域に仕事でよく訪れていたこと」が直接要因であった。また、「地域内での仕事の多さ」が第2水準要因、かつ他要因とのつながりも多くみられており、地域愛着タイプの意思決定においては、地域を行き来する上での“金銭面・仕事面による支援”が重要であることが示唆される。

### 意思決定における直接要因・第2水準要因

## 多拠点居住の意思決定

その地域の行き来で  
補助金・助成金が  
もらえること

その地域に  
仕事でよく訪れて  
いたこと

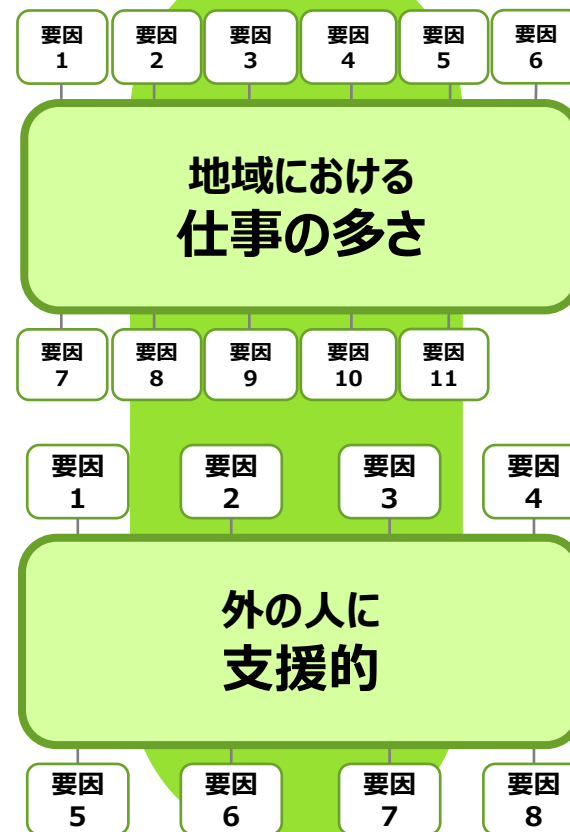
地域内での  
仕事の多さ

外の人に  
支援的

・自然の豊かさ  
・安価な土地購入  
・気候の良さ など

※各要因の色分けは、P77を参照

### 媒介要因



意思決定に対して「食べ物の美味しさ」などを多様な地域の魅力が直接要因であった。特徴として、「組織からの理解」や「家族の意思尊重」といった仕事・家庭状況の要素が直接要因に紐づき、それらの相関量が大きかった。趣味満喫タイプの意思決定においては、組織内や家庭内における障壁を取り除くことが重要であると考えられる。

### 意思決定における直接要因・第2水準要因

## 多拠点居住の意思決定

組織からの理解  
が得られること

・家族からの理解が  
得られること  
・補助金・助成金が  
もらえること など

家族が  
意思を尊重して  
くれること

家庭における  
・自分時間の重視  
・家族時間の重視  
・家庭に自分の居場所  
があること など

その地域の  
食べ物の  
美味しさ

・気候の良さ  
・自然の豊かさ  
・物価の安さ など

その地域の  
街並み・景観の  
良さ

・地域の落ち着き  
・文化資源の豊かさ  
・自然の豊かさ など

その地域で  
やりたい仕事が  
できる

・地域における仲間意識  
・気候の良さ

意思決定に対して地域の魅力が直接要因である一方、「家庭内で自分時間を重視しないこと」も直接要因に紐づき、相関量が大きかった。また、「職務上での他者との関わり合い」は他要因とのつながりも多くみられていることから、家族支援タイプの意思決定においては、家庭の環境・状況に加えて、職場内でのサポート体制の観点が重要であると考えられる。

### 意思決定における直接要因・第2水準要因

## 多拠点居住の意思決定

家庭内で  
自分の時間を  
あまり重視しないこと

- 家庭での役割観
- 既婚有無
- 主な居住地 など

その地域における  
・気候の良さ  
・安価な土地購入

- 物価の安さ
- 食べ物の美味しさ
- 地域の落ち着き など

### 媒介要因



※各要因の色分けは、P77を参照

意思決定に対して「家族時間を重視しないこと」が直接要因に紐づき、相関量が大きかった。  
また、第2水準要因をみても、「家庭内での居場所観の低さ」や「家族と仲が良くないこと」などがあがっていたことから、  
受動的ワークタイプでは、“家庭内での居心地”が意思決定に影響していることが示唆される。

### 意思決定における直接要因・第2水準要因

## 多拠点居住の意思決定

家族との時間をあまり重視しないこと

家庭内での  
居場所観の  
低さ

家族と  
仲があまり  
良くない

家庭内での  
役割観の  
低さ

家族が  
意思を尊重  
してくれない

その地域における  
・食べ物の美味しさ  
・都心部アクセスの良さ

・生活の利便性  
・気候の良さ  
・街並み・景観の良さ など

## 【5】多拠点居住者のウェルビーイングにつながる要因分析

ウェルビーイング要因のCALC分析にあたっては、  
P77に掲載した変数に加えて、多拠点居住に関する以下の変数を投入し、分析を行った。

## 多拠点居住に関する変数

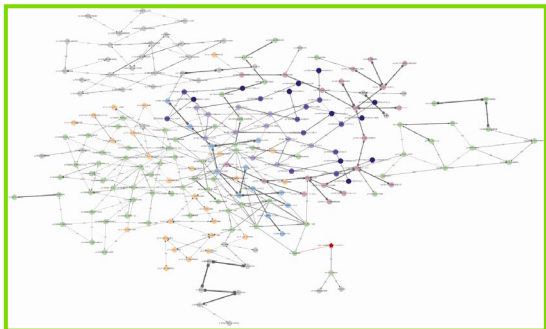
- 多拠点居住の拠点数、多拠点居住開始時期、サブ拠点への訪問頻度、宿泊頻度、サブ拠点の地域、居住形態
- サブ拠点での役割観/役割観の変化、居場所観/居場所観の変化、頻繁に話す友人・知人の数/その友人・知人数の変化、時々話す友人・知人の数/その友人・知人数の変化、挨拶を交わす顔見知りの数/その顔見知り数の変化、友人・知人との関係性、関係性の変化
- サブ拠点での本業の実施有無/頻度、副業の実施有無/頻度、ボランティア活動の実施有無/頻度、地域活動の実施有無/頻度、地域活動内容、サブ拠点での労働貢献意識
- 多拠点居住に関するこれまでの悩み/これまでの切実な悩み/切実で未解決の悩み：  
よそ者を受け付けない風習、地域の共同意識が強いなど【11項目】
- 企業・自治体からの提供情報の活用有無/補助金・助成金の活用有無：  
住まい関連、移動・交通関連、仕事関連、育児・出産関連、介護・医療関連

	直接要因	第2水準要因 ※直接要因に紐づく要因	媒介要因
多拠点生活志向 【428s】	友人・知人との関係性 (.194)	世帯年収 (.070) 、多拠点居住先での宿泊頻度 (.066)	優しい人の多さ (8)
	労働貢献意識 (.165)	企業・自治体からの仕事に関する提供情報の活用 (.100) 、移動・交通に関する提供情報の活用 (.090)	移動・交通に関する提供情報の活用 (7)
地域愛着 【99s】	生活費がかさむ懸念 (.213)	交通費がかさむ懸念 (.946) 、助成金がもらえない懸念 (.406)	仕事に関する提供情報の活用 (7)
			仕事に関する補助金・助成金の活用 (7)
			介護・医療に関する提供情報の活用 (7)
趣味満喫 【160s】	友人・知人との関係性 (.133)	多拠点居住先での居場所観 (.247) 、頻繁に話す友人・知人の数 (.152) 、友人・知人との関係性変化 (.136) 、祭り・地域イベントの良さ (.083) 、地域の賑わい (.078) 、地域での仲間意識 (.069) 、優しい人の多さ (.066)	住まいに関する提供情報の活用 (7)
			助成金がもらえること (7)
			尊敬できる人がいること
			交通費がかさむ懸念 (8)
家族支援 【369s】	友人・知人との関係性 (.081)	多拠点居住先での居場所観 (.192) 、家族の理解が得られない懸念 (.183)	その地域に仕事があること (8)
			個人の趣味を満喫すること (7)
			リフレッシュすること (8)
			友人・知人との関係性 (7)
			家族等の近くで生活すること (7)
受動的ワーク 【442s】	友人・知人との関係性 (.133)	顔見知りの数 (.203) 、家族の理解が得られない懸念 (.176) 、友人・知人との関係性変化 (.102) 、地域内での仕事の多さ (.027)	介護/実家の管理 (7)
			子育て環境の充実 (9)
			介護/実家の管理 (8)
			家族の理解が得られない懸念 (7)
			その地域に仕事があること (7)
			自分時間を過ごすこと (7)
			よそ者を受け付けない風習があること (7)
			介護/実家の管理 (10)
			新しい仕事をする・探す (10)
			家族の理解が得られない懸念 (8)
			人との付き合い懸念 (8)
			その地域に仕事があること (8)

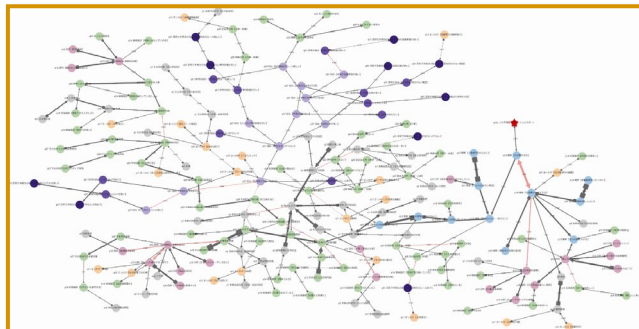
※直接要因・第2水準要因のカッコ内は相関量。媒介要因のカッコ内は入出力紐帯数。



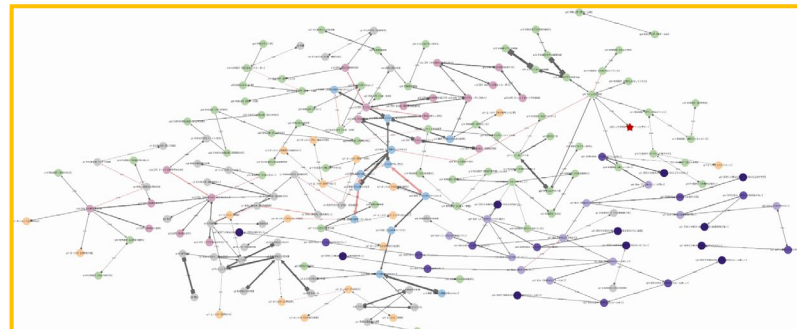
## 多拠点生活志向タイプ



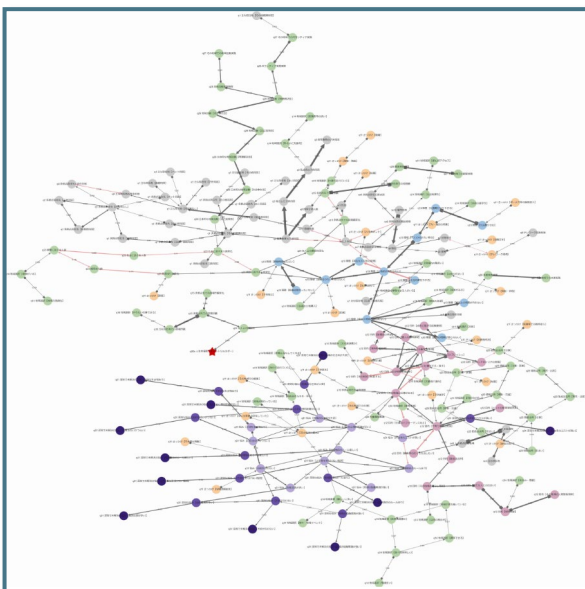
## 地域愛着タイプ



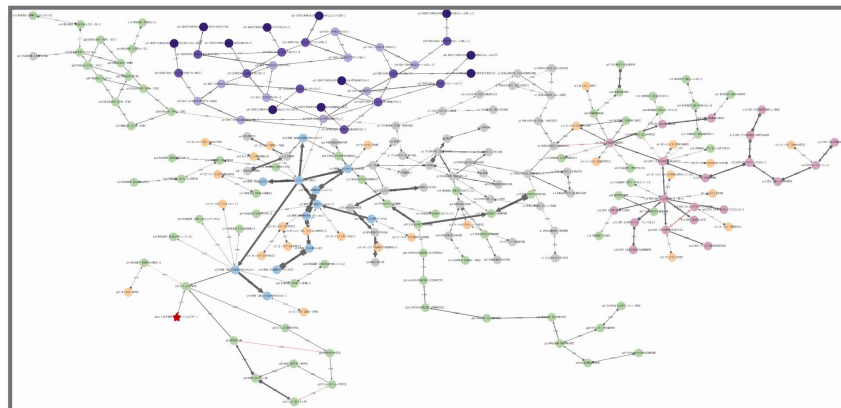
## 趣味満喫タイプ



## 家族支援タイプ



## 受動的ワークタイプ



主観的幸福感に対して、「労働力貢献意識」と「友人・知人との関係性」が直接要因であった。多拠点生活志向タイプでは、労働による地域貢献や地域で関わる人達との関係性深耕がウェルビーイングにつながると考えられる。また、第2水準要因や媒介要因をみても、企業・自治体からのサポートが重要であることもうかがえる。

## 主観的幸福感における直接要因・第2水準要因

### 主観的幸福感

地域における  
労働力貢献意識

地域における  
友人・知人との関係性

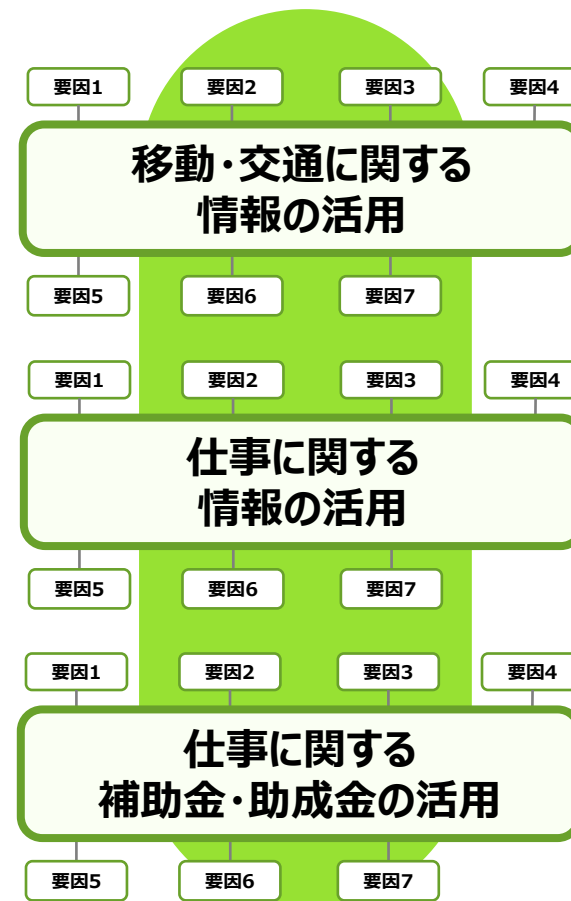
企業・自治体の  
移動・交通に関する  
情報の活用

企業・自治体の  
仕事に関する  
情報の活用

・多拠点居住先での  
宿泊頻度  
・世帯年収

※各要因の色分けは、P77、87を参照

## 媒介要因



主観的幸福感に対して、「生活費がかさむ懸念」が直接要因、「交通費がかさむ懸念」と「補助金・助成金がもらえない懸念」が第2水準要因であった。地域愛着タイプでは、「金銭面での懸念」の払拭がウェルビーイングにつながると考えられる。

### 主観的幸福感における直接要因・第2水準要因

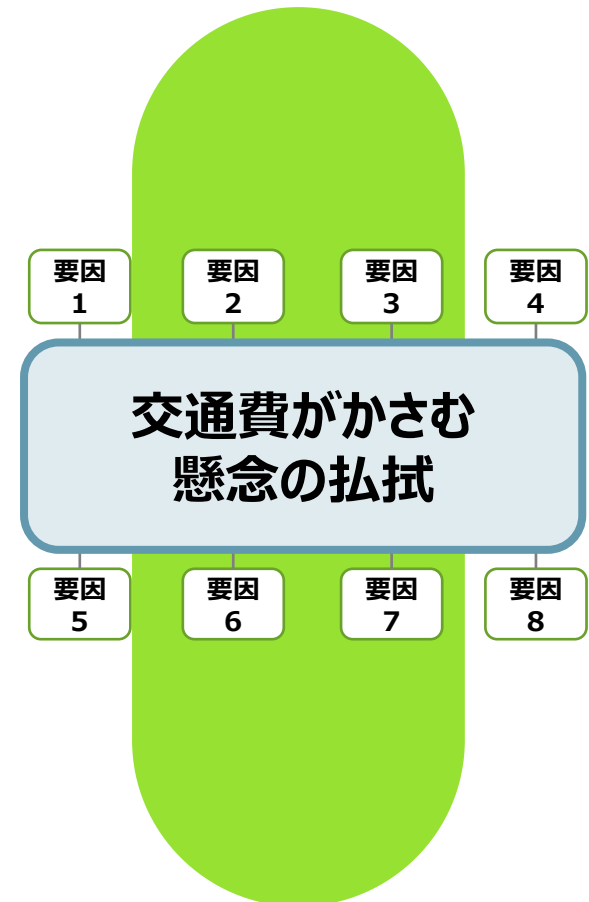
## 主観的幸福感

生活費がかさむ  
懸念の払拭

交通費がかさむ  
懸念の払拭

補助金・助成金が  
もらえない懸念の払拭

### 媒介要因



主観的幸福感に対して、「友人・知人との関係性」が直接要因であり、第2水準要因として「居場所観」や「頻繁に話す友人・知人の数」などがあがった。趣味満喫タイプでは、サブ拠点で親しい友人と趣味を満喫させたり、サブ拠点で会う人と濃い関係性を築くことがウェルビーイングにつながると考えられる。

### 主観的幸福感における直接要因・第2水準因

## 主観的幸福感

### 地域における 友人・知人との関係性

多拠点居住先での  
居場所観

頻繁に話す  
友人・知人の数

地域における  
優しい人の多さ

地域における  
仲間意識

・地域の祭り・イベントの良さ  
・地域の賑わい

主観的幸福感に対して、「友人・知人との関係性」が直接要因、「居場所観」と「家族からの理解が得られること」が第2水準要因であった。家族支援タイプでは、サブ拠点で親しい友人と過ごすことと、多拠点居住を家族に理解してもらうことがウェルビーイングにつながると考えられる。

### 主観的幸福感における直接要因・第2水準要因

## 主観的幸福感

地域における  
友人・知人との関係性

多拠点居住先での  
居場所観

家族からの理解が  
得られること

### 媒介要因

要因  
1

要因  
2

要因  
3

要因  
4

家族からの理解が  
得られること

要因  
5

要因  
6

要因  
7

要因  
1

要因  
2

要因  
3

要因  
4

近親者の  
介護・実家管理

要因  
5

要因  
6

要因  
7

要因  
8

主観的幸福感に対して、「友人・知人との関係性」が直接要因、「顔見知りの数」と「家族からの理解が得られること」が第2水準要因であった。受動的ワークタイプでは、サブ拠点でゆるい関係性の知人を増やすことと、多拠点居住を家族に理解してもらうことがウェルビーイングにつながると考えられる。

### 主観的幸福感における直接要因・第2水準要因

## 主観的幸福感

地域における  
友人・知人との関係性

挨拶を交わす  
顔見知りの数

家族からの理解が  
得られること

### 媒介要因

要因  
1

要因  
2

要因  
3

要因  
4

家族からの理解が  
得られること

要因  
5

要因  
6

要因  
7

要因  
8

要因  
1

要因  
2

要因  
3

要因  
4

地域で関わる人との  
付き合いの懸念

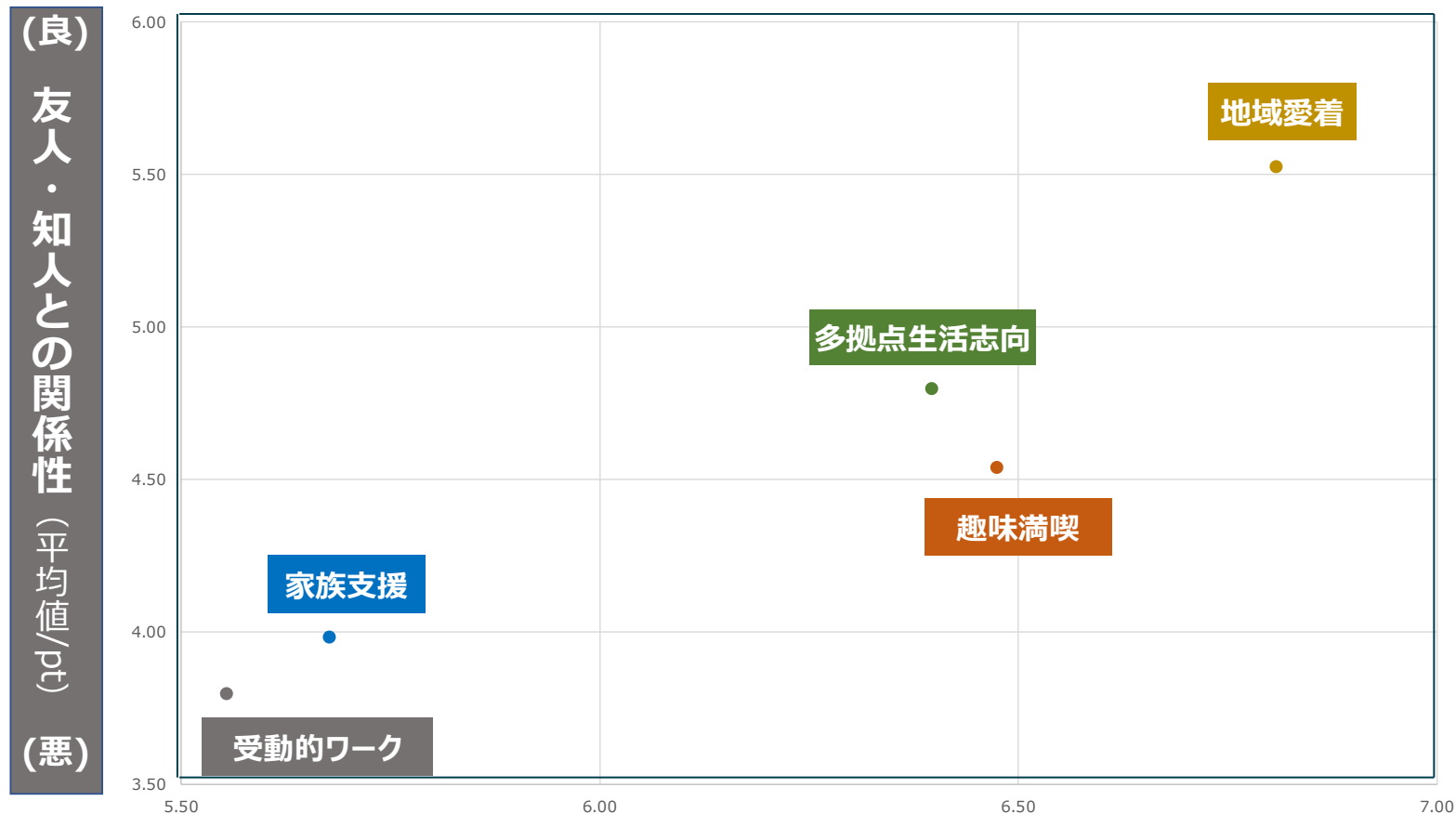
要因  
5

要因  
6

要因  
7

要因  
8

地域愛着タイプでは主観的幸福感が高く、友人・知人との関係性も良好である一方で、  
受動的ワーク・家族支援タイプでは主観的幸福感が低く、友人・知人との関係性も良くない現状がみられる。



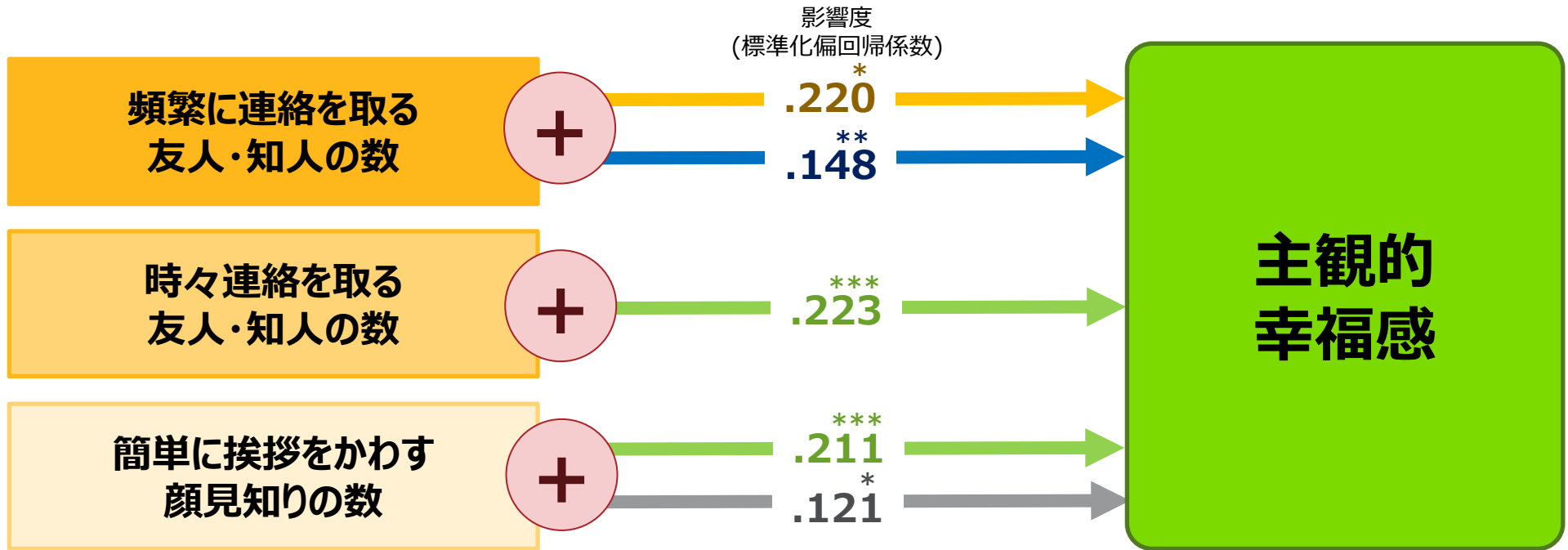
(低)

主観的幸福感 (平均値/pt)

(高)

主観的幸福感に対して友人・知人の数を与える影響をタイプ別に確認した。

趣味満喫タイプや家族支援タイプでは、濃い関係性の友人の数を増やすこと、多拠点生活志向タイプや受動的ワークタイプでは、ゆるい関係性の友人・知人の数を増やすことがウェルビーイングにつながることを示唆される。



多拠点生活志向

趣味満喫

家族支援

受動的ワーク

重回帰分析  
有意水準：\*\*\*:0.1%水準 \*\*:1%水準  
\*:5%水準  
分析対象ベース：多拠点居住者 n=428  
統制変数：性別・年代・雇用形態・業種・  
世帯年収・既婚有無  
調整済みR2 = .205

重回帰分析  
有意水準：\*\*\*:0.1%水準 \*\*:1%水準  
\*:5%水準  
分析対象ベース：多拠点居住者 n=160  
統制変数：性別・年代・雇用形態・業種・  
世帯年収・既婚有無  
調整済みR2 = .216

重回帰分析  
有意水準：\*\*\*:0.1%水準 \*\*:1%水準  
\*:5%水準  
分析対象ベース：多拠点居住者 n=369  
統制変数：性別・年代・雇用形態・業種・  
世帯年収・既婚有無  
調整済みR2 = .078

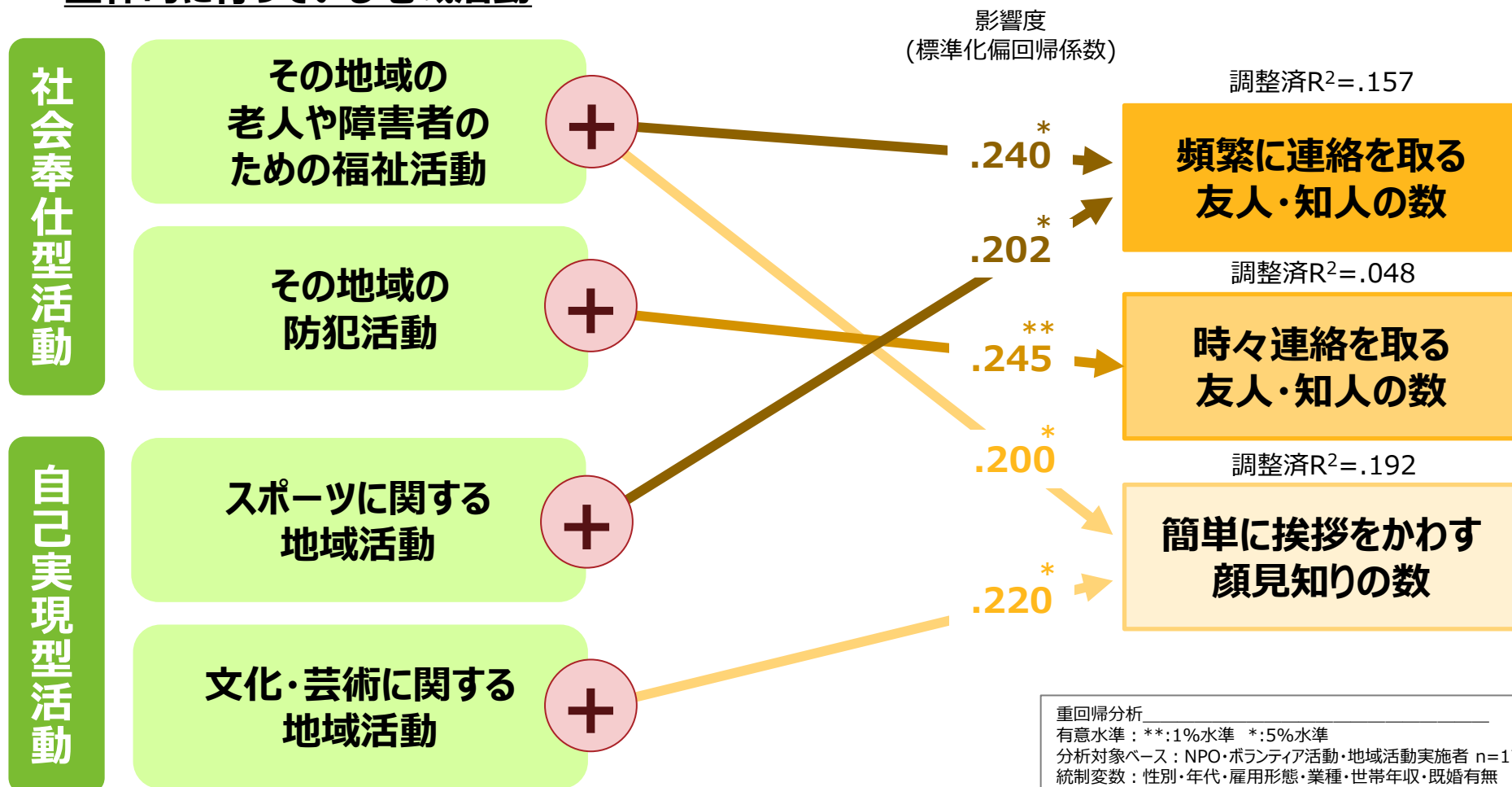
重回帰分析  
有意水準：\*\*\*:0.1%水準 \*\*:1%水準  
\*:5%水準  
分析対象ベース：多拠点居住者 n=442  
統制変数：性別・年代・雇用形態・業種・  
世帯年収・既婚有無  
調整済みR2 = .089

※地域愛着タイプは、いずれの項目も非有意のため割愛



社会奉仕型活動や自己実現型活動に主体的に参加している人ほど、各関係性の友人・知人の数が多い傾向がみられた。

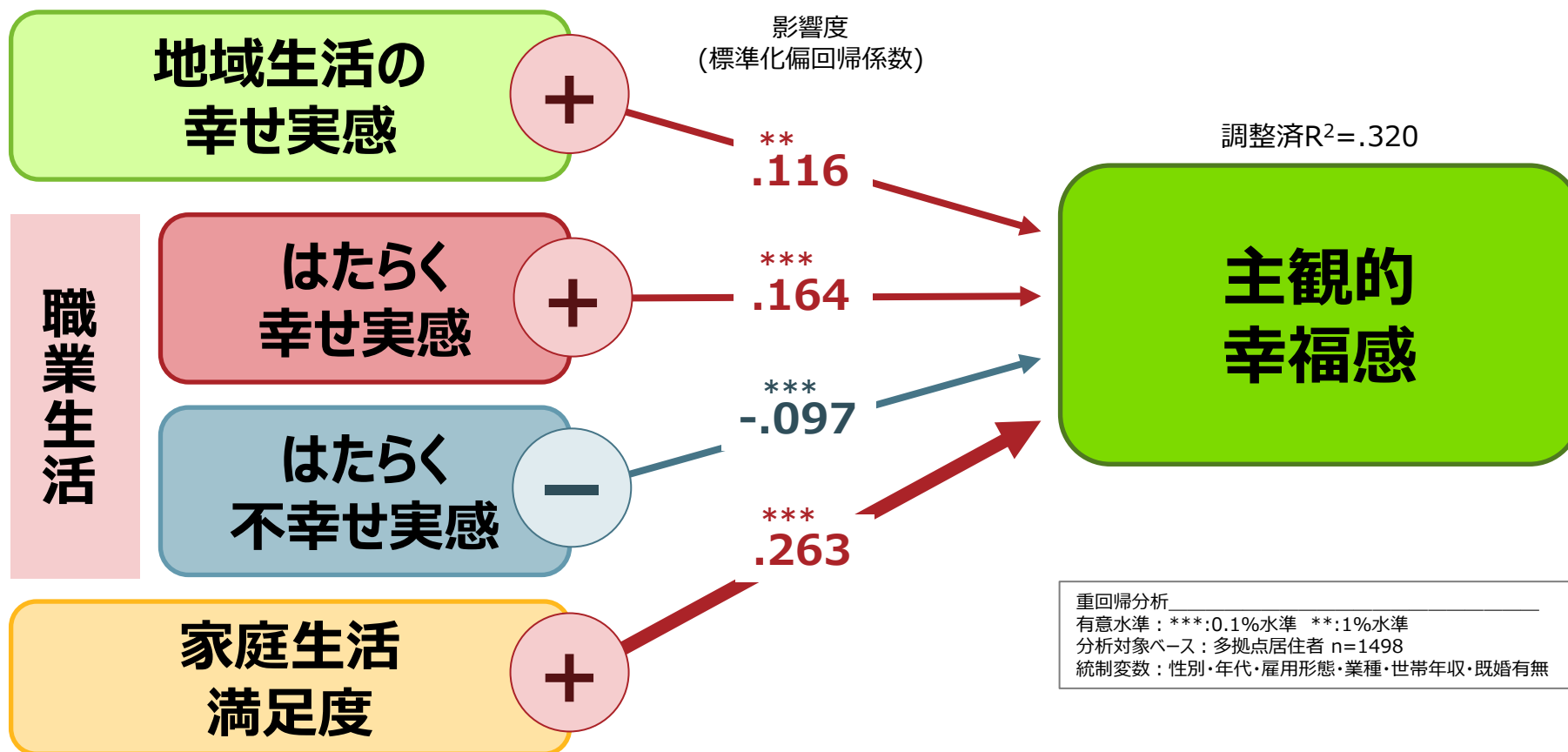
### 主体的に行っている地域活動

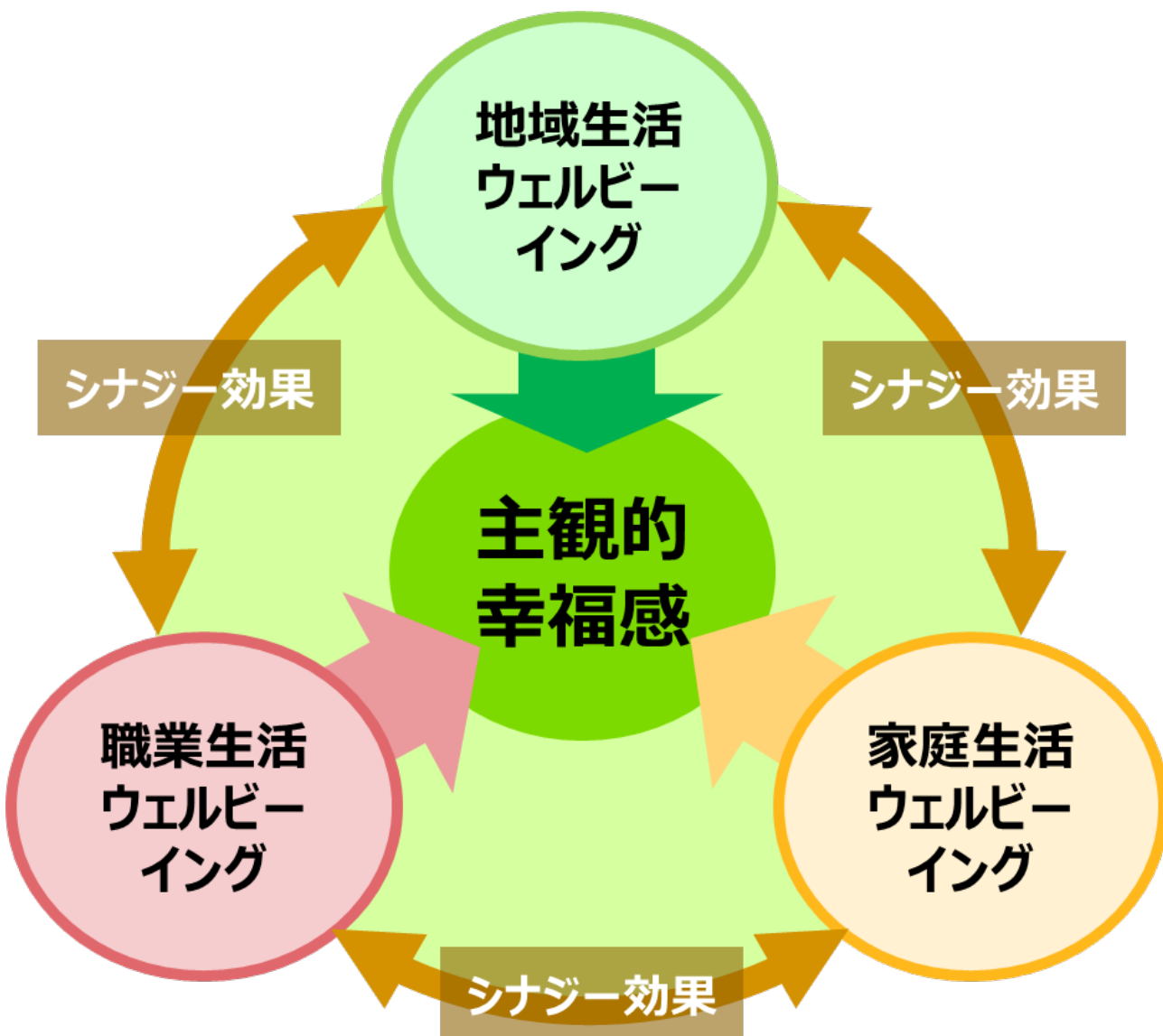


## 【6】多拠点居住者のウェルビーイング因子構造

主観的幸福感に対して、地域生活・職業生活・家庭生活の各ウェルビーイングが影響を与えている。  
特に、家庭生活満足度は影響力が強いことが確認された。

## ウェルビーイング要因





主観的幸福感に対しては、「地域」「仕事」「家庭」の各領域のウェルビーイングに加えて、それらが合わさること  
で生じる「シナジー効果」の  
影響も想定される。  
これらの関係をより具体的に  
みていくために、左図のモデル  
を仮定し、関連する変数を  
CALCに投入し分析した。

CALC分析に投入した変数は以下の通り。

### 地域生活ウェルビーイング 10因子+オリジナル因子

- ・ダイナミズムと誇り
  - ・生活の利便性
  - ・自然の体感
  - ・居住空間の快適さ
  - ・つながりと感謝
  - ・健康状態
  - ・地域との相性
  - ・地域行政への信頼
  - ・生活ルールの無秩序
  - ・過干渉と不寛容
- ・多拠点居住に対する苦難

### はたらく幸せ7因子

自己成長 | リフレッシュ  
チームワーク | 役割認識  
他者承認 | 他者貢献  
自己裁量

### はたらく不幸せ7因子

自己抑圧 | 理不尽  
不快空間 | オーバーワーク  
協調不全 | 疎外感  
評価不満

家庭生活満足度

### シナジー効果

- ・地域生活から仕事へのシナジー
- ・地域生活から家庭へのシナジー
- ・仕事から地域生活へのシナジー
- ・仕事から家庭へのシナジー
- ・家庭から地域生活へのシナジー
- ・家庭から仕事へのシナジー

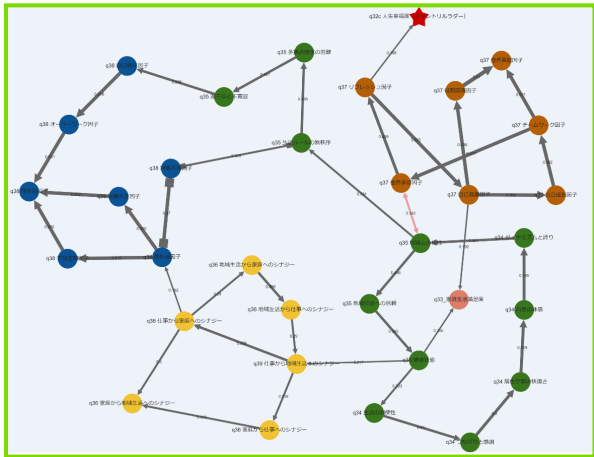
CALC分析結果は以下の通り。

なお、本分析では、各因子の関係性をより精緻に確認するため、第3水準要因までを掲載している。

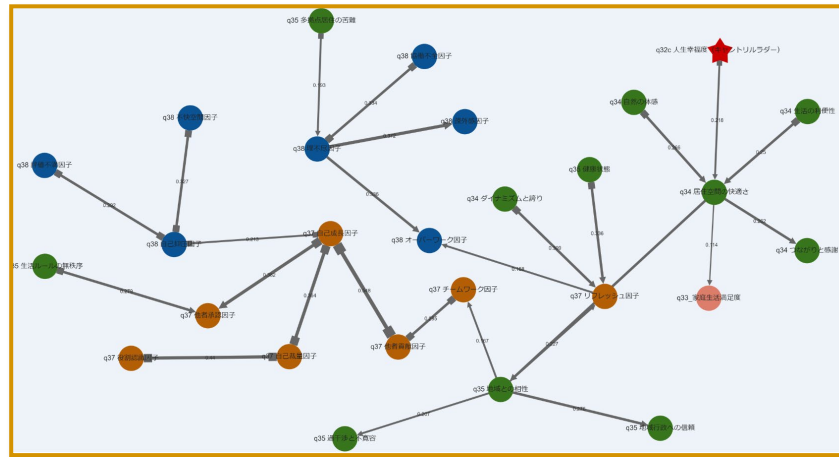
	直接要因	第2水準要因	第3水準要因	媒介要因
多拠点生活志向 【428s】	リフレッシュ (.188)	自己裁量 (.622)	役割認識 (.636) 、自己成長 (.569)	自己裁量 (4)
		他者承認 (.499)	チームワーク (.577) 、地域との相性 (.342)	健康状態 (4)
地域愛着 【99s】	居住空間の快適さ (.218)	地域との相性 (.284)	地域行政への信頼 (.276) 、過干渉と不寛容 (.207)	仕事から地域生活へのシナジー (4)
		自然の体感 (.266)		仕事から家庭へのシナジー (4)
		つながりと感謝 (.262)		疎外感 (4)
		生活の利便性 (.250)		居住空間の快適さ (5)
		家庭生活満足度 (.114)		地域との相性 (4)
趣味満喫 【160s】	評価不満 (.125)	オーバーワーク (.371)	協働不全 (.379) 、疎外感 (.348)	リフレッシュ (4)
				チームワーク (6)
				自己成長 (4)
家族支援 【369s】	家庭生活満足度 (.071)	健康状態 (.101)	多拠点居住の苦難 (.181) 、生活ルールの無秩序 (.181)	理不尽 (4)
				自己抑圧 (4)
				他者貢献 (4)
				ダイナミズムと誇り (4)
受動的ワーク 【442s】	家庭生活満足度 (.156)	健康状態 (.271)	役割認識 (.380) 、地域行政への信頼 (.336)	居住空間の快適さ (4)
		居住空間の快適さ (.249)	生活の利便性 (.437) 、自然の体感 (.343) 、 つながりと感謝 (.323)	

※直接要因・第2水準要因・第3水準要因のカッコ内は相関量。媒介要因のカッコ内は入出力紐帯数。

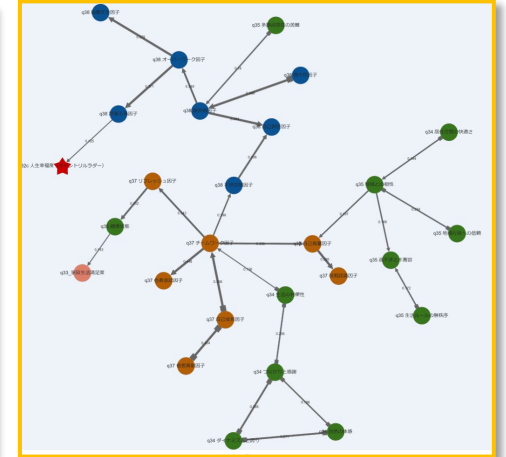
## 多拠点生活志向タイプ



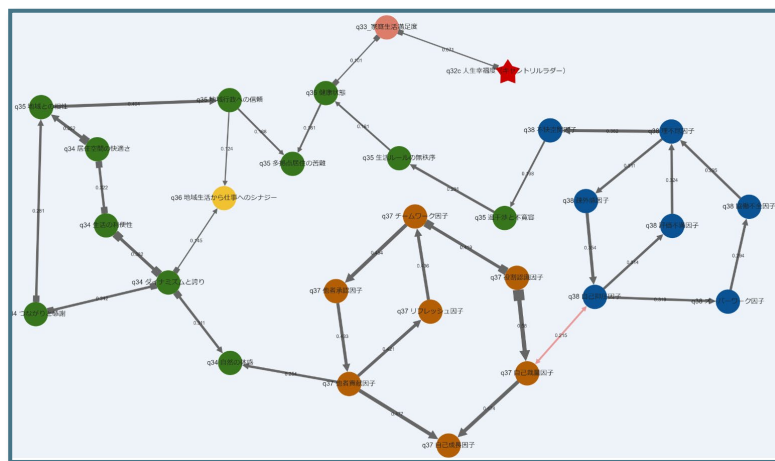
## 地域愛着タイプ



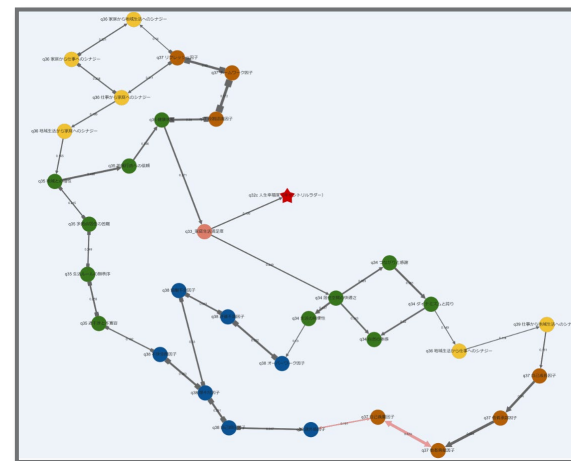
## 趣味満喫タイプ



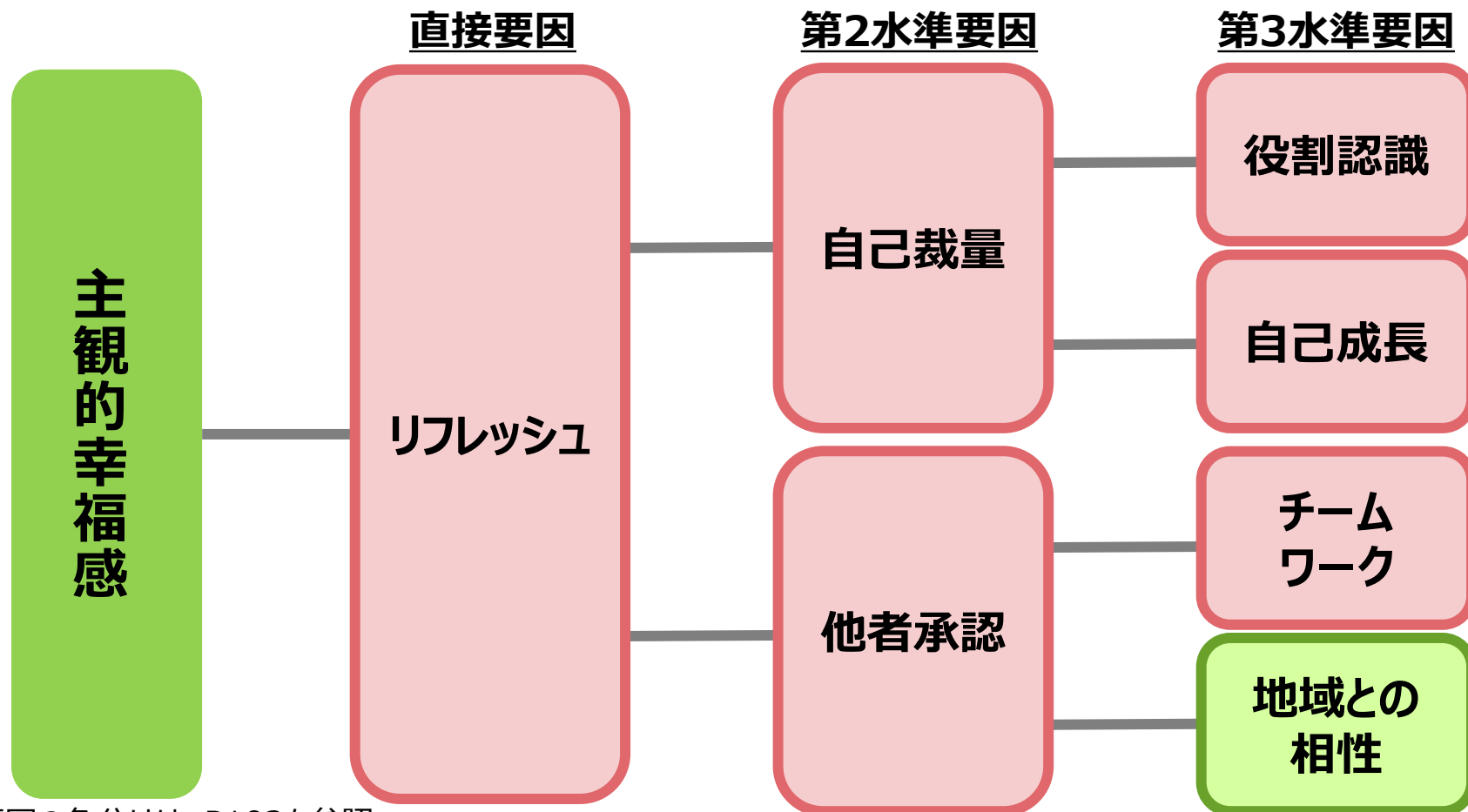
## 家族支援タイプ



## 受動的ワークタイプ

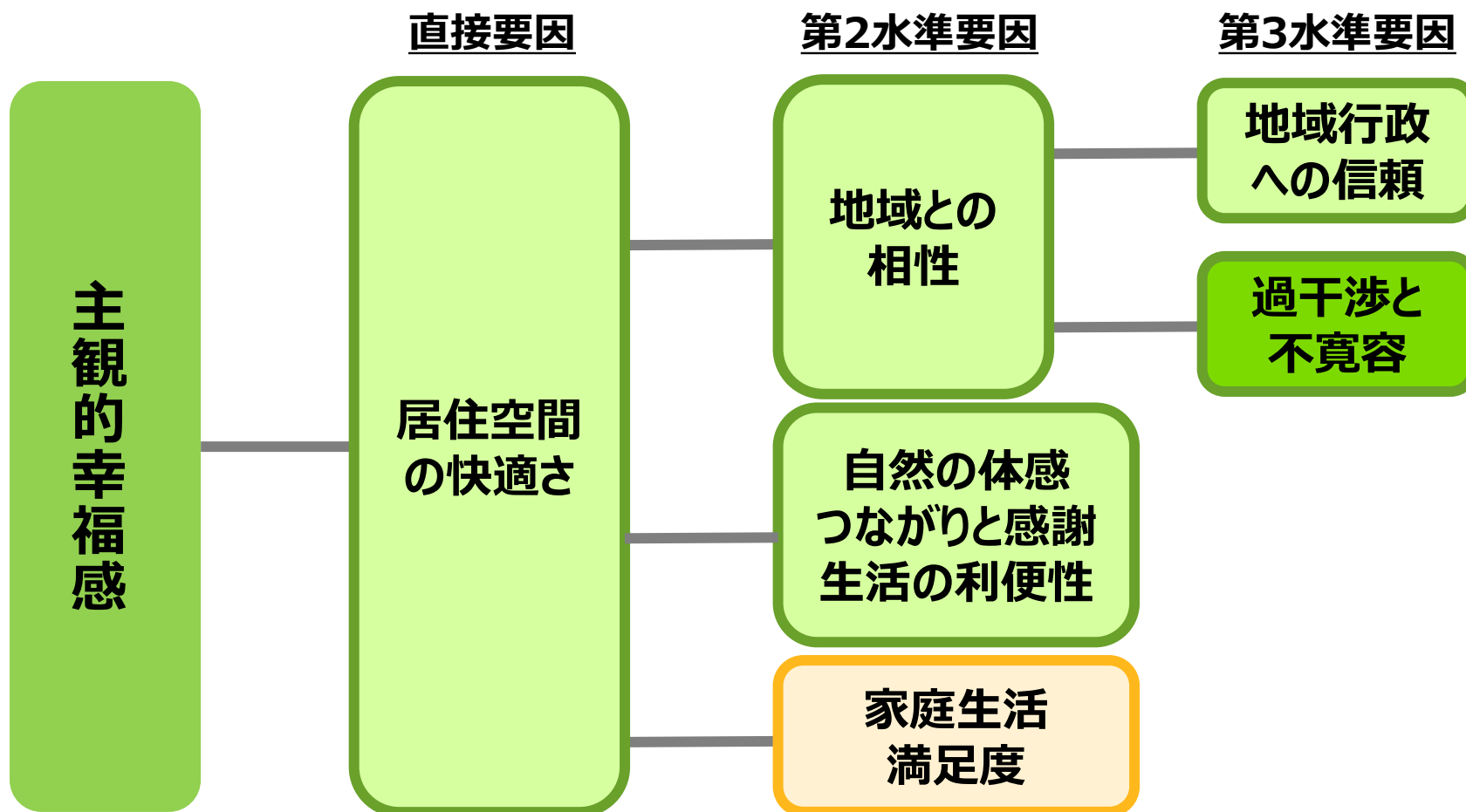


多拠点生活志向タイプでは、主に“はたらく幸せ因子”の影響が確認された。仕事の英気を養えるような状態が前提でありつつ、「マイペースで自発的に仕事に取り組めており、成長につながっている状態」や「地域の仲間とつながりを感じ、認められている状態」が当該タイプの主観的幸福感を高めると考えられる。

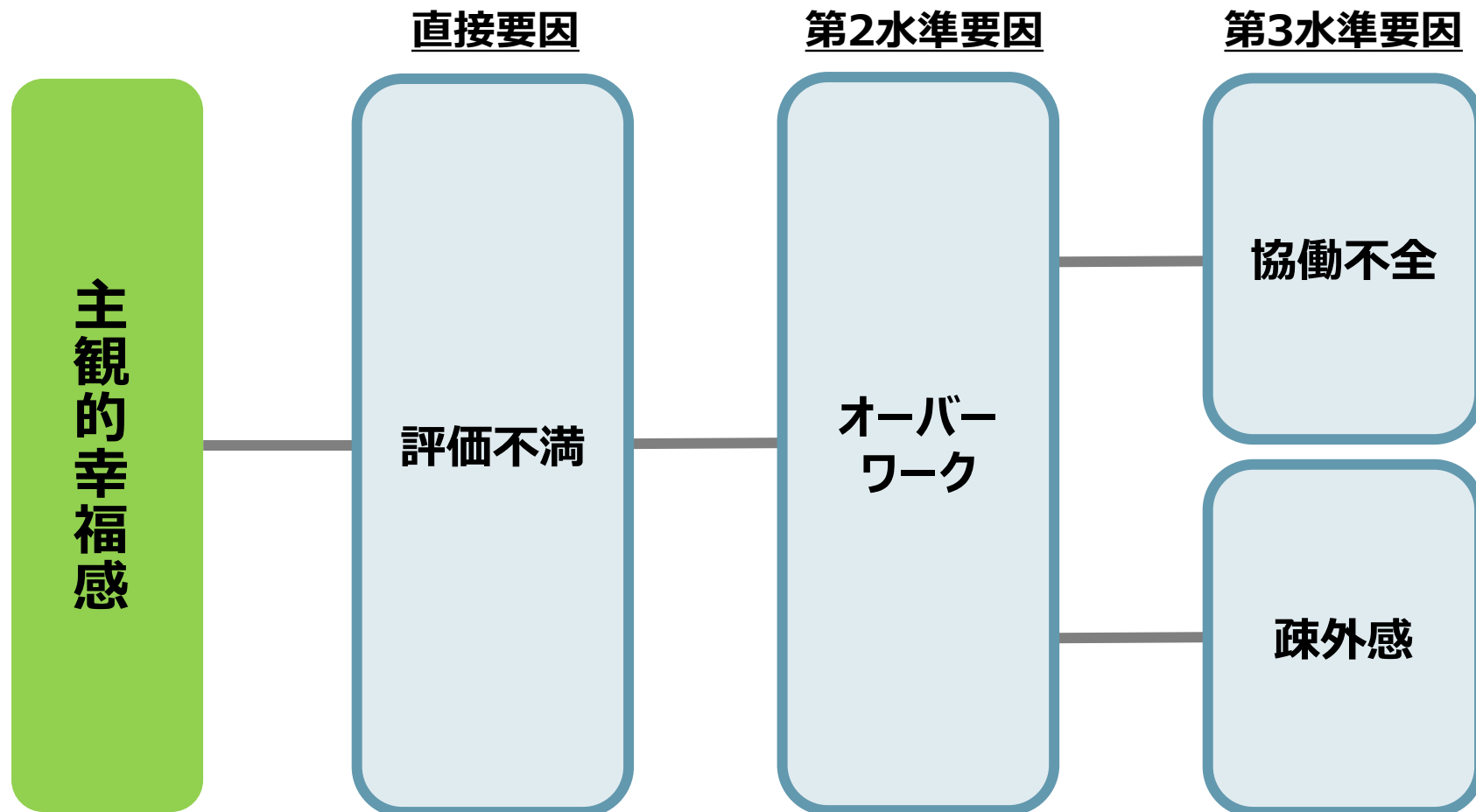




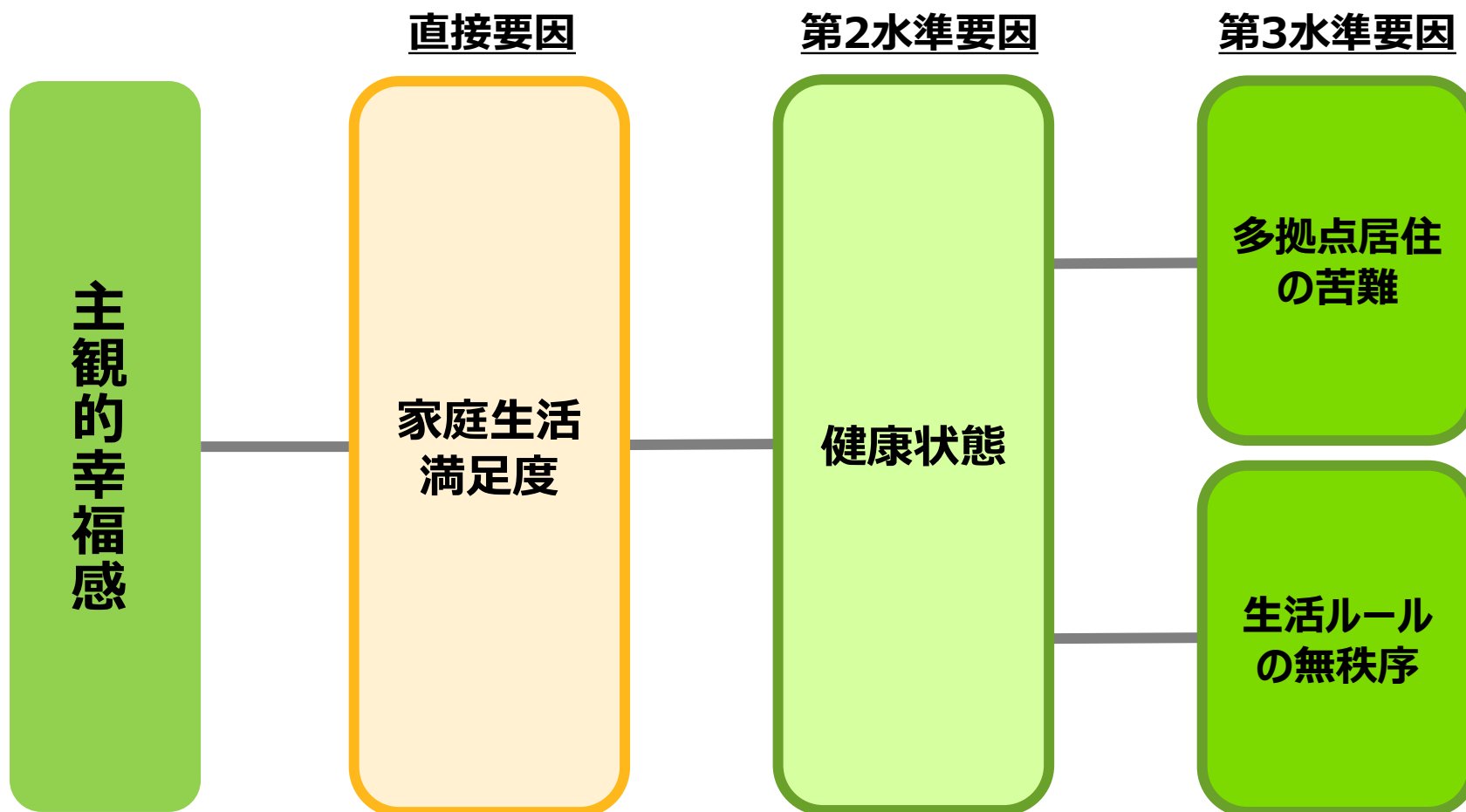
地域愛着タイプでは、主に地域生活ウェルビーイングの影響が確認された。「地域の雰囲気自然豊かで心地よく、地域住民等との関係も良好。日々の生活基盤も整っているため不便もあまり感じない。そのため、その地域で過ごすことを快適に感じられている状態」が当該タイプの主観的幸福感を高めると考えられる。



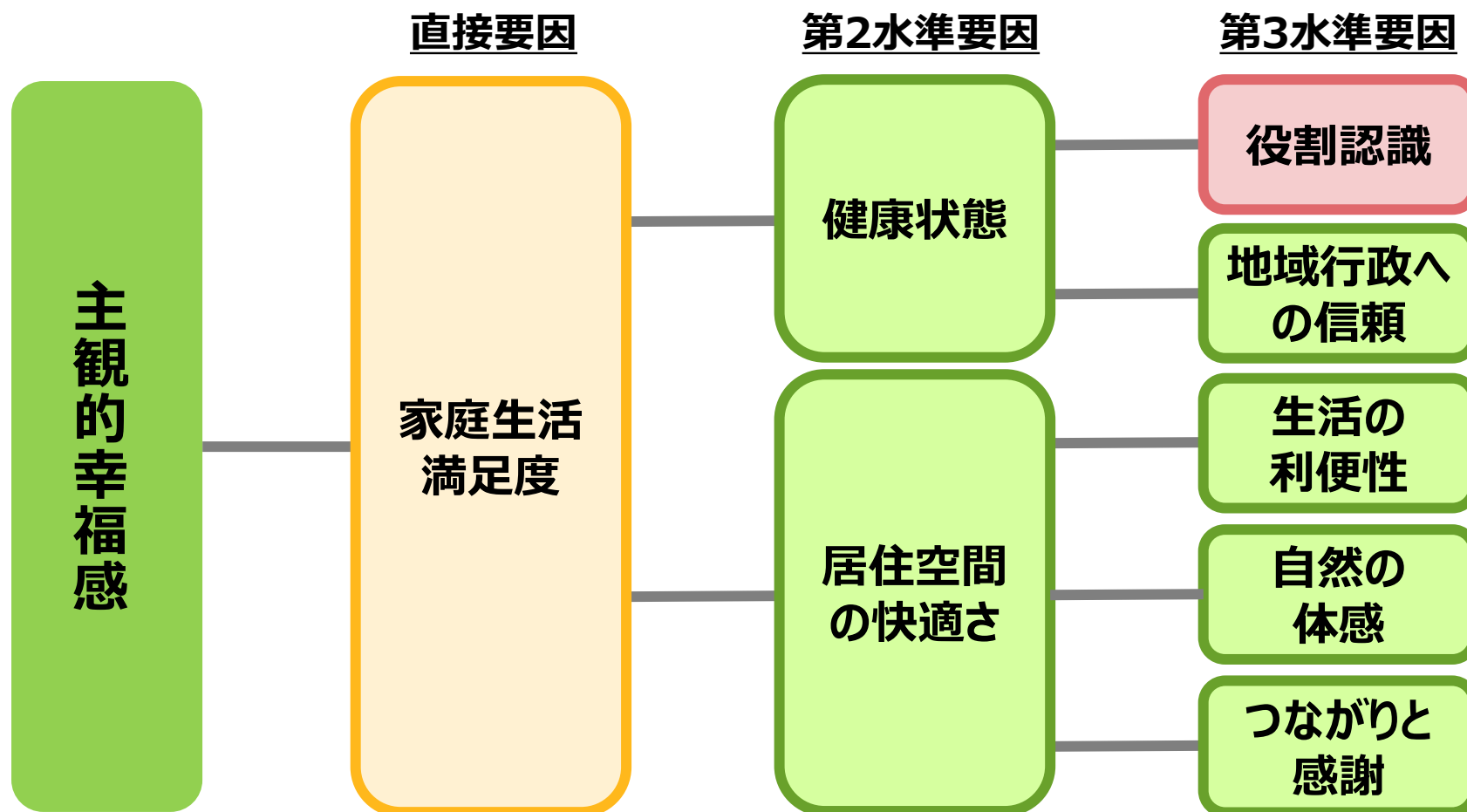
趣味満喫タイプでは、主に“はたらく不幸せ因子”の影響が確認された。「職場内のメンバーが非協力的であるためにオーバーワークに陥っている。それにも関わらず、上司とのすれ違いなどから自分の努力が正当に評価されない状態」が当該タイプの主観的幸福感を低下させると考えられる。



家族支援タイプでは、家庭生活ウェルビーイングとそれに関する地域生活ウェルビーイングの影響が大きいことが確認された。  
「サブ拠点を行き来する苦難や、サブ拠点の地域での生活ルールの乱れ等から健康を害し、家庭生活にも支障をきたす状態」  
が、当該タイプの主観的幸福感を低下させると考えられる。



受動的ワークタイプでは、家庭生活ウェルビーイングと、関連する地域生活ウェルビーイングの影響が大きいことが確認された。「自身の健康が安定している状態」や「地域が自然豊かでありつつも日々の生活基盤が整っている。地域住民等との関係も良好のため、その地域で快適に過ごせている状態」が家庭生活満足度を介して主観的幸福感を高めると考えられる。



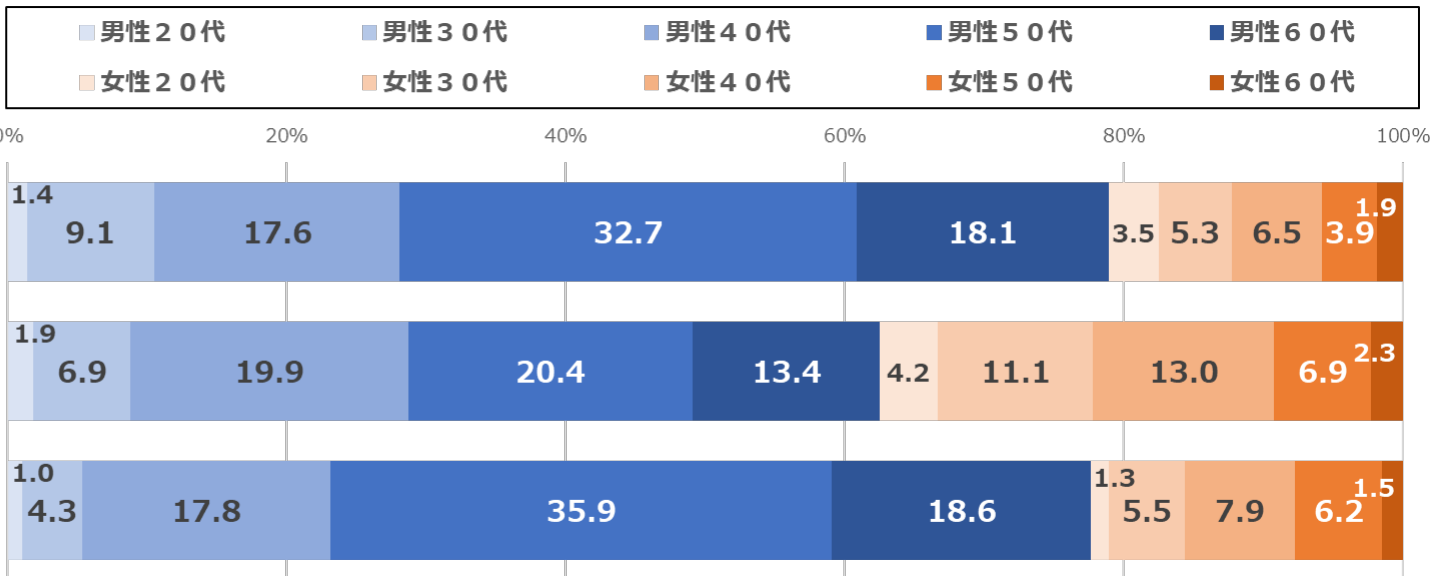
# Appendix.

**パーソル総合研究所**

**シンクタンク本部**

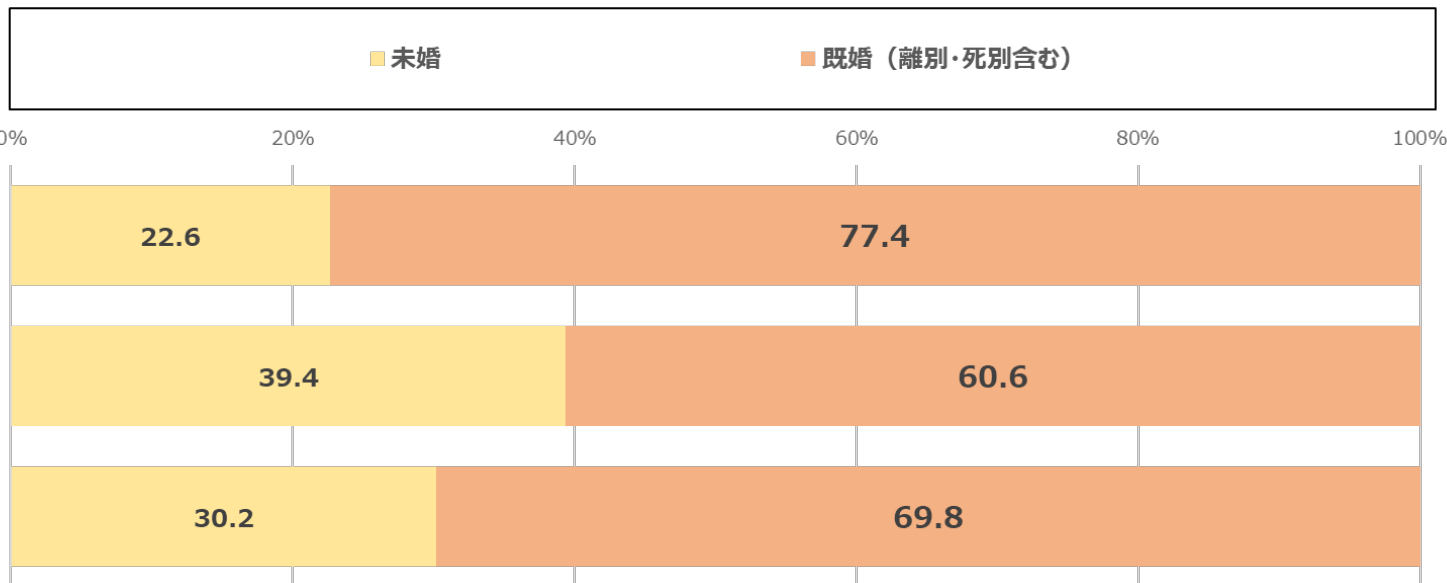
## 性年代

(%) 単数回答



## 既婚有無

(%) 単数回答



## 主な居住地

(%) 単数回答

	札幌市	仙台市	さいたま市	千葉市	東京23区	横浜市	川崎市	相模原市	静岡市	浜松市	名古屋市	大阪市	堺市	京都市	神戸市	広島市	岡山市	福岡市	北九州市	熊本市
多拠点居住者 (1498)	2.5	2.7	2.5	2.3	46.4	8.7	3.3	1.0	1.1	0.9	5.1	8.6	0.7	3.3	2.5	1.8	1.2	3.3	1.1	1.0
多拠点居住計画者 (216)	7.4	3.2	1.9	2.3	40.3	13.9	3.7	1.4	0.0	0.9	3.7	3.7	2.8	2.3	2.8	2.3	1.9	4.6	0.5	0.5
多拠点居住意向者 (786)	4.3	2.5	4.2	2.5	35.2	11.7	4.5	1.9	1.0	0.9	6.1	6.2	0.6	3.9	3.3	2.9	1.0	4.1	1.8	1.1

## 出身地

(%) 単数回答

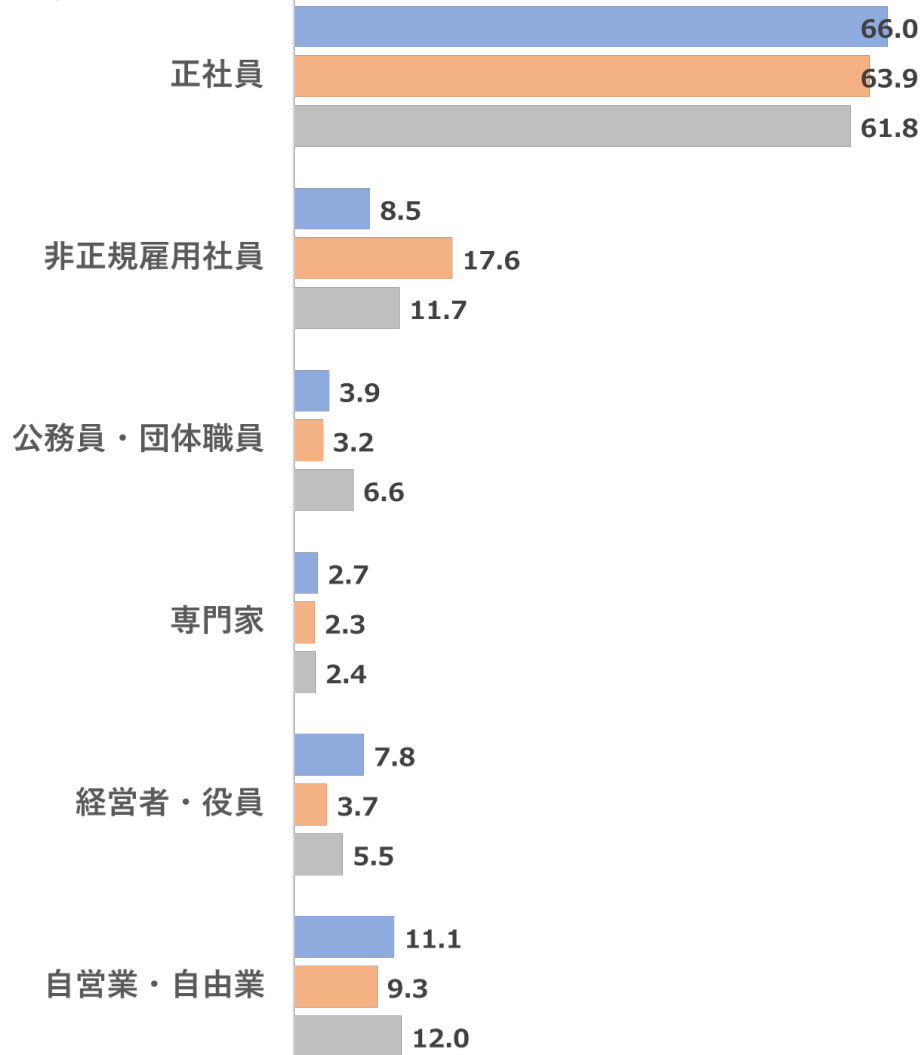
	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京都	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重
多拠点居住者 (1498)	5.3	0.7	1.1	2.1	1.3	0.7	1.2	1.8	1.3	1.7	3.1	5.0	20.0	7.9	1.2	0.5	0.9	0.5	0.6	1.6	1.4	2.7	4.2	1.1
多拠点居住計画者 (216)	8.8	0.5	1.4	3.2	0.5	0.9	0.5	0.5	0.9	0.9	3.2	1.9	28.7	11.6	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.5	1.4	2.3	0.0
多拠点居住意向者 (786)	6.7	1.0	0.4	3.1	0.9	1.0	0.9	1.1	0.9	0.5	4.7	4.2	19.2	10.9	0.9	0.5	0.6	0.4	0.1	1.1	0.6	2.3	6.0	0.6

	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	海外
多拠点居住者 (1498)	0.7	3.1	7.9	4.1	0.7	0.7	0.3	0.4	1.6	2.1	0.5	0.2	0.6	0.9	0.2	3.6	0.3	0.7	1.0	0.7	0.3	0.4	0.6	0.3
多拠点居住計画者 (216)	0.5	4.2	6.5	2.8	0.0	0.0	0.5	0.0	1.4	4.2	0.5	0.0	0.5	0.9	0.0	3.2	0.0	0.5	0.9	0.0	0.0	2.8	0.5	1.9
多拠点居住意向者 (786)	0.5	3.3	5.3	4.3	0.3	0.1	0.8	0.1	0.6	2.7	0.4	0.4	0.6	0.9	0.1	4.8	0.8	0.8	1.8	0.4	0.5	1.0	0.0	0.6

## 雇用形態

■ 多拠点居住者 (n=1498) ■ 多拠点居住計画者 (n=216) ■ 多拠点居住意向者 (n=786)

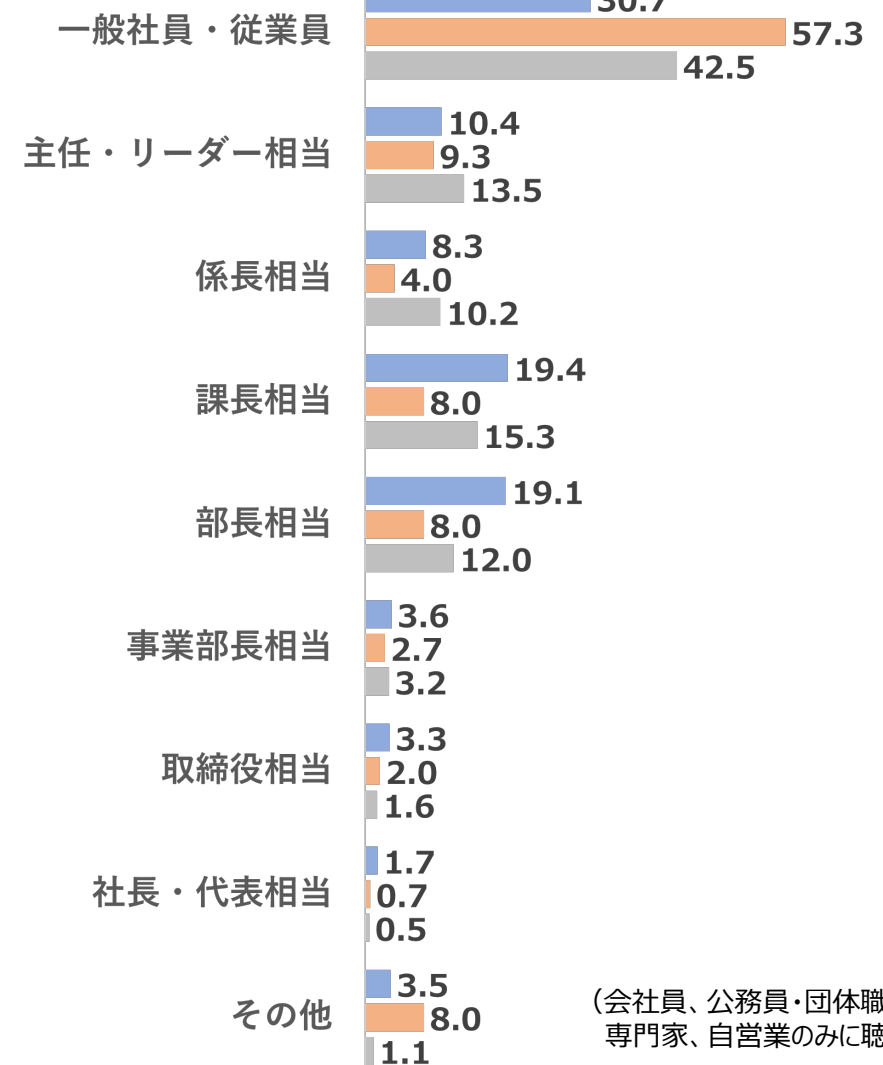
(%) 単数回答



## 職位

■ 多拠点居住者 (n=1087) ■ 多拠点居住計画者 (n=150) ■ 多拠点居住意向者 (n=557)

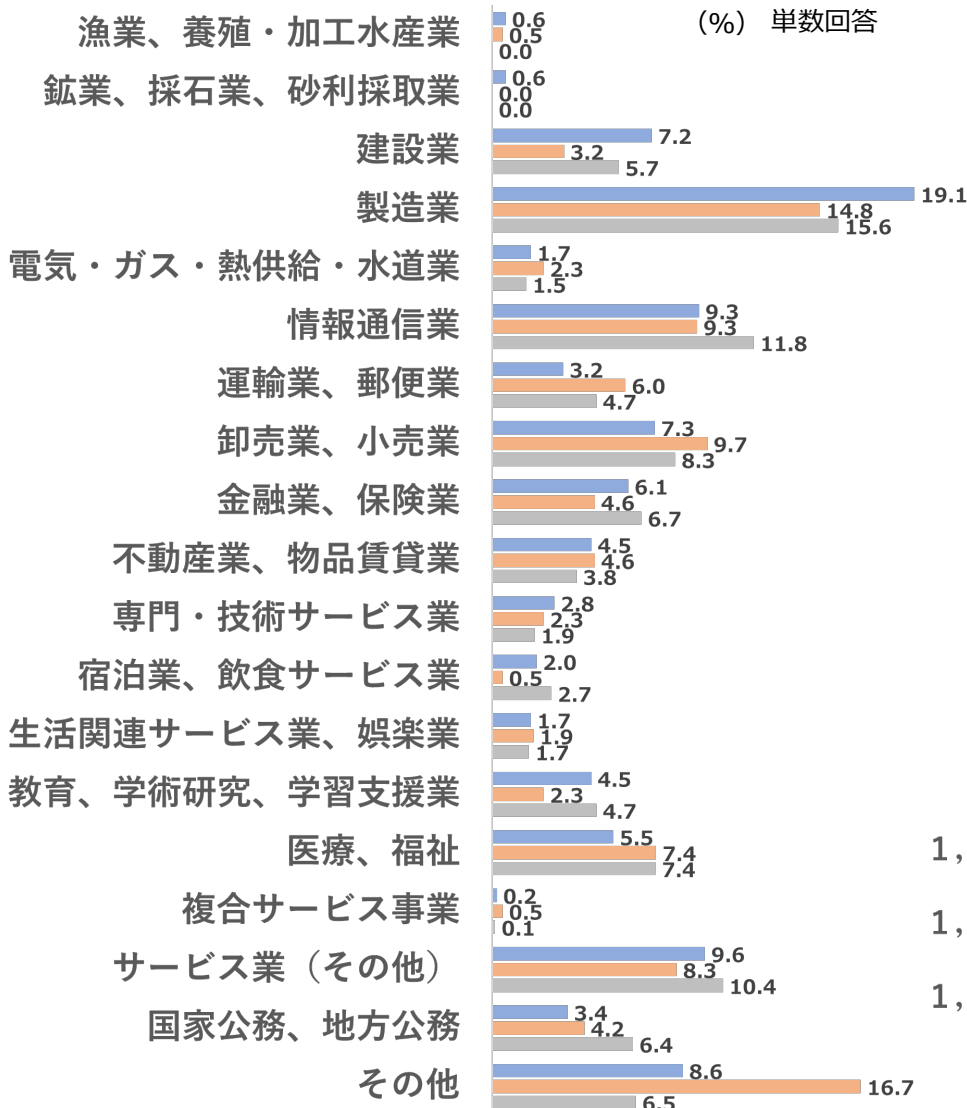
(%) 単数回答

(会社員、公務員・団体職員、  
専門家、自営業のみに聴取)



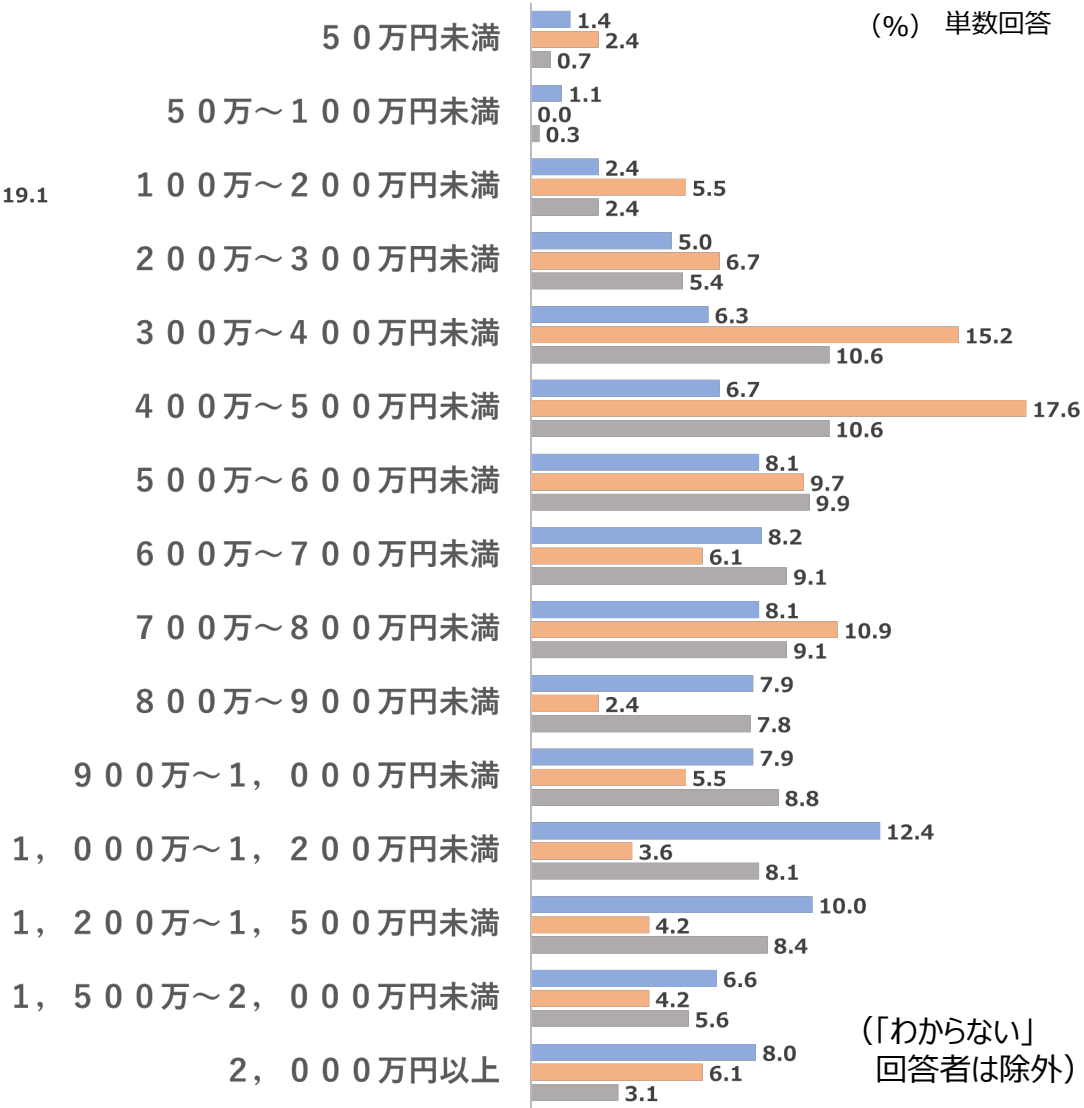
## 現在の業種

■多拠点居住者 (n=1498) ■多拠点居住計画者 (n=216) ■多拠点居住意向者 (n=786)



## 世帯年収

■多拠点居住者 (n=1331) ■多拠点居住計画者 (n=165) ■多拠点居住意向者 (n=679)



（「わからない」回答者は除外）

因子	項目	信頼性 (α係数)
地域から仕事へのシナジー	地域で過ごすことで、知識が得られ、それにより、仕事ができるようになる	0.970
	地域で過ごすことで、さまざまなスキルが身につけられ、それにより、仕事ができるようになる	
	地域で過ごすことで、新しいことについての知識が増え、それにより、仕事ができるようになる	
	地域で過ごすことで、気分がよくなり、それにより、仕事ができるようになる	
	地域で過ごすことで、幸せであると感じられ、それにより、仕事ができるようになる	
	地域で過ごすことで、元気づけられ、それにより、仕事ができるようになる	
	地域で過ごすことで、仕事で無駄な時間を作らないようになり、それにより、仕事ができるようになる	
	地域で過ごすことで、集中して仕事の時間を使うようになり、それにより、仕事ができるようになる	
	地域で過ごすことで、仕事により集中するようになり、それにより、仕事ができるようになる	
地域から家庭へのシナジー	地域で過ごすことで、知識が得られ、それにより、家族のよい一員になれる	0.976
	地域で過ごすことで、さまざまなスキルが身につけられ、それにより、家族のよい一員になれる	
	地域で過ごすことで、新しいことについての知識が増え、それにより、家族のよい一員になれる	
	地域で過ごすことで、気分がよくなり、それにより、家族のよい一員になれる	
	地域で過ごすことで、幸せであると感じられ、それにより、家族のよい一員になれる	
	地域で過ごすことで、元気づけられ、それにより、家族のよい一員になれる	
	地域で過ごすことで、個人的な満足感が得られ、それにより、家族のよい一員になれる	
	地域で過ごすことで、達成感が得られ、それにより、家族のよい一員になれる	
	地域で過ごすことで、成功感が得られ、それにより、家族のよい一員になれる	

因子	項目	信頼性 (α係数)
仕事から地域へのシナジー	仕事をすることで、さまざまな立場を理解できるようになり、それにより、地域のよい一員になれる	0.978
	仕事をすることで、知識が得られ、それにより、地域のよい一員になれる	
	仕事をすることで、さまざまなスキルが身につけられ、それにより、地域のよい一員になれる	
	仕事をすることで、気分が良くなり、それにより、地域のよい一員になれる	
	仕事をすることで、幸せであると感じ、それにより、地域のよい一員になれる	
	仕事をすることで、元気づけられ、それにより、地域のよい一員になれる	
	仕事をすることで、個人的な満足感が得られ、それにより、地域のよい一員になれる	
	仕事をすることで、達成感が得られ、それにより、地域のよい一員になれる	
	仕事をすることで、成功感が得られ、それにより、地域のよい一員になれる	
仕事から家庭へのシナジー	仕事をすることで、さまざまな立場を理解できるようになり、それにより、家族のよい一員になれる	0.981
	仕事をすることで、知識が得られ、それにより、家族のよい一員になれる	
	仕事をすることで、さまざまなスキルが身につけられ、それにより、家族のよい一員になれる	
	仕事をすることで、気分が良くなり、それにより、家族のよい一員になれる	
	仕事をすることで、幸せであると感じ、それにより、家族のよい一員になれる	
	仕事をすることで、元気づけられ、それにより、家族のよい一員になれる	
	仕事をすることで、個人的な満足感が得られ、それにより、家族のよい一員になれる	
	仕事をすることで、達成感が得られ、それにより、家族のよい一員になれる	
	仕事をすることで、成功感が得られ、それにより、家族のよい一員になれる	

因子	項目	信頼性 (α係数)
家庭から仕事へのシナジー	家族と過ごすことで、知識が得られ、それにより、仕事ができるようになる	0.971
	家族と過ごすことで、さまざまなスキルが身につけられ、それにより、仕事ができるようになる	
	家族と過ごすことで、新しいことについての知識が増え、それにより、仕事ができるようになる	
	家族と過ごすことで、気分がよくなり、それにより、仕事ができるようになる	
	家族と過ごすことで、幸せであると感じられ、それにより、仕事ができるようになる	
	家族と過ごすことで、元気づけられ、それにより、仕事ができるようになる	
	家族と過ごすことで、仕事で無駄な時間を作らなくなり、それにより、仕事ができるようになる	
	家族と過ごすことで、集中して仕事の時間を使うようになり、それにより、仕事ができるようになる	
	家族と過ごすことで、仕事により集中するようになり、それにより、仕事ができるようになる	
家庭から地域へのシナジー	家族と過ごすことで、知識が得られ、それにより、地域のよい一員になれる	0.980
	家族と過ごすことで、さまざまなスキルが身につけられ、それにより、地域のよい一員になれる	
	家族と過ごすことで、新しいことについての知識が増え、それにより、地域のよい一員になれる	
	家族と過ごすことで、気分がよくなり、それにより、地域のよい一員になれる	
	家族と過ごすことで、幸せであると感じられ、それにより、地域のよい一員になれる	
	家族と過ごすことで、元気づけられ、それにより、地域のよい一員になれる	
	家族と過ごすことで、個人的な満足感が得られ、それにより、地域のよい一員になれる	
	家族と過ごすことで、達成感が得られ、それにより、地域のよい一員になれる	
	家族と過ごすことで、成功感が得られ、それにより、地域のよい一員になれる	